

ビジネス仙台「FiveBridge」の10年を隠すことなく一挙大公開！

# オトナの部室の ツツケカタ

オトナの部室の  
ツツケカタ

2016年8月11日発行  
発行／NPO法人ファイブブリッジ  
<http://www.five-bridge.jp/>

定価： 本体 1000円 + 税

オトナの部室のツツケカタ



Since 2006  
 **FiveBridge**  
itsudemo, darekato, tsunagareru.

NPO法人ファイブブリッジ



今こそ、『ネオ親戚』の時代へ。

シェアオフィス、コワーキングスペース、交流サロン、  
地域の場と人、NEWS、コミュニティーづくりが気になるあなたに。





# ファイブブリッジが生まれてから 10年を迎えちゃったよ

NPO法人ファイブブリッジ 理事長  
畠山 茂陽

「この場所は、10年後もあたりまえにあるだろうなあ」。2006年6月24日、ファイブブリッジがオープンした日。日替わりマスターバー風のオープンセレモニーが催されていた。カラーボックスを組み合わせて作られた、手づくりのカウンターバーで語らう人々の喧騒からは少し離れたソファで、そんなインスピレーションを感じていた。

仙台市青葉区の五橋界限・北目町にあるHSGビル3階の約20坪、2つの部屋からはじまったファイブブリッジ。その10年後には、1階と4階にも増室し、4つのスペースとなり未だに存在している。

このあいだに、多くの人々が行き交い、集まっては離れていく。喧嘩もあったし、価値観の違いで衝突することもあった。そんな中でもこの場を続けていられるのは、仲間がいるから。こそだろう。それに尽きる。

助成金や補助金を直接にはもらうことなく、自立運営し単年度赤字を出し続けながら、無借金でなんとか運営できていく。専従者がいないからこそでもあるが、「お金があれば使う」「人手がいればやる」。そんな身の丈の運営ビジョンなのではあるが…。

うなものだろうか。老舗のだんご屋ながら、伊達武將隊やら、ジャニーズの某氏のおすすめなどがあり、若い人から年配の方まで幅広い客層に支持され、おなじみさんはもちろん、全国各地から来店する。そんな雰囲気にも近いだろう。

運営スタッフの一人からは、『龍亭』っぽいかもとの声も。冷し中華の発祥店と名乗りながら単店のみでの経営。多店舗せずとも、独自の料理の提供方法で粋を伝え続けている。

予期しなかったことに出会い、その偶然が幸せをもたらすという意味の言葉「セレンディピティー」。私がおこなった好きな言葉のひとつだ。ファイブブリッジは「セレンディピティー」にあふれた場だとも言えるだろう。

ファイブブリッジのシェアオフィスは、人々が集い対流するオープンな空間にあるため、偶然にも仕事につながるなど、「セレンディピティー」な出会いであふれる場だ。自宅風の事務所です仕事をしている方にはうってつけだろう。現在入居中の企業とパートナー連携し合い、ビジネスのウイングを広げ、地域に貢献するプロジェクトづくりをしたい方ならば大歓迎。

果たして、これからのファイブブリッジはどうなるのか? 「ないものはつくるしかない」「新しい概念の親戚づくり」「ネオ親戚」などの言葉で、進むべき道筋を呼び掛けてきた。今後の自立運営はなかなか厳しいはず。

初期メンバーは文字通り成長し、ファイブブリッジに集まらなくても質の高いコミュニティを形成している。それでも、この場が存在することの意義や理念、ビジョンを発信し続けることで、次の世代がまた自由に活用できる「大人の交流部室」に集い、広い見識を身につけ、社会に必要とされ感謝される人材として磨きをかけていって欲しい。

ファイブブリッジのモデルをフランチャイズ化しようなんていう野望はもちろんない。仙台で何かを活動したい人のためには、様々な特性のスペースが多くあった方がいい。それぞれの仕事圏、生活圏域で用途にあったスペースを選択できることは幸せだ。価値観は必然的に違ってくるため、相性が合う場を見つけられる環境を維持してもらいたい。

その中でファイブブリッジは、どんな方向性が似合っているだろうか。例えていえば…あっ、ちょうど五ツ橋通りを挟んで向かい側にある『村上屋餅店』のよ

本書は「オトナの部室のツツケカタ」として、ファイブブリッジに集う人々の等身大で普段着の、背伸びすることのない、いつも通りの言葉を伝えている。この10年間の数多くのプロジェクトから、どんな出会いがあり、何が生まれたのか。ひとつひとつは「おもしろいことを、まずはやってみる」「やりたいことをやり続けてみる」ことから生まれた。その絆が私たちの財産だ。そうした価値を多くの人に知ってもらいたい。

読み進めていくうちに、「なんだか無性に気になるなあ」と感じてしまった人は、ファイブブリッジの運営スタッフに気軽に問い合わせ頂きたい。随時見学会を開いている。

さて、さらなる10年後もファイブブリッジはここにあるだろうか。何はともあれ、続けていくことで新たな出会いが生まれることに意義があるとしたら、私は間違いないはずとここに居続けたいと思う。

2016年7月吉日



## ファイブブリッジとは

集う場所が、NEWSと地域を創る  
～地域活性の源は、人のたまり場から～

文：畠山茂陽

### 札幌の「ビスカフェ」との出会い

きっかけは2004年6月、北海道新聞社の吉村さんとの出会いからだった。当時、札幌駅北口にあった「サッポロ・ビスカフェ」に案内された。新聞社で働く傍らNPO副理事の肩書きを持ち、会社からの業務を超えて、地域のために活動する姿にカルチャーショックを覚えたのだった。目的に対し共感する仲間といつも話し合える拠点があったなら……。宮城・仙台にそうした場所があるか調べていくと、行政主導の施設は時期がくると消滅し、民間有志が中心となり社会的な課題を解決し得るスペースは少ないことがわかった。仙台にも「ビスカフェ」を開設しようと呼びかけた。賛同者が1年程で物件を紹介してきた。仙台市青葉区北目町・五橋地区のビルの一画。それが今の「Five Bridge (ファイブブリッジ)」。オープンにこぎ着けたのは2年後、2006年6月のことだった。

### イッデモ・ダレカト・ツナガレル「大人の部室」

多くの人が「ひとりだけでは束になった活動ができない」などの悩みを抱えている。ファイブブリッジには「現状を変えたい」「地域に貢献したい」構築の支援にもつながっていったのだ。

### 「続けていく」ことが最大の使命

ファイブブリッジに入居する法人が学生と企業をつなぐ事業を行っているため、若い世代が毎年流入し活性化がはかられている。しかし、組織としては10年が経ち、コアメンバーの再構築は今後必要だろう。兼務者による運営では、コミュニティを発展させるパワーが割けず、専従者の存在は積年の夢だ。コワーキングスペースが市内に複数できるなど、ファイブブリッジ「卒業生」の活躍のステージの提案、次世代への文化の伝承をどのように行うかが継続の鍵だ。

### NEWSを生み出すメディアに

ファイブブリッジは、会社や組織の枠組みを超えた、個人のつながりを重視したコミュニティだ。ビジネスだけのつながりでは、相互扶助の精神は生まれにくい。地域防災の観点からも、コミュニティの重要性を強く訴え、次の3点を最後に提案したい。

ひとつ目は、「会社と自宅の間に、もうひとつの居場所を見出すこと」だ。これは、私たちが今すぐできることだろう。ふたつ目は、「約2割の時間を地域のためのいいこと」に取り組むこと。

## オトナの部室は、こうしてツツケラレテイル！

「と考える人が集まってくる。「想いを共有し、自然に「マッチング」がはかられ、「人間的なスキルアップ」に直結する拠点。『イッデモ・ダレカト・ツナガレル「居場所」機能としての、コミュニティが必要とされていることを実感している。」

ファイブブリッジのコンセプトは、「大人の部室」。地域の課題解決に必要とされるプラットフォームを目指し10年を迎える。新たな産業の芽となる人材の育成や様々なリソースを持つ人材が繋がることによって、通常の枠組みでは構築できないプロジェクトに挑戦する環境を生み出してきた。

ファイブブリッジに集うメンバーは、事業で大きな利益を目指すよりも、社会的意義がある仕事をしたと考える人が多い。「たとえ事業に失敗してもここに戻ってくれば温かく迎え入れてくれる。親戚みたいな距離感で接しているから」との声を聞いた。無目的に集うことの意義を伝え、「新しい概念の親戚(ネオ親戚)づくり」という価値観を提唱している。

### 助成金に頼らない自立運営モデル

ファイブブリッジの理事メンバーは全員兼業で無報酬だ。人件費をかけないこともあり、これまでにより、自分の人生も豊かになり、活動で得られた人脈を財産に、地域の生活者としての存在理由(レゾンデートル)が広がることだろう。3つ目は、「人との絆で解決する世の中に」。身近な人に対する愛情が、豊かな地域を創るはじめの一歩だと思っただ。

どんなに社会環境が変わっていかうとしても変わらないものは何か……。それは「地域に生きる人」。地域のために発信する人が集う場が、NEWSを創り出すメディアとなり得る。ファイブブリッジを通じて、情報の発信源となり、地域に生きる人の価値を創造する場をコーディネートし続けていきたい。



たまり場に人が集うことで、新しいNEWSが生まれる。

ではほぼ単年度赤字で切り盛りしている。余力がある範囲内で施設を整備し、安定維持をはかっている。8階建てのビルの1:3:4階、約20坪のスペースを4室借り、7つの法人が入居。シェアオフィスで年間収入の約7割を獲得し、会議室利用料、セミナー参加費、会費により助成金に頼らない運営を行っている。

恒常的な活動拠点を確保することにより、活動のアクティビティが充実。相互連携の拡大が図りやすく、フランクな連携・交流の場となっている。「誰かが、イッデモ、いる。どこかで、ダレカがツナガル。そして、ビジネスや夢を、生む」。そんなサイクルがファイブブリッジコミュニティの強みなのだろう。

### 災害時にも活かされるリースペース

ファイブブリッジに集う人々は、行政マン、マスコミ人、起業家、フリーランス、学生やOL。特に農家や漁業者などの生産者や食品製造に携わる者が多い。突飛なアイデアも、自由な発想で形にする風土がある。中でも、各自がフリーテーマで伝えたいことを発信する「ブログロックフェスティバル」は毎年開催。近隣の公園に作り出したお祭り「イツフェス」を10年応援するなど、その他各種サークルが今でも続いている。

震災時には、生活復旧のためのボランティアスタッフの拠点として活用された。「たまり場」に

# 「お手伝い」のスゝメ ◆ 赤淵利恵



「特別なことなんてできないし、自己表現も苦手」「面白い出会いは増やしたいし暇な時間を埋めたい」のあなたに。  
誰にでもできる「お手伝いさん」をしてみませんか。いわゆる「ボランティア」でしょって？まあそうですね、より身近な関係性の中でしっくりくる響きだと思っ、この言葉をオススメしたいと思います。

さて、「お手伝いさん」の始め方は簡単、「何でも手伝います」と自己紹介の場で言ってみるだけです。会話のきっかけにもなれるし後に覚えていて声をかけてくださる方もいます。

言われて「お手伝いを始めたところ、店主が当日持ち込む食材でおつまみ料理を作ることになり、食のブロなお客が多いことを知って憚りたりしつつも、堂々と家庭の味を提供できてしまう度胸を身に付けたり。なおその後は、食材の繋がりに地域で丁寧な暮らしをする生産者さんに会いに行けるツアーというご褒美を貰えたりしたとのこと。

やがて、食や仕事も含め「地域」に楽しく取り組む方々に刺激を受けてお手伝いしますと言いつけたら、気がついたら出会えた人や場所や食物、体験、思考の広がりや手伝いを始める前とは雲泥の差に。手伝うこちらが感謝したくなるようなお楽しみになったのだそうです。

【抜粋してみると】千葉・コルトンプラザ（宮城つくりびと産直

市）、東京栄養食糧専門学校、丸の内ビル（ごさいん宮城）、東北ろっけんパーク、地産地消市場、岩出山ほっかぶり市、京都・和束町（茶源郷まつり）、海と大地のおくりもの等々。むすび丸の具になれたりもして！

もちろん「無理なくやれることをきっちりやる」でOK。大変な時もあるけど意外な事で経験が役に立つなど過去の自分と向き合うこともできます。

頭金も手数料も要りません。もし今使える時間があれば来年の今頃には充実感UPしていること間違いナシ。これはチャンスですからお見逃しなく！

お申し込み、お問い合わせは何はともあれファイブブリッジまで！以上、夢の通販風にお届けしました。

## PROFILE | 赤淵 利恵 (あかぶち りえ)



NPO 法人ファイブブリッジスタッフ（月イチ図書室オノマトベ担当）  
岩手県雫石町出身の雫石あねっ。1981年生まれ。  
不來方高校（フランス語コース）→盛岡情報ビジネス専門学校ビジネスコース卒。  
2010年まで語学スクール、2011年から飲料メーカー勤務。2010年の夏頃から「食卓のココロ」はたコミュニケーションティストラン」にクルーとして参加。震災時に心折れずに過ごせたのはこの時期に出会った方々から助けをもらい、人や地域、食と関わる大切さを学んだから。いつかは自らも伝えられる人になるべく、今はお手伝いさん活動中。  
趣味はヘタ絵。描く時は「おいしいはしあわせアーティスト」  
日々を過ごす上で大切にしたい言葉は、「おいしいはしあわせ」「無財の七施」「やらない善よりやる偽善」。

Tell Me What You See



## 第1章

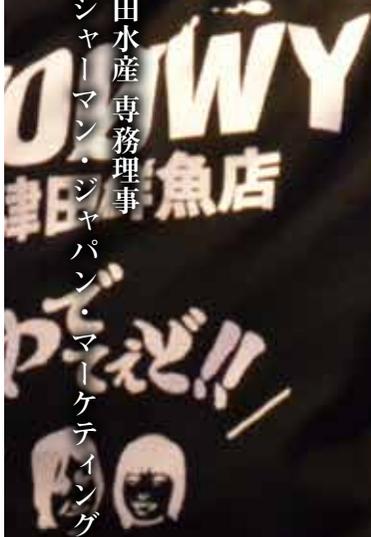
# トップランナー クロストーク

オトナの部室から世界に飛躍した求道者と  
ファイブブリッジスタッフとの回想録

# 津田祐樹

YUKI TSUDA

株式会社石巻津田水産専務理事  
株式会社フィッシュヤーマン・ジャパン・マーケティング COO



### 用語解説など...

**宮城大学**  
1997年設置の公立大学。初代学長を野田一夫氏が務めるなど注目を集めた。ファイブブリッジ関係者にも卒業生は多い。

**デュナミス**  
一般社団法人ワカツクの母体となった会社。元々宮城大学内のベンチャーサークルとしてスタートした。

## カリスマ「一馬さん」と宮城大の人々

**津田** 津田くんと初めてお会いしたのはいつでしたっけ？

**津田** うーん、うーん、全く覚えてないですね。

**渡辺** 確かに私も覚えてないかも(笑)。同じ宮城大学事業構想学部出身ですよ。

私は1期生でしたが津田くんは？

**津田** 確か5期生かな。実は、入りたくて入ったところじゃなかったから、あまり大学は好きじゃなかったっすね。

**渡辺** 大和キャンパスとかでは会わなかったかなあ…。

**津田** あっ、そーいえば、1年の時、「デュナミス」が新入生を執拗に(笑)勧誘をしていたのは覚えてますね。

失礼ながらなんか得体の知れない団体だなあ、っていう印象でした。その時から、一馬さんはカリスマ。1期生としての大学発ベンチャーとしてレジエンド扱いされてましたよ。

**渡辺** 姿は見えども名前は聞く。私は妖怪のような扱いですね(笑)。

**津田** 1年の前期だけ授業に出て、ほとんどの科目で「優」をもらったので、「この学校で学ぶものは、もう何もない」と大学への関心が途端になくなってしまったんですよね。

1年の後半は、宮城大の学生メンバーが『AER(アエル)』に雑貨店を出していて、店員をやっていたね。

**渡辺** ショップありましたね。店名は「HtoH(エイチ・トゥー・エイチ)」でしたっけ？ 商品管理から店の運営まですべて、スタッフの

学生だけで手掛けていましたよね。

**津田** 2000年4月にオープンして、約1年間で閉店しちゃいましたけど。

**渡辺** そうでしたね。それで話を戻すと、出会ったのは、いつ頃でしたっけ？

**津田** あの頃は、こちらも学生だけでやっていたので、一馬さんの存在を知りつつも、ちょっとしたライバル心からあまり近づかないようにしてたかもしれないですね。

**渡辺** そうでしたか。その頃は、どんな人と一緒にいましたか？

**津田** 大学自体はつまらない場所だったけど、変な人はいっぱいいました。学年の1つ上には、今やマザーズに上場した「LITTA LICO」の佐藤崇弘さんもいましたし、「学割net」の茂木さんや高山さんと

か。あの若新雄純(P16)の対談に登場)はなんと2つ下なんですよ。

**渡辺** いやあ、すごい世代ですね。

**津田** 大学3、4年の頃は、東北大学院生の石井力重さん(現「アイデアプラント」)さんや竹井智宏さん(現「MAKOTO」)の「MMJ」(都の都の情報共有会)で大学を横串につなぐ連携交流会なんかに参加してました。

**渡辺** 精力的ですね。

**津田** 大学の頃から面倒みてもらっていた菅原千稲さんが代表だった仙台モーターカルヤ、管理栄養士の大河内裕子さんや「おっかあ」こと早坂久美さんもいた「SLABO」(仙台インターネット推進研究会)にも顔を出していましたね。仙台モーターカルの懇親会で、はじめて畠山さん(ファイブブリッジ理事長)に会っ

たかと。確か「地雷也」でした。産業支援関係で顔見知りだった山崎賢治さん(宮城県庁、NPO法人ハーベスト代表理事)にも誘われて、出

来たてのファイブブリッジに行きました。手づくりのカウンターで語り合い、飲みすぎて翌日は二日酔いでしたよ。ランニングシャツ姿でチェキ写真に撮られました。

**渡辺** 2006年7月頃ですかね。そういえば、中央郵便局で鮮魚を販売していましたよね？

## 五橋との縁は、郵便局への出店

**津田** その後、すぐです。夏が過ぎた9月スタート。仙台中央郵便局内に魚屋と八百屋ができました。石巻の実家の「津田鮮魚店」の魚を卸売りしていました。五橋に縁が生まれ

たのはこれがきっかけです。

**渡辺** 画期的なニュースでしたよね。自分もよく買いに行きました。

**津田** ありがとうございます。でも続けていくことには限界を感じていたので、並行して五橋に物件を探していました。半年で郵便局での販売は終了し、2007年5月に五橋に「三陸おさかな倶楽部」が誕生しました。

**渡辺** 展開が早かったですよね。事業には勝算はあったの？

**津田** 五橋界限は、「森トラスト」やマンション建設がはじまってましたからね。間違いなく人口は増えるはずだと。何よりも、郵便局でのお客様に「この辺りは、いい食材を置いているスーパーが意外に少なくて、不便なのよね」という話を聞いていましたから。

**地雷也**  
国分町2丁目にある郷土料理と炉端のお店。予算はなかなかのもの。

**NPO法人ハーベスト**  
高校生・大学生向けのキャリア教育を行う。設立当初ファイブブリッジのシェアオフィスに入居していた。



一般社団法人ワカツク代表理事  
NPO法人ファイブブリッジ監事

# 渡辺一馬

KAZUMA WATANABE



「おさかな王子」の呼び名が似合う、三陸の海での津田さん。

が良かったんですよ。

**渡辺** それが、現在の「イツフェス」につながるの。

**津田** リコーやゼロックス、河北新報社、近隣の方々との五橋公園のゴミ拾いが原点ですね。2007年の8月のことでした。同世代の間もまだ若かったですから、いろいろとできました。

**渡辺** ブログロックにも仕事を終えてから合流してましたよね。

**津田** ちょうど畠山さんがまだ東京にいる時期にファイブリッジのNPO化の話が出て、良くみんな話合っていました。2坪ほどの酒場なのになぜか路上をはみ出して10人以上の人で夜な夜な賑わってしまっ「ファンキーチキン」さんや、五橋と言えはやっぱり「周平」さんとかだね。話といっても大半は恋バナでしたけど（笑）。

**渡辺** 荒町でもおもしろいことやっていましたよね？

**津田** おー、「居酒屋三陸おさかな倶楽部」っす。「森民酒造」の森社長とのつながりは、酒の会をファイブリッジで開いていた「フィールド&ネットワーク」の大草さんから

魚の注文を受けたことがきっかけなんです。いやあ、森社長、変態オーラ出しまくってました（笑）。

**渡辺** ガハハ。

**津田** この荒町での居酒屋は、これまで最大級の企画でした。つながりがつなかりを生んで、さまざまな事件がありました。あつ、いろは横丁での出来事はオフレコで…。

**渡辺** はい、それはこの本では一切触れません（苦笑）。話を覚えて「ワカク」とのつながりは何かありましたか？

**津田** うーんと、あつ、これまた「イツフェス」での伝説となった「チェルノブイリ」事件の発端、「三陸おさかな倶楽部」の学生インタビュー佐々木くんですね。いつのまにやら、彼も結婚しました。披露宴では、あの歌はさすがにやりませんでした（笑）。

### 「王子」も今や「おじさん」

**渡辺** ファイブリッジ界隈で「おさかな王子」と呼ばれはじめたのは？

**津田** ハンカチ王子のブレイク後、

めなところも知り尽くしていますからね。東京・中野に直営店も出ますので「フィッシャーマンジャパンマーケティング」への支援をこれまで以上にお願います。

### 強いハートを持ち ステップアップを

**渡辺** これからのファイブリッジに期待したいところは？

**津田** ファイブリッジでは、ゆるいコミュニティの大切さに助けられました。ただ、各人のミッションが明確になってきた場合には、よりステップアップした場に進化して欲しいと思います。活動のアウトプットが必要でしょうし、成長したメンバーが活躍するシーンなどももっとコーディネートしてみたい？

**渡辺** うんうん。では、最後の質問！次世代の若者にエールを送ってください。

**津田** 今の学生は、能力は昔も今も変わらないながらも、やっぱり覇気がないな。心の持ちようなので、ハートを強く前に進んで欲しい。そして、恐縮ながら一馬さんにもエー



荒町を席巻した週末居酒屋「三陸おさかな倶楽部」

### 用語解説など

イツフェス  
40ページを参照。

ファンキーチキン  
店長は現在福岡1丁目に移転し「18キッド」営業中。跡地には周平系列の「ペーベルBar北目くん」がオープン。

周平  
五橋エリアと榴岡2丁目  
に計4店舗を展開する人気の居酒屋。

チェルノブイリ  
THE BLUE HEARTSの反原発ソング。  
佐々木くんが熱唱したがイツフェスではなぜか多くの人の時間が止まった様子。

森民酒造  
111ページを参照。

世界はやエキスポin石巻  
42ページを参照。

フィッシャーマンジャパン  
三陸の若い漁師や魚屋が集い、様々な事業展開をしている。

### PROFILE | 津田 祐樹 (つだ ゆうき)



宮城県石巻市出身。1981年生まれ。石巻高校、宮城大卒。浪人するも志望大学に落ちた強烈な劣等感から、起業家として生きていくことを決意。イノベーションを追い求め、調子に乗ってベンチャー企業を起こすも、騙され倒産。路頭に迷い、しょうがなく家業の魚屋を手伝うことになるが、東日本大震災が起こり家業も被災。壊滅した故郷、水産業を目の当たりにし、自分が生まれてきた意味を問う。思い悩んだ末、勝手に使命感を感じ、水産業を通して故郷を復興させることを決意。現在は家業の魚屋に加え、宮城県内の若手漁師、魚屋らと気鋭の漁業団体フィッシャーマン・ジャパンを結成し、宮城から水産イノベーションを起こすべく奮闘中。

ビジネスマンデーの「食ひとサロン」に参加したあたりから、みんなが呼びはじめましたかね。今では2児の父親なので「おさかなおじさん」です。

**渡辺** 「おさかなおじさん」(笑)。津田くんらしい突き抜けた企画力の頂点は、2010年7月の「世界はやエキスポin石巻」でしょうか。

話は飛びますが、震災後の事を教えて頂けますか？

**津田** 石巻の「津田鮮魚店」が被災して、全て吹っ飛びました。泥かきからはじまり、再建のためにまさに東奔西走。「セキユリテ被災地応援ファンド」に参加し、飲食店への卸売業も拡大し、結婚し、石巻に拠点を持ち、そして今。激動、怒涛の時代でしたね。まずは自分のことで精いっぱいでした。

**渡辺** そして、「フィッシャーマンジャパン」。

**津田** はい、石巻から全国へ。石巻から世界へ。輸出管理やら何やらまで実質一人で行っていたので、海外貿易の経験を持つ土合がパートナーとして戻ってきたのは心強いですね。どちらのいいところ、だ

ファイブリッジ3階のスペースは、かつて「アースブリッジ」「サウスブリッジ」と呼ばれていたが、山の手線を「E電」と呼ぶ以上に広まらなかった。



# 石井力重

RIKIE ISHII

アイデアプラント代表

## 「思考したら試せる場」の誕生

**島山** そういえば、石井くんとの初めての出会いって、いつだったかな？

**石井** 確か、仙台市が運営するコミュニティサイト「仙台カフェ」の座談会で、島山さんが議長だったような。多様な人が参画したミーティングで、島山さん独特の編み込んでいくようなトーク展開が今も印象に残っています。

**島山** あらうそでしたか。私は忘れていたりして（笑）。2人のメインブログ・楽天広場で、まだ会った事もないので、コメントやトラックバックでやりとりしてなかったかな？

**石井** そうそう、そういう時代でしたねー。「トラックバック」って懐かしい。多くの方がブログでゆるく発信しあっていましたね。

**島山** 仙台カフェの座談会には、他に誰かいたか覚えていますか？開催場所はどこだったかなあ。

**石井** メディアテークだったかと。誰がいたかは、島山さん以外で記憶にある人はいませぬー。あの時、こんなに長い付き合いになるとは考えもしなかったのですが、僕がデユナミスにNEDOフェローとして駐在するようになって、だんだん折に触れて、創設期のメンバーと車座になつて缶ビールを飲み、「ないものをつくるう」とよく語っていた記憶が。今では、そのビジョンのものと先にたどり着いている気がします。

**島山** あつ、それは「ビズカフェ仙

台」の設立を私が呼びかけて集まってもらった時だよ。それ以前は、楽天ブログで力重くんの怒涛のエントリーにコメントで応酬していたと思います。

## 「仙台」から「社会」へのはばたき

**島山** いやあ、うれしいこと言ってくれるねえ。毎日何かにドキドキしていた時期だったよね。それはそうと、石井くんの五橋の行きつけのお店とかあった？

**石井** 行きつけのお店は「元氣屋」さんでした。今はすっかり旅仕事で仙台を離れていて、仙台にいる時は、家族と過ごす時間に充てているので、定食屋さんに入るような事ができないでいます。あの頃の私の肉付きの良さは「元氣屋」さんのお米できていました（笑）。  
**島山** 元氣屋さん、私も震災時に

立ち寄って、逆に元気をもらってましたっけ。おつと話がちょっと横道にそれたかな？ 本流に戻しますね。当時はアイデアワークショップを無料でやっていたよね。それにも確かな目的と理由がしっかりとあったような…。

**石井** そうですね。いろいろと改良しながらやらせてもらいました。当時は「目的と理由」はあります。それは後にアイデアプラントの経営理念となるもので、「創造的な活動をする人が次々生まれてくる社会を作りたい」というものでした。その先の究極目的を最近ばかり公言しなくなりましたが、本当は上位の目的があります。「世界中から尊敬される企業が次々生まれてくる社会を作りたい」というものです。当時は「社会」と言わずに「仙

台」の設立を私が呼びかけて集まってもらった時だよ。それ以前は、楽天ブログで力重くんの怒涛のエントリーにコメントで応酬していたと思います。

**石井** いろいろと改良しながらやらせてもらいました。当時は「目的と理由」はあります。それは後にアイデアプラントの経営理念となるもので、「創造的な活動をする人が次々生まれてくる社会を作りたい」というものでした。その先の究極目的を最近ばかり公言しなくなりましたが、本当は上位の目的があります。「世界中から尊敬される企業が次々生まれてくる社会を作りたい」というものです。当時は「社会」と言わずに「仙

台」の設立を私が呼びかけて集まってもらった時だよ。それ以前は、楽天ブログで力重くんの怒涛のエントリーにコメントで応酬していたと思います。

立ち寄って、逆に元気をもらってましたっけ。おつと話がちょっと横道にそれたかな？ 本流に戻しますね。当時はアイデアワークショップを無料でやっていたよね。それにも確かな目的と理由がしっかりとあったような…。

### 用語解説など…

**NEDO**  
国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構のこと。それ以上のことは自分で調べてね。

**元氣屋**  
五橋2丁目にある定食屋。朝ごはんから晩ごはんまで食べられる。

**アイデアワークショップ**  
力重さんの代名詞ともなった、アイデア発想法を学ぶ講座。面白いので機会があったらぜひ受けてみよう。

の中の施設を借りるよりも、ここ（ファイブブリッジ）の方がもっと多くの多様性が得られるし、雰囲気も良かったので、開催のメイン会場になりました。  
**島山** なるほどっ！ ニュートラルな場所なのがいいよね。そうそう、石井くんのNEDOフェロー時代に五橋で生活をしていて、空想していたことって何かあったのかな？  
**石井** ありましたよ。創造的な事をして飯を食っていきたい。特に自分が好きで得意な事「アイデアを考へ出すこと」だけして暮らせたらなあ、という想いはずっとありました。で、そういうのを思考したらすぐに試せる場が、運よくファイブブリッジという器の中にあつて、現在、僕がしている事業の原型をいくつも素早く試し、改良して、世に出

NPO法人ファイブブリッジ 理事長

河北新報社 勤務

# 島山茂陽

SHIGEAKI HATAKEYAMA



栄えある第1回のプログロックフェスティバルにて。

「台」と言っていましたね。私の活動(事業)が皆さんに支えられ、日本中で行えるようになり、どこの地域にも同じく愛をもって臨みたいと思って。今では、そんな風に言い換えました(笑)。でも、やっぱり自分の好きな街で歳を取っていきたくないので、仙台がクリエイティブでいろんなものが次々生まれてくる機運や才能に満ちた街へとどんどん変貌していくことは、昔から変わらぬ強い願いであり、私が取り組んでいる事の

筋になっています。

**島山** そう！ その言葉はもちろん覚えていますよ！「仙台から社会に」。力重くんが大きな升を自ら作って、飛び立っていく姿が目焼き付いています。でも、世界で活躍する石井くんにもちよっとした悩みはありませんか？

**石井** 悩み、あります！ もともと、どこに住んでも日本中を巡り歩く仕事スタイルにはなるだろうと思っていたので、好きな街・仙台をホームタウンに決めたくわけです。やはりその予想通り、年間100日はホテルに泊まりながら仕事をしています。そうすると、仙台にいる時は自宅で家族と過ごすことが貴重な機会なので、昔みたいに、仙台での集まりや飲み会に参加できなくなっています。むしろ、他の都市では独り身状態なので、その街の人と夜に飲んだりもするので歯がゆいところです。でもきつと走り続けていってステージが上がっていくと、もつと違う可能性が見えてくる気がします。それに子育てもあと10年ぐらいで終わりますしね。そうなるもまた仙台の集まりに参加できるかなと。

3年5年で成そうとしない。10年20年かけて進んでいく中できつと、なんでも人生の軌道が交差するところがある。そう思うんですね。

**島山** 空間軸と時間軸が織り成す哀愁は、石井くんにとっては必然な生き方なのでしょうね。さて、ちよつとダブった質問かもしれませんが、これからの「石井力重」はどんな人間になっていくのでしょうか？ または、どの様に進んでいきたいのでしょうか？ 何か具体的な人、または短い言葉で表していたらけると、シャキッと締まるメッセージになると思うのです。

「愚直に道を行く」  
これからの石井力重

**石井** 深い質問ですね。ここは、少しお時間ください。ちよつと瞑想してみます。

**島山** おー、ぜひ、瞑想後に生まれる言葉に期待です。

**石井** はい。瞑想終了しました。私は、自分の志した道を愚直にひたすに進んでいく、さほど大きな身の振

り方の変化はない時間を行くだろうと思います。 駆け出しの頃、はるか向こうに見えた道の奥に来てみて思ったのが「行くほどに道半ば」という心境です。振り返ると、来た道のりと同じぐらい、この道には先がある。見える範囲だけで言っても僕は、まだ道の半分しか来ていない。だから、そう思うのです。世の中のには珍しい事業をしていると、浮足立つチャンスが来たり、前に進むのに不利な時期が来ます。そういう時にいつも思うのが、「追い風にあられず、向かい風に立ち止まらず」ということです。その意味でも、愚直に道を行く、そういう今後になるのだらうと思います。

志ある所に…

**島山** 最後に、ファイブリッジに集う若者にメッセージを。

**石井** かつて私が、創造的挑戦の節目となる日に、偶然ある方からもらった色紙の言葉を、そのまま述べます。「志ある所に、道は拓ける」。これは、私がデュナミスに駐在していた時代に、人生で初の商品となる

**ブレインストーミングのカードゲーム**商品の販売を開始するというその日。徹夜明けでいったん自宅に帰って直ぐにオフィスに戻ろうとした時に、郵便で届いた色紙なんです。当時の起業支援サイトのプレゼントで当たったものでした。キツザニアを日本に作り出した住谷栄之資すみたにえいすけ氏の自筆のサイン色紙。きつとご本人は誰に向けて書いたともわからないものだったでしょうけれど、私には強く背中を押してもらった気がした一言でした。そして事実、その通り志ある所に道は次々開けてきました。僕が次の世代に送るなら、やはりこの言葉でしょう。

**島山** あつ、オールラストにさらに愚問を。「ファイブリッジを食べる物か動物に例えるか?」。なにか突飛な回答をもらえるとうれしいなあ(笑)。

**石井** 「寄せ鍋」でしょうかね。動物でいえば、「出世魚」かな。いや、その出世魚の稚魚が育つ傍流みたいな場所ですよ。今回は深く引き出してもらえる貴重な問いと機会を下さり、どうもありがとうございます。私が宮城の兄貴分として一方



おもしろいアイデアを紹介する時は、このうれしそうな力重スマイルに。

的に慕っている島山さんが作り出していく回転軸が、色々な人や資源を巻き取っていった、様々な多様性が織りなす無限の可能性を、これから楽しみにしています。

**島山** 力重くん、ありがとうございます。いやあ、いい感じの対談になりました。そして、私のことまで持ち上げていただきありがとうございます。

用語解説など…

ブレインストーミングのカードゲーム  
カードの指示にそってアイデアを出し合うカードゲーム「プレスター」のこと。2007年発表。他にも発想力を鍛える新感覚トランプ「アイデアトランプ」など様々な製品を世に送り出した。Amazonでも販売中!

PROFILE | 石井力重 (いしいりきえ)



アイデアブランド 代表  
早稲田大学 非常勤講師。アイデア創出の支援専門家。専門は創造工学。開発作品のブレインストーミングカードゲーム「プレスター」で、みやぎものづくり大賞を受賞。著書に「アイデア・スイッチ」(日本実業出版社・2009年)。大企業の研究所や企画部門、大学や行政機関にて、創造研修やアイデアワークショップを提供するために、年中全国を旅して回る。創造的な人や組織が次々生まれて来る世の中にしたい。

# 若新雄純

YUJUN WAKASHIN

株式会社New Youth代表取締役



## 社会の変化と、 ファイブブリッジの10年

**漆田** ファイブブリッジができたころは、若新くんはよく来ていたんですか？

**若新** 2006年というところ「ウイングル」(現・LITALEICO)ができたばかりで、その副社長として仕事ばかりしてました。あの頃は自分の写真が全然残ってないんですよ。大学にはギリギリ週一ぐらい行っていたかな。ファイブブリッジにもたまに顔は出していたけど、当時は市民活動とか地域活動より、ベンチャーでバリバリ働くのが最先端という時代だったかな。

**漆田** 私はその頃のファイブブリッジを知らないんですね。私と若新くんが初めて会ったのはその前年

の、(渡辺)一馬さんも参加していた仙台の就職活動イベントで、まだお互い学生でした。

**若新** 僕のイメージでは、漆田くんは(イベントを実施した会社)の insider という立場でした。その社長が「あいつ東京の企業の内定を辞退してうちに来るって言うてるけど、大丈夫かな?」と話していた。

**漆田** (笑)

**若新** 今だったら、大企業を辞めて地域の仕事をするという選択肢も受け入れられてきたけど、当時まだ就職先の良し悪しは、企業のスケールでしか図られていなかったと思います。リーマン・ショックの前ですね。話が飛びますけど、リーマン・ショックとか東日本大震災を機に世の中が変わったという話は、僕は嘘だと思っていて。社会の変化って、

大きなきっかけがないと動かないだけで、単なるスイッチだと思っただけですよ。

**漆田** きっかけにはなったけども、理由ではないと。

**若新** 力学はその前から働いていたって、一つは資本主義の見直しみたいな動きですよ。皆の中に潜在意識があったとは思いますが、リーマン・ショックがきっかけになった。依然として資本主義は強いし、僕たちは翻弄されていると思いますけど。もう一つ、震災がきっかけになったのは、改めてコミュニティを見直すということ。もともと情報化社会になって、個人化されると言われてきました。人間同士が協力しあわなくても、家において買い物ができたり、閲覧板がなくても情報が入ってきたり、公民館に集まらなくてもやりと

りができるようになってきたり、社会が個人で成立するような気がしていた時代。それはそれで便利になるところはありましたけど、また違う観点で、人と人の関係性というのが見直され、コミュニティの希薄化が叫ばれつつあったというか。

**漆田** 震災前から、個人化という時代の変化と、それに対して見直したという意識も芽生えていたと。

**若新** それで震災をきっかけに、資本主義の見直しみたいなものと合わせて、僕たちにとって大切なモノってなんだっけ、みたいな話が生まれたと思います。家族って永遠じゃないとか、生きる儚さみたいなものを目の当たりにして、皆、働くことや生きることについて立ち止まって考えることができた。それまでは惰性で生きてたから、世の中が変化して

いても立ち止まるきっかけがなかったんです。

**漆田** なるほど。

**若新** だから話を戻すと、ファイブブリッジができた時に、それがなんなのか、皆わかってなかったと思いますよ。つまり、オフィスと公民館の中間のようなものだと思うんですよ。なにそれベンチャーなの? ポランティアなの? みたいな。どっちとも違うものです。その後、「ソーシャルビジネス」みたいな曖昧な概念が出てきて、ぐちゃぐちゃ混ざり合いながら、新しい場所というものが築かれてきたというか。

**漆田** 確かに転換期な気がします。

**若新** 漆田くんのほかに、例えば東北大を卒業して大企業に就職したのに、辞めてそういうことに関わる人というのが、増えてきた理由です

よね。それは別にスローライフを指しているわけじゃないと思うんです。なぜ働いていて、なぜ生きているのかという価値観の見直しというか。労働・生産・消費みたいな、世の中の骨格になっていた仕組みそのものを、ちょっとずつ僕らは変化させていったんですよ。

**漆田** ファイブブリッジは、結果としてそういう場所だったんですかね。相変わらず、曖昧な存在だけ。

**若新** 実際、ファイブブリッジでは、その辺りをどう定義しているんですか？

**漆田** 明確には定義付けてないと思うんです。キャッチフレーズとしては、「大人の部屋」とか「ネオ親戚(血縁以外のつながり)」という言葉を使います。

**若新** まさにそういうことですよ

### 用語解説など

#### ウイングル

障害者の就労支援事業などを行う株式会社。現・LITALEICO。宮城大学二期生の佐藤崇弘氏が仙台市にて創業。

#### ベンチャー

ベンチャービジネスの略で、大企業では実施しにくい革新的な事業を行う企業のこと、らしい。

#### ソーシャルビジネス

教育、貧困、環境問題などの社会的な課題解決を事業として取り組むこと。多分。

#### スローライフ

伝統的な食文化やゆったりとした暮らし方を理想とするライフスタイル。してみたい。

NPO法人メディアージュ代表代行

# 漆田義孝

YOSHITAKA URUSHIDA



ね。新しいたまり場ということ。  
漆田 震災の後に、内からも外からも明確になってきたんですかね。

### 居場所のあり方も変わっていく

若新 ただあくまで、震災はトリガーでしかなくて、やっぱり根本的には、社会が成熟してきたということだと思いますけどね。

漆田 これからもこの社会の変化は続くと思いますか？

それとも、そろそろ別の流れになると思いますか？

若新 うーん、まだまだ全然普及していないと思うので、これからじゃないですか。例えばソーシャルベンチャーという言葉がわーっと騒がれたと思ったら、いまや地方創生ですよ。言葉や制度は、常に揺らいでいるんだと思うんです。

漆田 地方創生という言葉、私はまだよくわかっていないんですが。

若新 行き着く先はわからないですけど、まあ資本主義の労働・生産・消費という仕組みがあつて、都会に出稼ぎみたいな文化が元々あつたわけじゃないですか。その大きな流れ



若新さんの年齢は新聞でも非公表だ。

が見直されているんじゃないですかね。そこに色んな切り口がある。

漆田 これまでとは逆の道筋を、国自体が打ち出そうとしていると？

若新 ただ地方創生も、きっかけに過ぎなくて、『地方消滅』って本がありましたが、あれも地方のまちが物理的に消えるというよりは、自治体組織が消滅するという話でしょ。

漆田 行政単位がなくなるという。

若新 ひとつの都道府県の中に、小さなまちは全部合併されて、市が4つぐらいしかなくなる、みたいな。そこでの暮らしがなくなるといふよりは、言ってしまうえば、役人の仕事、職場が大きく減るといふこと。地方創生はそういう文脈の中にあるんじゃないかという見方もしていま

まちのことなんて全然考えてなくて。地元はただ帰省するだけの場所だったし、大学で研究していたのも、コミュニケーションの研究をしてたんですけれど。たまたま福井が実家ということと「JK課」とかやった

ら、その次の年に地方創生ブームが来て、ど田舎のまちで仕事をするのが最先端みたいになつたじゃないですか。何が来るかわからない。東北っていう文脈で言えば、東京の支店経済から全然変わっていくと思

いますよ。「仙台にもこれを」じゃなくて「仙台にはこれがある」みたいな。大事なのはその流れを先取りして乗っかっていくことですよ。

漆田 若新くん自身が、今後やりたいこととしてありますか。

若新 いつかわからないけど、教育の改革は来るでしょうね。ただ僕

の思う改革は、中学一年生まではあまり変わる必要がないと思つていて、13歳までは詰め込みでいいと思つて

いる。

漆田 まずは意味がつかなくなっても覚えていく、というやり方自体は問題ないと。

若新 中一ぐらいまでは、あんまり

す。新しい社会の流れみたいな。だから地方創生が盛り上がる場所っていうのは、働き方や暮らし方をダイナミックに見直そうと言う枠組みの中で起きてくるんだと思うんです僕は。そういう中で「居場所」の在り方は変わってきていると思

いますけど。昔は会社か家か、集落かみたいな感じでしたけど、ファイブリッジは、ある意味どれでもない、ご近所付き合いでもないじゃないですか。

漆田 確かに、別に場所は重要じゃないです。

若新 昔の公民館は、地域が決まっていたし。今は皆、集落みたいなものを求めてはいるけど、物理的な制約を超えた場所がいんじゃないですかね。趣味や関心ごとでつながりするほうがいい。近所という関係性も、たまたまじゃないですか。つながるきっかけが違うだけです。

漆田 ファイブリッジとのエピソードありますか？

「帰る場所」だったファイブリッジ

先生の話に聞かされて、違和感を感じないですか。で、14歳ぐらい、思春期になつてから、色んなこと色気づいていく。

漆田 なるほど(笑)

若新 だから中一までは、あり得ないぐらい詰め込んで、中二ぐらいの、色んなことに興味を持ったり感性が豊かになるぐらいの時から、正解がひとつではないことを考える教育に変わっていくほうがいいのではないかと

思いますけど。でも学校の現場はなかなか変わらないから、勝手に第三の場所みたいなものができて、やればいい。ファイブリッジの役割としては、大人が集まるのもいいですけど、一番は思春期の面倒くさい奴らのための何かというのが、欲しいですよ。世の中にも。

漆田 それいいですね！ なかなか、大人たちは怖がつてその世代にアプローチできないですよ。

### 「帰る場所」だったファイブリッジ

JK課 福井県の鯖江市役所にある課。地元のJK(女子高校生)たちが新しいまちづくりを実験する。メディアにも多数取り上げられた。

僕の本(P20) 『創造的脱力 かわいい社会に変化をつくる、ゆるいコミュニケーション論』光文社新書 2015年刊

アクティブラーニング(P20) 先生が一方的に授業をするのではなく、生徒が主体的・能動的に学ぶ形態のこと。言っは易しだが課題も多い。

若新 2006年って、僕が仙台にいた最後の年なんです。ウイングルの事業であまり仙台にもいなかったし。

漆田 すると、若新くんの場合は、ファイブリッジという場所より、メンバーの一馬さんや津田さん(いずれも大学の先輩にあたる)とのつながりが主だったんですかね。

若新 ただ覚えてるのは、毎日働いていて、たまーに一馬さんたちとのつながりでイベントがあつて行くじゃないですか。折々に、僕らがちよつと立ち寄る場所、帰る場所だった。ただ遊びに行くのとは違う何かがあつたと思います。

漆田 立ち返る場所、みたいな？

若新 なんででしょうね？ それが当時、なんだかよくわからなかった。

### これからの地方と教育

漆田 改めて、これからの地方ってどうなっていくんでしょうか。

若新 社会のライフスタイル全体に、大きな変化が起きると思つますが、変化が起きる瞬間というのは面白いですよ。例えば僕は、地方の





## 仙台ビズカフェ設立に向けた呼びかけ文 (2005年9月)

これからの人生をよりよくデザインしたい皆さまへ

### 「SENDAI BizCafe」(仮称) 設立準備委員会の立ち上げに向けた 密談開催のご案内

呼びかけ人/ 畠山 茂陽

「今、仙台が熱いです」。それはもう皆さまはご承知の通りでしょう。

今こそ、仙台のこの大きな鼓動を全国、そして全世界に発信していく必要性をひしひしと感じています。そしてまた、全世界の多くの人々が仙台に注目しているところです。

そのような絶好のタイミングに我々ひとりひとりは何ができるのでしょうか。

宮城・仙台の地域に土着し、パワフルかつ元気な起業家がここ最近急速に増殖しているように感じます。そして、個々のスキルや各々の商品開発能力は相当素晴らしいものになってきています。

しかしその一方で、多くの起業家やITベンチャーや企業人からは、「ひとりだけではより大きなビジネスネットワークを構築しづらい」、「束になった活動がなかなか効率よく継続してできない」といった悩みが聞こえてくるようになりました。

そこで今回の提案としては「仕事をしながら情報共有」ができ、「多くのビジネスマッチング」がはかれ、「個人のスキルアップ」に直結できるコミュニティスペースを仙台の街に作れまいかと考えています。

まだまだ、よちよち歩きの提案ではありますが、「SENDAI BizCafe」(仮称) の設立準備委員会の立ち上げに向けた「フランクな密談」を下記のようにセッティングさせていただきました。毎日をドキドキわくわくオモシロク生活しながらビジネスライフもガッチリと謳歌したいという、心意気溢れる方々に多数お集まりいただきたくご案内申し上げます。



#### 「ツツケカタ」のポイント

- ❶ ないものは、つくるしかない。
- ❷ 「欲しい」「必要だ」と思ったら、何はともあれ、聞いてくれそうな人を集め、まず呼びかけてみる。ことから全てが始まる。

### 立ち止まること、 まどまらないうこと

**若新** 思春期は、面白いですよ。大学生よりは全然、高校生の方がいい。まだネバネバしているというか(笑)。

**漆田** 面白そう。

**若新** もうひとつ思うのは、僕の本にも書いてある話なんですけど、教育が変わっていくというより、教えるということ自体を手放さないといいけないかもしれないなと思っていて。先生がこうしましょう、というのは中一までよくて、中二ぐらいからは、国がいうところのアクティブラーニングがいい。アクティブラーニングの学びは、極めて生々しい体験とか、活動の中から生まれるものなので、「教える」こと自体が間違っていて、果たしてそれを現場の先生たちがすぐやれるかと言ったら、簡単じゃないと思うんですよ。**漆田** 今までと、やってみると全然違いますからね。**若新** そういうことを、地域の大人とか、企業人が部分的に担えるところがたくさんあると思うし、その時

に大事なものは、学校に優るプログラムとかではなく、僕は、立ち止まるということだと思っています。

**漆田** 若者たち自身か？

**若新** そう、これでよかったのかなとか、本当なのかなと立ち止まって考えること。

**漆田** なるほど。勉強の話じゃないですが、結構、大学も終わりのころとか、あるいは社会に出てから初めて、人生を振り返って立ち止まる、何だったんだらうってなって、先に進めなくなるって多いいですよ。それがもつと若い頃から、そういう立ち止まって振り返るという経験をしていけば、ちゃんと次に進めるようになるのかもしれない。

**若新** 僕らが苦手なのって、バリエーションがあることに気づけないんです。答えがひとつのことってあんまりないのに。だから答えがひとつ、という教育をいつまでも続けるのは、まずいんじゃないですか。ファイブブリッジも、そういう答えがひとつという場所じゃないと思うんですよ。定義は曖昧なままいというか、「大人の部室」って何の部室ですかと聞かれると、それはわからない

い。**漆田** なるほど。**若新** 答えがひとつじゃない中で、人それぞれ別々の答えを持って...というか、そもそも答えはないんだと。でも僕らは、人それぞれ違う選択をしると言われても、それは正解だねって言ってもらいたいんですよ。正解だと言われてからじゃないと、前に進めない。だからこそ、正解じゃないけどやってみたいな、そういう柔軟さが今必要だと思います。

**漆田** ファイブブリッジ、あるいはそこに集まる人が、そういう役割というか、可能性を持っているということですよな。

**若新** そう思います。

**漆田** 最後に、何かメッセージはあったりしますか。

**若新** だから、まどまらないうことがいいんですよ。永遠に。ファイブブリッジが10年ずっと曖昧なものとして存在してきたことが、価値だと思えます。

#### PROFILE | 若新 雄純 (わかしん ゆうじゅん)



福井県三方上中郡若狭町出身。宮城大学・慶應義塾大学大学院卒(修士)。株式会社 NewYouth 代表取締役、慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科特任助教、福井大学産学官連携本部 客員准教授。NEET株式会社、ナルシスト採用、鯖江市役所JK課など、実験的プロジェクトを多数企画実施している。

多くの人は外の自販機で飲み物を購入するが、3階会議室「こかい」内の自販機で買うとファイブブリッジの収益となり、うれしいということを知らないはず。



## 仙台ビズカフェ開設の目的 メッセージキーワードは「オトナのブカツ」

宮城・仙台の元気あふれる優秀な人材を他の都市に流出させることなく、仙台の街で継続してビジネスマッチングできる空間を創出したいと思います。リアリティー溢れるソーシャルネットワークワーキング事業として、多くの人々に利益還元できるようなビジネスを作り出していくこと、その仕組み作りを皆さまと実践する場の提供。

それが「オトナのブカツ」のコンセプトです。

- ★ ヒューマンネットワークを拡大する
- ★ ビジネスのスタイルを変える
- ★ オープンなコミュニケーションの場のサポート
- ★ インフォーマル、個人的なコミュニケーションを膨張させる
- ★ 次の世代を育成する
- ★ インターネットコネクションを求める人にネット環境を提供する
- ★ 移動の合間に仕事をしたいビジネスマンへのサポート
- ★ 他地域との連携を視野に入れ、日本のビジネスマンを元気に！



**「ツツケカタ」のポイント**

- 🌀 コンセプトを作り、共感してくれそうな人にプレゼンする。
- 🌀 札幌ビズカフェの理念を参考にする。  
※一から作るより、モデルとなる事例の方が周囲の人々に伝わりやすい。  
※事前に頭を下げて、参考にすることに承諾をもらっておく。

## Q. ファイブブリッジってどんなところ!?

- ① ファイブブリッジを動物または料理に例えると?
- ② そう思う理由
- ③ ファイブブリッジに関する思い出またはエピソード
- ④ プロフィール (氏名、肩書、現住地、ファイブブリッジに主にいた期間)

### ① 軍隊アリ

- ② 一人で行動をするのではなくみんなで助け合って進んでいくことから。
- ③ 食ひとサロンでいろんな方に出会えて、いろんな食材や料理を多く見られること。
- ④ 丹野真志 (株式会社エアライズ代表取締役社長、仙台市太白区柳生 (会社住所) 2008 ~ 2012

### ① お正月の御雑煮

- ② 家族の味、ふるさとの味、忘れてはいけない郷土料理
- ③ ・仕事で詰まっていた際、当時一の坊の佐々木さんよりアドバイスを頂きました。「地産地消」→「地産知紹」と命名しました。  
・銀座ではじめての県内産の販売!  
・仕事で煮詰まっていた私にとってファイブブリッジの皆さんは、良き仲間、良き家族、希望の光。すくわれました。そして強くなったかも (笑)。
- ④ 佐藤香世子 (JR東日本東北総合サービス 仙台支店営業部 SC事業課副課長 仙台市青葉区中央) 2007 ~ 2008!? たまに出現...

### ① お好み焼き

- ② どんな具材 (人) も美味しく包む ♡ 嫌いな人はあんまりいない ^^ お酒も進む!
- ③ ファイブブリッジのおかげで大切な友達がたくさんできましたっ! 懐かしくなって顔を出した時には、お久しぶりねの方もお初の方も仲良くしてね ^^
- ④ 鈴木 (石田) 美智代 (フリーライター・みやぎのあられ見習い/亙理町) 2006 ~ 2012

### ① サラダバーですかね。

- ② フレッシュで色彩豊かなネタを持った人がいっぱい集まる場所だから。
- ③ 一番最初にファイブブリッジへ顔をだした時、畠山さんに誘われて近くの飲み屋さんで一杯やったのを覚えています。
- ④ 平井崇昇 (泉ヶ岳ゼロ村牧場パカラッチョ 牧場長 (職業: 馬飼い))

### ① サーティワンアイスクリームのポッピングシャワー

- ② 多種多様な人々が集い化学反応を起こす場→彩り鮮やかで刺激的!
- ③ 立場も年代も異なるけれども、想いを同じくする人々との出会い・切磋琢磨の時間、ありがとうございました!
- ④ 安藤佳奈 (旧姓: 岩崎)、公務員、バンクーバー (カナダ)、2010 ~ 2011

# 家族と織りなす、物語。

The story with Taketori family.

写真・文・構成 / スズキケースケ

喜びも辛さも分かち合い、大切に紡ぐ竹鶏の物語。

ある春の日、18時頃、一日の仕事を終えた竹鶏ファームの事務所におジャマしたら、子供たちがもう保育園から帰ってきていて、部屋じゅうを元気にはしゃぎまわっていた。子供の声はいいなあ。その場にいるだけで元気になる。こんなふうに、竹鶏オフィスでは、仕事を終えたみんながいつも顔を合わせる。心地よい労働の後のこういう団らんが、なんとも言えない幸せな時間なんだろうなあと思う。

ぼくが初めて竹鶏さんに来てから、もう数年になる。竹鶏さんを見ていて、いつも素晴らしいなあと思うところは、竹鶏さんが、しっかりと家族の温かい絆でつながっている会社であるのももちろんだけれど、決まっていゆる「同族会社」ではないなあと感じるところ。従業員やスタッフの方もみんな大切な家族として迎え、周囲の方もどんどん巻きこんで、やさしい気持ちで仕事をしているところ。

もうひとつは、社長の人格なのだろうと思うのだけれど、ここがよくある「ワンマン会社」ではないところ。次の世代や周囲の方を信頼して、役割と責任を与えて、きちんとした会社組織としても、成り立たせているところ。

家族を基本としつつ、周囲を「ありがとうの『わ』」で包みながら、共に生業を営むことの、これは、ひとつの理想の形なんだろうなあ。

ああ、父や母や兄弟が身近なところで、生活したり仕事をしたりするのって幸せだろうなあ。いいもんだろなあ。この年になって、竹鶏さんときどきうらやましいなと思った。

ぼくはといえば、高校卒業と同時に函館の実家を離れて早20年以上。両親に会うのは、年に一回がいいところ。日常会話だってそんなに多いわけじゃない、親不孝者かも。

今晚あたり、両親に電話かけてみよう。いろいろと最近あったこととか、仕事のこととか、どうでもいい話とか、久しぶりにしてみよう。

「未来を見つめ、いまを響かすひとの見開き一枚誌みらいろ」は、ファイブブリッジ理事の鈴木圭介が、身近なひとや事からの魅力を表現した、雑誌の見開き風の一枚誌です。好きな写真で、「コピ」で文章で、誌面のデザインで、それを主にWeb上で、遊び心入れつつゆるく発信しています。

## 「無属性」のススメ ◆ 渡辺一馬

10周年に先立ち、考えたこと。それは「ファイブブリッジ」の存在意義。あれ、そもそも「ファイブブリッジ」に存在意義はあったっけ？ 仙台市内で運営されている他の各コワーキングスペースと比較して考えてみましょう。

〈目的〉という部分で考えると、「ソシラボ」は「実験の場」、「NTILAQ」は「起業」。そして、「属性」の部分では、「リアルカレッジ」は学生、「ノラヤ」は「ちょっとみ出した人」。そこで改めてふと思うのです。

しかし、特定の〈目的〉や〈属性〉を持たないのに「ファイブブリッジ」は、人が集まり、数々のプロジェクトを生み出しました。今年で10周年を迎える、五橋公園を舞台に、地域の町内会や企業、飲食店を結び付けた「イツフェス」。震災の前の年に石巻市で開催さ

れた「世界ほやエキスポ」。東日本大震災後は、「セキユリテ被災地応援ファンド」や、「NOMore 自粛キャンペーン」など。全てのプロジェクトに共通しているのは、課題の解決、言い換えれば「プロジェクト」に人が集まったという事。〈目的〉や〈属性〉が定義されていないからこそ、今起きている課題に真摯に向き合ったのかも知れません。

震災後、私は若者と共に地域をつくるプラットフォーム「一般社団法人ワカツク」を立ち上げました。「ワカツク」の主な事業は、地域企業の新規事業立ち上げを若者が担う「長期実践型インターンシップ」のコーディネート。インターンシップのコーディネートをしていて気がついたのは、無名の会社に大学生が意欲高く参画する、という現実。ここでも、会社

名ではなく、業界、業種でもなく、「課題」の解決に若者は集まりました。

私の今のプロジェクトは「困っても、困らない東北」「そのために次の課題を見出せる若者が成長できる東北を創る」ことがミッションです。つまり、ファイブブリッジがやってきたことを、東北に拡げること。それでは皆さま、またファイブブリッジでお目にかかりましょう！



### PROFILE | 渡辺一馬 (わたなべ かずま)



一般社団法人ワカツク代表理事/NPO法人ファイブブリッジ監事  
1978年、角田市生まれ。1997年、新設の宮城大学へ入学。在学中にサークル・デュナミスへ参画。2001年、卒業と同時にデュナミスを会社法人化、代表就任。  
「世界を変える人材を数多く生み出す仕組みを創る」ことを目的として、インターンシップ事業を開始。震災後、一般社団法人ワカツクを立ち上げ、若者たちの「問題解決」への挑戦を支援。「若者が成長できる東北」を目指している。  
他の活動は、東北学院大学 地域協働教育推進機構 特任准教授、東北大学大学院 経済学研究科 特任准教授(客員)、NPO法人ファイブブリッジ監事、NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター理事など。

Mr. Moonlight



第2章

## ギャラリー

オトナの部室に集まったメンバーの活動をディスコグラフィする  
ポスター、チラシ、プレゼンター一覧

# 白旗さえ揚げなければ 絶対に再建できる



## セキュリテ被災地応援ファンド

特 徴	半分寄付 半分投資	応援したい企業を 自分で選択できる	長期的に関わり 復興を見届ける	1口 ¥10,500	出資金 ¥3,000	出資金取扱手数料 ¥1,000	応募金 ¥6,500
-----	--------------	----------------------	--------------------	---------------	---------------	--------------------	---------------

お申込は <http://oen.securite.jp/> から **被災地応援ファンド** 検索

先本票償還などのリスク、買付期間中に販売できないなどの留意点、取扱手数料などがありますので、匿名組合契約書・規約書をお読みの上、お申込ください。本ファンドの取扱業者は、ミュージックセキュリティーズ株式会社の子会社、第二種金融商品取引業者 株式会社証券島根(金融)第1797号)に委託しているため、申込手續が同社にて行われます。

震災1ヶ月後、驚異的なスピードで立ち上がった「セキュリテ被災地応援ファンド」。「白旗さえ揚げなければ」の名コピー。



「私は魚を売ることしかできません」と訴える津田竹雄さん。



ファイブブリッジでの説明会にあふれる人が集まった。



気仙沼の教会での説明会にて。



震災により1回限りの開催となった伝説の「世界ほやエキスポ in 石巻」の刺激的なポスター。



ほやクルーズでの4年もの「ほや玉」。



ほや汁をふるまう3人娘。



これが噂の「ほやチンコ」。



● ファイブブリッジ案内チラシ (2009年)



● 「いっぷぶり」ポータルサイト (2010年)



● せんだい・みやぎオートムセミナー 2008 講師ガイド (2008年)



● Oファミリー人情てめぐい (2011年)



● チームコケッコー案内チラシ (2011年)



● チームコケッコー案内チラシ (2010年)



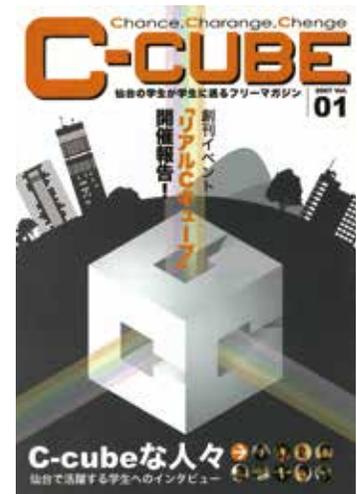
● NO MORE 自粛!! (2011年)



● せんだい・みやぎオートムセミナー (2007年)



● 宮城いいものまつり (2008年)



● C-CUBE (2007年)



● 宮城つくりびと産直市 (2011年)



● あぐりどんと祭 (2014年)



● KAKEHASHI ブランド (2011年)



● 宮城七人のこせがれ箱 (2011年)



● ミヤゲーゼ (2015年)



● 宮城のこせがれマルシェ (2012年)



● イップフェス (2013年)



● ほっかぶれ市 (2012年)

Archive  
古文書



なんかうまくいっちゃう

## たまり場づくりの三原則

① 何はなくてもまずは

「たまり場を創る」

イツモ・ダレカト・ツナガレル、オトナのブシツ、オトナのアジト。

② いくら忙しくても毎週1回は必ず

「定例会を開く」

FBマンデー、ヒトは1週間のリズムで生活している、あまり告知しなくても人が集まる。

③ たまり場に集った人を有無を言わず

「M1に招待する」

メールアドレスはあまり変わらない、ゆるやかにつながるツールでの継続したコミュニティー。  
※時代に合わせて、共有ツールを使い分ける。最近ではフェイスブックに。

## 無目的に集まる場での、 ネオ親戚（新しい概念の親戚）づくり



「ツツケカタ」のポイント

この3つを愚直に続けていくのみ。

## Q. ファイブブリッジってどんなトコロ!?

- ① ファイブブリッジを動物または料理に例えると?
- ② そう思う理由
- ③ ファイブブリッジに関する思い出またはエピソード
- ④ プロフィール（氏名、肩書、現住地、ファイブブリッジに主にいた期間）

① カメレオン、バイキング式ビュッフェ

② 変幻自在、好きなものを好きなだけチョイスできるが食べ残しなしw

③ 若者が多くていつも浮いている自分が恥ずかしく思っています。しかし、平静を装って大人ぶっていますw

④ 米倉英俊（よねどん/仙台市）イベント時やIF I AMの時

① 「寄せ鍋」だと思いました。

② 集う人たちだけでなく、他の人にもこの味をオススメしたいから!

③ IF I AMでお世話になりました。学生の頃、毎週木曜 21時にわいわい集まったのは、いい思い出です。

④ 橋宏卓(ロン)(メディアージ 社会人スタッフ/変わらず仙台)

① フラミンゴ

② 集合体が美しく、いつでも羽ばたける。

③ 広告を実験して作るイベントが楽しかったです。自分の肩書きを外せる貴重な場所です。

④ 大橋熾太郎・ペンネーム（通販会社社員/東京、週末仙台）2010-2011

① コンビニのアイスかな? ?

② シーズンや時期によって、品揃えや流行が異なりそう

③ やっぱりプログロックフェスティバル世界大会の午前中とかはさ〜。心地良い \* \ (^o^)/ \* 笑

④ 中谷裕次（リアルカレッジ代表取締役）2015-2016

① サーティワンアイスクリーム

② 新しい顔も受け入れてくれ、古株の方もいる安心感。

③ 大学生時代は朝早くからてっぺんまでお世話になりました! ふらりと行っても受け入れていただき、ありがとうございます m(\_ \_)m

④ 伊東佳奈子 (NPO 法人マイホームとしくん家・支援員/仙台) 2007 - 2011

① 鳥類

② 約1万種いる鳥類が環境に合わせて独自の進化を遂げているところが

③ ファイブブリッジのおかげで海外展開がうまくいきました!

④ 渡沢真 (WatasawaDesign 代表/仙台) 2011年6月~

# 「ロマン」のススメ ◆ 鈴木圭介

震災を経て、ファイブブリッジでの活動を通して、ぼくは人生の道しるべとなるだろう言葉を見つけた。それは「ロマン」という言葉。「ロマン」は「夢」とも「憧れ」ともちがう、不思議な言葉だ。国語辞典をみてもピンとこない。定義づけが難しい。ロマンってなんだろう？ 人はどんなときに、ロマンを感じるんだろう？ 生きていく姿だろうか？

人は何のために生きるのか、という問いに対しては、答えはいろいろあると思うけれど、それはやっぱり「幸せ」のため。ただその形が人によって違ってはいるだけだ。

何も望まない人生が熱を発するはずはない。だから生きることとはつまり、望みを発することとイコール。そして望むことはすなわち好きという気持ち、だとすれば

生きていく前提（原動力）としての感情は、やっぱり何かや誰かを愛おしく思う、ということなんだろう。もっとうと孤独やさみしさなのかもしれないけれど、ぼくは「幸せ」にひとつの方程式を持っている。こんな式だ。

幸せⅡ (With+for) × 熱

大切な何かや誰かと一緒にいられたら (With) 幸せ。でもそれだけじゃ足りない。ともに進んでいくベクトル (for) がやっぱり、なければ。一方でその逆もまた然り。大事なのは、それを誰かと一緒に (With) 歩んでいきたいと思えるかだ。中島みゆきも歌ってた。「一人きり泣けても一人きり笑うことはできない」。幸せは一人では完結しない。幸せは、それを望む熱量に比例

する。そこにどれだけ熱を注げるか、幸せの大きさを決めていくのは、熱の大きさだ。それも一瞬ではない、ずっと続いていく熱だ。幸せの本質はおそらくこの方程式の中にある。

「幸せ」が夢見るものであり叶えるものだとすれば、「ロマン」は感じるもの。ともに抱くことができるものだ。

自分自身が幸せと考えることに、未来に思い描く遠い夢に向かって、今をどれだけワクワクする情熱で響かせることができるか？ 生きていく限りぼくたちは、幸せを追い求めなくては。幸せを追い求める姿こそ、生きていく姿。目に見えないロマンは、その熱のなかにあるはずだ。

ロマンのある生き方できてる？ 自分に問いかけながら、これからも歩んでいこう。

I'm Happy Just To Dance With You



## 第3章

# 集ったメンバーから 生まれたプロジェクト

タイトル通りでそれ以上でもなく、それ以下でもない。じっくり読んで、プロジェクトが生み出される仕掛けづくりを盗めるところは盗んでみてください。

### PROFILE | 鈴木圭介 (すずき けいすけ)



ミライトス株式会社代表取締役・NPO 法人ファイブブリッジ理事  
北海道函館市出身、1974 年生まれ。乙女座、A 型。

「宮城県を中心とした地元地域」「創造すること」「ブランドコミュニケーション」を軸に、地元の仲間たちの魅力を、伝えるだけではなく、それらの魅力を組み合わせたり、自ら新しい価値（商品やストーリー）を作り上げていくことで、新しいブランド価値を提案していくことをテーマとしている。

自社商品「蔵王咲き茶」の販売を始めたことを機に、一番町に曜日限定の「蔵王咲き茶カフェ」をオープンし、上記テーマの発信を行っている。今後の目標としてさらなる仕組みづくりや場づくりの展開を予定している。

### ゆるやかな人のつながりが生んだスピード

被災地応援ファンドは、自分が応援したい被災企業に一口1万円からの「小口出資」という、場所と時間に制約されず長く応援できる仕組みとして、震災からわずか1ヶ月半の4月25日に立ち上がった。

ファイブブリッジ（以下、FB）が応援ファンドを立ち上げたわけではないが、FBを通じたゆるやかな人のつながりと、情報やアイデアをフランクにやりとりする土壌が、

### セキュリテ被災地応援ファンド



セキュリテ被災地応援ファンドのホームページ。

その素早い立ち上げに大きく寄与したのは間違いなく。

震災直後、どこに届くかわからない義援金ではなく、自分がファンの企業やお店に直接お金を届けたいという個人的な想いを、何気なくtwitterでつぶやいた（3/22）。そのつぶやきに、後にMAKOTOを立ち上げる竹井さんがすぐさま反応してくれ（3/23）、さらに反応した津田祐樹君、庄司直人君、鈴木圭介さんをお交え、FBで即座に集まって雑談的な打合せ（3/24）、翌週のビジネススマンデー「東北ビジネス未来塾」でも震災復興ファンドをテーマにディスカッションを行った（3/28）。

そこから竹井さんがtwitterでつながった、小口出資の仕組みを持つミュージックセキュリティーズの猪尾さんと仙台で会って意気投合し（4/1）、アンカーコーヒーの小野寺靖忠さんなど6事業者を直接つなぐことで、応援ファンドの立ち上げに向け、一気に進んでいった。

※活動についてはファイブブリッジHPからも閲覧できます。

### 第3章 集ったメンバーから生まれたプロジェクト

また、情報発信・拡散の面でもFBの存在は大きかった。4/25にFBで行われた応援ファンド説明会には60名を超える人が集まり、さらにその一人が「ほぼ日刊イトイ新聞」に直接メールをしてくれたことで、糸井重里さんがtwitterで発信し、その後、ほぼ日でも記事で取り上げてもらうなど、周りで応援してくれる人たちを通じて、さまざまな展開につながっていくことが本当に多かった。

最初は単なる個人のつぶやきでも、それを発信することで、誰かが反応してくれる。それぞれの想いやアイデアを重ね合うことでアクションにつながる。そのプロセスが見えることで共感者・応援者が増えていく。そんなサイクルが回ることで、最初は自分も想像もしなかった展開に広がっていく。FBという場はそのサイクルを回す一つの装置であり、それが象徴的に発揮されたのがこの応援ファンドであったと思う。



被災前のアンカーコーヒー。

「いま、立ち上がること。つながること。」  
そんな話のトークイベント  
やります。

参加費無料 200人限定  
平成23年6月18日(土)  
開場13時30分 開演14時 一階16時  
品川フロントビル地下1階(金堂)

株式会社いんどり代表取締役社長 横石 知二  
「ほぼ日刊イトイ新聞」主宰 糸井 重里  
NPOファイブブリッジ事務局長 山田 康人

お問合せ：株式会社いんどり ☎0685-46-0166(平日9:00~17:00)

トークイベントのポスター。



ファイブブリッジでの説明会の様子。

PROFILE | 山田 康人 (やまだ やすと)

NPO ファイブブリッジ副理事長兼事務局長  
1978年12月4日生まれ、AB型。平成14年に宮城県庁入庁。  
平成17年から2年間、仙台以外で初めて住んだ気仙沼でローカルの楽しさにどっぷりハマリ、平成20年からは食産業振興課に配属になったことも相まって、宮城の「食」と「人」の魅力にスポットを当てることをライフワークに。ファイブブリッジにはNPO法人化の準備段階から参画し、個人と組織の立場をフル活用した公私融合な生き方を「宮城を一生楽しむ」をテーマに実践中。(平成25年11月から現在は女川町役場勤務)

## 2011.4~ セキュリテ被災地応援ファンド

文：山田 康人

「ツツケカタ」のポイント

- コミュニティメンバーで課題を全体共有する。
- プロジェクトスタート後の協力者（出資者、情報拡散応援者）となり得る。

ミュージックセキュリティーズ  
2000年からミュージシャンをファンが支援できる「音楽ファンド」の仕組みを提供してきた。その後さまざまな分野のファンドを手がけ、クラウドファンディングの先駆けといえる存在に。そのノウハウを活かし、被災地への応援ファンドを実現、運営している。

ほぼ日刊イトイ新聞  
一流企業とのコラボも多数行っている大人気ウェブサイトだが、東日本大震災の被災地に関する積極的な情報発信も行っている。

用語解説など

### 大好きなみやぎ、 大好きな仲間

宮城の「こせがれネットワーク」を立ち上げて早6年。生産者だけではない、新たなコミュニティネットワークとしての枠組みから、多くのプロジェクトとつながりが生まれ、私自身が強い刺激と共に、成長する場であったと振り返って実感しています。こうして、世代や業種業界の壁を越えて出会い、共に学び合い語り合う時間が与えてくれるものは、普段の仕事や生活の中では得られない特別なものではないでしょうか。

この活動は、「こせがれ」をキーワードに全国的に見ても稀なおもしろいモデルです。地域社会におけるちょっとした課題を解決するためのアクション。それらが巡り巡って自分たちや地域を、そして子どもたちの未来を豊かにしていくこと。

そうした一人ひとりの地域を想う気持ちの積み重ねではないでしょうか。これからも子ども達に胸を張って自慢できる地域、仲間を面白く、楽しく、「こせがれ」らしく創ってきたいです。



宮城のこせがれマルシェに集った生産者・サポーターの皆さん。

### 第3章 集ったメンバーから生まれたプロジェクト

そして、10年後の「こせがれ」達へ伝えたい事があります。「こせがれ」は、小さな頃から親父たちの苦労成功、良いも悪いもそばで見て育ちます。私もその一人で、こんな仕事絶対やるもんかと思っていましたが、今では親父と一緒に夢中に仕事をしていきます。不思議ですが、この選択が良かったと心底思います。なかには喧嘩や考えの違いで離れるケースもあるでしょう。それでも私は言いたい「家業があるなら飛び込んでほしい」共に汗を流し働くこと

を強くおススメします。

大人になり家庭ができ、親とも距離が開くと、本気でぶつかり一緒に悩むことも減るのが一般的です。ふとした時に思うのですが、こんな経験を大人になって出来る親子って宝くじを当てるより貴重で幸せなんだな。今でも親父と祖父は頻りに喧嘩してます(笑)。きつと死ぬまで喧嘩するんでしょう。傍から見れば阿呆に見えてもそれが互いの生きる糧になって、私のような阿呆に伝播する。そしてその糧を今度は私達が背負っていくんです。



活気に満ちあふれた月イチ定例会。

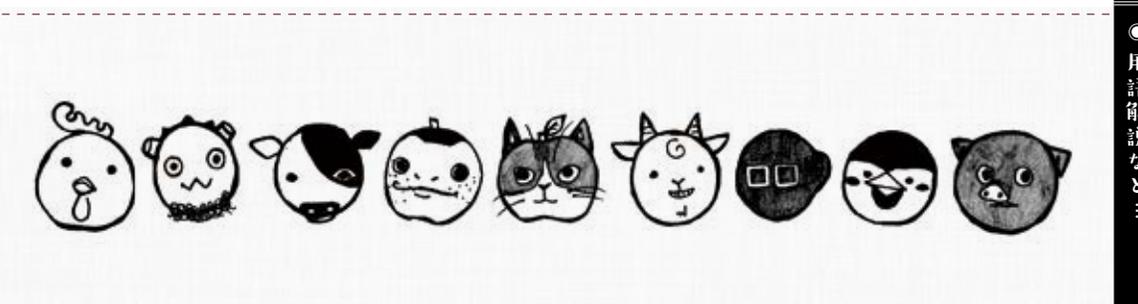
10年後2026年には、農業の高齢化、後継者不足、地場産業の衰退も今以上に深刻だと叫ばれる世の中かも知れません。でも私はそうは思いません。逆に私たちが10年後の若者には多くのチャンスと可能性が広がっていると思うんです。代々受け継がれてきた糧(たぐ)をしっかりと握りしめ、次の世代へ渡していく使命。同時に社会での役割を考え、チャンスを手掴みで欲しい。「こせがれ」達の中からそんなイケてる若者がたくさん出てきて欲しいと願っています。

## 2010.11~ 宮城のこせがれネットワーク

文：志村 竜生

👍 「ツツケカタ」のポイント

- 🌸 全国の先行事例を参考にする。
- 🌸 名称を同じにすることで、他の地域との理念を共有しやすくなる。



● 用語解説など



農家のこせがれネットワークの宮治勇輔さんと共に宮城のこせがれの生産者宅を訪れる。



永勤染工場(仙台市若林区南染師町)でこせがれ旗を仲間と作る。

#### PROFILE | 志村 竜生 (しむら りゅうぎ)



一般社団法人宮城のこせがれネットワーク 代表理事  
1985年9月16日生まれ、A型、宮城県白石市出身  
東京農大卒業後、2年間の社会人生活を経て、2010年5月家業である有限会社竹鶏ファームの経営に参画。その半年後2010年11月に宮城のこせがれネットワークの活動を開始。座右の銘は一卵入魂。

会場が満員となったセミナー。被災地応援ファンド説明会、木下斉狂犬セミナー、きこり女子会。広く告げる会の第ゼロ回だけは意外に満員御礼となった。

### エコから始まった夏の風物詩

『イツフェス』は、五橋公園で毎年8月のお盆前に開催される夏祭り。今や夏の風物詩として、地域住民やサラリーマンの皆さんに定着しています。このイツフェスを最初に立ち上げたのは、この本の中でもたくさん登場する、津田祐樹さんです。



2015年のボランティアメンバー。毎年みんなの力に助けられています。

津田さんは2007年6月、五橋に『三陸おさかな倶楽部』をオープン。そこで当時の学生たちと一緒に『グリーンブリッジプロジェクト』という地域の清掃活動や、『Green Drinks in Sendai』という、エコをテーマにしたお祭りを企画していました。そう、このお祭りこそが、イツフェスのルーツなのです。翌2008年からは『五橋公園グリーンフェスティバル』略して『イツフェス』という名前にかわり、毎年継続していく事になります。私がイツフェスにお客さんとして初めて参加したのは、4回目と



2014年のチラシ。この年は大雨にやられました。

## 2007.8.10~ イツフェス!

文：漆田 義孝



### 「ツツケカタ」のポイント

- 🌸 助成金に頼らない街の中心部のお祭りを仕組み化
- 🌸 周辺の企業、町内会、学生活動者との連帯感がカギ

**屋台**  
一般的なお祭りの屋台というところ、たこ焼き・焼きそば・チョコバナナ・かき氷・わたあめ……というイメージが強いが、イツフェスでは焼きそばと焼き氷以外が目にかからない年も多い。

**五橋公園**  
仙台駅から徒歩10分で夏祭りができるぐらいの広さを持つが、オフィスビルとマンション、仙台中央警察署に囲まれた立地のため近くを歩いても存在に気づかない人も多い。

### 第3章 集ったメンバーから生まれたプロジェクト

る2010年のこと。当時は、この地域にこんな賑やかな、しかも若い人たちが中心になって運営するお祭りがあるんだ！という事に衝撃を受けました。その翌年、東日本大震災が起こります。津田さんは石巻の実家『津田鮮魚店』が津波で大きな被害を受けた状況の中で、その年のイツフェスを開催したのですが、その後は地元石巻に自身の拠点を移す決断をします。

役員を引き継いでいくことになったのです。もちろんこのイベントは、津田さんの他にも沢山の運営メンバーや地元の協賛企業に支えられ、続いてきました。出店者も普通のお祭り屋台とは違う、魅力溢れた地元や宮城の食であふれています。昭和の匂いがあるひなびたお祭りにも風情があります。それが、それとは違うイツフェスの活気は言葉ではなかなか説明できないものがあります。そろそろ次の実行委員長の登場が待たれます。あなたもイツフェスの運営に関わってみませんか？



みんなで盆踊り。お気に入りの写真です。

**タイムスケジュール**

- 7:30~8:30 ..... 清掃活動
- 13:00~16:00 ..... エコワークショップ
- 17:00 ..... 『Green Drinks in SENDAI』開演
- 18:30 ..... みんなで乾杯!
- 18:30~20:00 ..... エコライブ
- 20:00 ..... 『Green Drinks in SENDAI』閉幕

当時のチラシ。初代イツフェスは名前が違ったのです。



イツフェスの一番の魅力は「食」かも。アトリエデリスの佐々木さん。(photo by Ryo Kikuchi)

### PROFILE | 漆田 義孝 (うるしだ よしたか)



NPO 法人メディアージ代表代行・NPO 法人ファイブブリッジ理事  
青森県階上町出身、1983年生まれ。一時埼玉県育ち。東北大学文学部（ヨーロッパ史）卒業。大学では放送研究部に所属し、卒論で活版印刷を扱うなど、情報発信に関心を持つ。同期の多くが東京に就職することに違和感を持ち、仙台の人材IT会社に就職。震災後は、写真や映像で記録を取り組み、生産者や事業者の支援も行う中、勢いで会社を辞める。様々な情報を発信することの価値・可能性と、一人ひとりが情報を読み解く力「メディアリテラシー」の必要性を感じ、NPO 法人メディアージとして震災復興や政治・音楽など様々なテーマの映像制作に取り組む。ほか「TRY6 チャレンジショップ」「WE プロジェクト」スタッフも。

かつて催された「映画をみる会」。「フラガール」を鑑賞し、男だけ5人が全員が涙した。参加者は、佐々木のオッサン、畠山茂陽、山崎賢治、山田康人、もうひとりには忘れた気がする。

### ほやで地域を巻きこみ、石巻から世界へ

ほやエキスポは、実行委員長の小さな王子こと津田（祐樹）さんのセンスと先見の明と、地元石巻への危機感が凝縮された企画だったと思います。これだけ地元の商業関係者や行政等も巻き込み、石巻内外の若者がスタッフとして参加し、県外からも多数お客さんと呼んだイベントは、震災前にはそうなかったんじゃないでしょうか。

まだブランドの確立していない『ほや』をテーマに石巻を盛り上げる試みは、大きな注目を浴びました。女川町のほやチンコ（ほやのパチンコ）や気仙沼市のホヤぼーや、ほやが好きなベガルタ仙台のベガツ太くんも参加し、オールスターズの様相を呈する一方、オリジナルキャラのほや娘がセーラー服を着てステージを仕切る様は、まさに力オスでした。コンセプトをエキスポII万博にしたのも、他の物産イベントと差別化でき、なにより格好良かった



シンガーソングライター斎藤明博さんによるテーマソング「ヤッホーホヤハレルヤ」をみんなで熱唱！

### 集ったメンバーから生まれたプロジェクト

もともと津田さんの構想は10年計画で、2020年には本場の万博を石巻で実現したいと語っていました。ほやエキスポが商業的に成功すれば、連携力の弱い石巻の売人たちも乗っかってきて、地域全体を巻き込んだイベントがつけれるという想いもありました。まさにほやエキスポはその第一歩を踏み出したと誰もが感じていた中、東日本震災は全てを飲み込んでしまいました。



じゃんけん大会中。ベガツ太くんに、ほやチンコも見えますね。



CMに出演した、当時大学生の勝部達也と武田紗貴（ほや娘）。震災後にそれぞれ県内の農業法人・水産会社に就職しました。

私は当時広報のお手伝いをし、YouTubeでCMを公開したり、日本でサービスが始まったばかりのUstreamでイベントを生中継したりしていました。今の私の活動につながっています。

イベント2日目にあの東スポがほや娘の取材に来た時にはびっくりしましたが、その後もアスキー・メディアアークス（現KADOKAWA）の雑誌に特集されるなど、中央メディアの関心を集められたという点では、やはり特異なイベントだったと思います。



晴天にも恵まれ、本当に沢山の来場者が石巻に来ました。

## 2010.7.17 -18 世界ほやエキスポ in 石巻

文：漆田 義孝

**「ツツケカタ」のポイント**

- 🌸 全国と比較して、地域ならではの資源を発掘しフォーカスし、発信する。
- 🌸 協力者に具体的に役割を渡し、心からお願いし、感謝する。

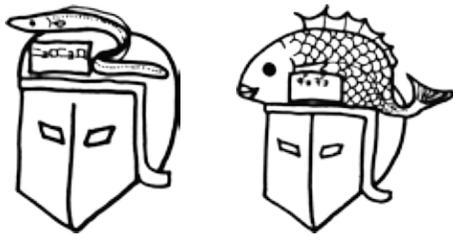
**ほや**  
海のバイナッブルとも呼ばれ、好き嫌いが分かれる珍味。生のほやの旬は5月から8月とされる。このわた（なまこの腸）と合わせ塩辛にしたものを特に「ぼくらい」と呼び、酒の肴としてマニアックな人気を誇る。植物繊維の主成分でもあるセルロースを生成して殻を作る、非常に珍しい動物。貝類ではない。

3,000種も仲間がいるが、食用になる種は多くない。日本のほか、韓国・チリ・フランスなどで食用にされる。国内では主に三陸沿岸で「まほや」北海道で「赤ほや」が収穫される。西日本では食べる習慣がないらしい。三陸沿岸では養殖が盛んだったが、東日本大震災で大きな被害を受けた。

殻をむく際は、「+」と「-」の切れ目がついた突起のうち「+」の方から切らないと大変なことになる。なお「+」の方から切ったとしても結構勢い良く中の水分が飛び出すので注意。

用語解説など

ちなみに、ほやエキスポのTwitterは現在も稼働しており、ほやや防災に関する情報発信を継続しています。中の人は、秘密です。（笑）



実は理事長の畠山は、ファイブブリッジができてから2年間、仙台にいなかった。その頃から今の場所を支えていたのは、渡辺一馬その人である。

第3章 集ったメンバーから生まれたプロジェクト



イタリアの街は絵になるスポットばかり。

交換をはかっていきました。約5年の間に、みどりさんは5回にわたって宮城を訪れ、各地域の人々と深く関わっていきます。イタリアへと訪問する宮城県のメンバー達にもそれぞれ、盆栽展や、イタリア北部地震の被害を受けたモテナ・カヴェツツオの視察、新婚旅行、ミラノ万博、日本酒プロモーション、塩釜とキョッジャとの姉妹都市交流、学会参加の際など、多岐に渡っています。みどりさんのお陰でスベ



サンファン館の濱田館長を招き、ミラノのみどりさんを交えトークショーを開催。

シャルに現地視察ツアーのコーディネートをお願いしています。まさに個人的なつながりから、イタリアと宮城をつなぐプロジェクト支援へとなりました。息の長い交流を続けることから、将来さらなるビッグな出来事が生まれる予感がしています。



ミラネーゼと政宗公が「伊達政宗型」で一献。



フィレンツェでは、活版印刷でミヤゲーゼの名刺を作り、ご満悦の一群。



ビズカフェミラノの嶋末みどりさんと。震災後5年で5回宮城を訪れて交流を続けている。

宮城とイタリアの人々との息の長い交流活動と

2013年のサンファンパウティスタ号出帆400年をきっかけに、市民発の宮城×イタリア交流・交易を目的としたコミュニティが生まれました。きっかけは、2011年11月の「セキユリテ被災地応援ファンド」気仙沼の被災企業を視察する応援バスツアーでのできごと。バスガイドを務めた畠山茂陽が、ツアーの最後に「支倉常長一行の縁のあるイタリアとの交流プロジェクトづくりが、400年の時空を超える震災復興事業につながる」と話したことからでした。その一言に反応したのが、同乗していたイタリア・ミラノ在住の嶋末みどりさん。日本企業やアーティストのヨーロッパ展開におけるプロモーション活動やシンポジウム等のサポートを行っている方でした。メールでやりとりをし始め、毎月第3水曜日の夜にSkypeミーティングを開き、アクティブな情報

2012.12 ~ ミヤゲーゼ Miyaghese ~ miyagi と milano をつなぐロマン使節団

文：畠山 茂陽

「ツツケカタ」のポイント
地域と世界のつながりを見だし、様々な場で発信してみる。
スカイプなどの無料映像ツールで、定期的に話す場をつくる。

PROFILE 畠山 茂陽 (はたけやま しげあき)
NPO法人ファイブブリッジ理事長 (河北新報社勤務)
宮城県仙台市出身、1969年生まれ、乙女座、AB型。
仙台一高(硬式野球部)⇒日本大学法学部新聞学科卒(広報広告論ゼミ)。
1993年河北新報社入社。現在は販売部(学び応援チーム)に所属し、営業畑から新聞普及のために新発想のプロモーションを仕掛ける。「飛び出せ、新聞社員諸君!」をキーワードに、地域に愛される役割を担うべくオンオフの境界線なく発信活動の幅を広げようと、社内に限らず全国の仲間にも呼びかけている。座右の銘は「ないものは、つくるしかない」。10年後の夢は「地域情報をバランスよく摂取する人を8割にすること」。

用語解説など
サンファンパウティスタ号
伊達政宗が建造した西洋式の大型帆船。家臣の支倉常長と宣教師ルイス・ソテロらが慶長遣欧使節として、牡鹿半島の月の浦を出航、太平洋を横断しメキシコ・アカプルコに到着した。なお使節団はその後の船でヨーロッパに向かい、スペインやローマに入った。
セキユリテ被災地応援ファンド
36ページを参照
モテナ
イタリア北部・ロマーニャ州にある県及び都市の名前。県内にはフェラーリの本社があるなど工業が盛んで、またバルサミコ酢やパルミジャーノ・レッジャーノといった多くの特産品を有する。



「DATE COLLECTION 伊達是」の出陣式。「プリンマン」となった濱口竜平さんが伊達武将隊を前に賑々しく宣言した。  
画像提供：アリティィーヴィー株式会社

親愛なるファイブブリッジさま。あなたに逢えて本当に良かった

宮城県出身の私は、物心つく頃から当たり前のように「牛タン・笹かま・ずんだ餅」を食べていた。牛タンの発祥の『太助』には小学校の頃には行っていたし、「笹かま」は蒸して食べたりもする。とりわけ「ずんだ餅」というより「ずんだ」そのものが大好きで、団子を買うときはいつも「ずんだ」だった。

そんな私にとって、大人になってから知った「牛タン・笹かま・ずんだ餅」は、実はそのほとんどが「海外産」や「県外産」という事実が驚天動地でした。宮城県にも「仙台牛」「栗駒漢方牛」「若柳牛」などがあるのだから牛タンはあるはずなのに、なんで？ もち米や枝豆を作っている農家さんはたくさんいるのに、なんで？

世界三大漁場のひとつ三陸沖では美味しい白身魚が獲れるのに、なんで？ 素朴な疑問を胸に、宮城県や仙台市へ問い合わせをしたり、販売店や組合、生産者へと話を聞きに

どうだったんですか？  
事務局長さん「そりゃあもう美味しいに決まってるよ。あつはっはっは」

私は失望落胆してしまっただけ。  
しかし、ピンチはチャンス！

笹かま製造業の跡継ぎに先輩面して強引に頼み込んだり、食肉処理会社の机をたたきながらの激しい口論などを繰り返しながら、ついに原材料が宮城県産の「牛タン・笹かま・ずんだ餅」が出来上がった。2010年に夢メッセで開催されたイベントで「仙宮箱」(せんぐうばこ)というお弁当としてデヴュ!!

でも、一般流通する仕様ではなかったもので、いつかこれらを宮城県の本当のお土産として復活させたいという願いが私のライフミッションの一つとなったのです。その基盤づくりのために創ったのが『DATE COLLECTION 伊達是』というグループ。宮城の風土や地域を愛し、安心安全はもちろろん本質的な食の発展を願ってモノづくりをし、

そんな同じ志を持った仲間のために惜しみなく協力できるこの上なく素敵な有志たち。この創業メンバー、

第3章 集ったメンバーから生まれたプロジェクト



重厚なタッチの「伊達是」パンフレットの表紙。

2016年7月現在のファイブブリッジメンバー7人の平均年齢はおよそ37歳。なお最年少は26歳(佐々木)、最年長は46歳(畠山)である。

# 『DATE COLLECTION』伊達是

文：濱口 竜平

「ツツケカタ」のポイント

- 🌸 ネットワークの力で商品の魅力をアップ。
- 🌸 メンバー間で新たな販路づくり。

● 用語解説など

**牛タン**  
牛の舌。世界各国で食されているが、戦後に仙台で独自の牛タン文化が発達し名物になった。

**笹かま**  
笹の葉の形をしたかまぼこ。明治時代から仙台市内で独自の形状のかまぼこが作られるようになり、伊達家の家紋にあやかっけて笹かまと呼ばれる県内全域で製造が盛んになった。

**ずんだ**  
枝豆やそら豆を潰したものを、砂糖を入れて甘くするものがある。伊達政宗が広めたと言われており宮城県以外にも郷土料理に用いられている。



裏面はこのようなメンバーの商品が。今やおなじみの仲間たち。

実はみんなファイブブリッジでござるをいただいた方々なんです。いやあ、ほんと、いちいちいいね！  
ファイブブリッジ。



PROFILE 濱口 竜平 (はまぐち りゅうへい)



プリンカンパニー 代表。  
1972年、仙台市出身。年間800個以上のプリンを食べる大のプリン好き。  
47都道府県のご当地プリンを作ることを自らのミッションとし、プリンの奥深い魅力を伝え、材料の産地見学から製法や店づくり、運営接客まで幅広くプロデュース伝授する「プリンマン」。全国の「本気の生産者」に触発され、宮城県の「いい食材いい生産者」探しもライフワークとしている。テレビ番組「マツコの知らない世界」では、プリンの専門家として紹介され、マツコ・デラックスをも唸らせた。国際プリン協会 Chairman。詳しくは <http://11purin.com> をどうぞ。座右の銘は、「My life is PURIN.」。

ファイブリッジは活動を支えてくれる正会員・賛助会員をいつも大募集しているが、運営メンバーが控えめなので募集しているように見えない。

第3章 集ったメンバーから生まれたプロジェクト



さっそうと駆け抜けているように見えて、かなりしんどい階段のぼり

「ノボレミヤギ！」の言葉と共に宮城への熱い想いを身体と心で表わす魂のイベント

「ノボレ、ミヤギ！」

宮城を愛する人々の想いを乗せ、その日、確かにその熱い気持ちは、空を駆け登った。「ノボレミヤギ」はファイブリッジでもコアなイベント。知る人はファイブリッジマンニアか、はたまた何者か。ことの発端は札幌で開催された走りながら札幌



延々と続く大年寺の階段。なぜか馬面な輩も、ヒヒン、ヒヒーンとうなっていた。

愛を叫ぶ「走れ！ サッポロ」というイベント。ここでは札幌市民が札幌愛を叫び、走った。では、宮城では何が出来るか。そう考えた我らがファイブリッジの畠山さんは「走れ、ミヤギ」では、ただのパクリである。ならば、我々はその上を目指そうとし、階段を駆け登り、宮城への想いを叫び、宮城を盛り上げようとして始まったのが、「ノボレミヤギ」だ。そんな（勝手に）伝説のノボレミヤギが行われたのは2007年、場所は大年寺。雨ながら、集まった宮城愛を持つ我々は結束し、宮城への愛を叫びかけ登った。その後は2013年に石巻で第2回目が開



ひたすら登って降りる。宮城のために「ノボレ」

催。ノボレミヤギも来年10周年。2度ある事は3度ある。第3回への階段を登る時は来た！?



日和山（石巻市）で行われた第2回目。津波被災地を駆けノボル意義を共有し合った。

2007.3 ~ ノボレミヤギ!

文：西 良弘

「ツツケカタ」のポイント

- 🌸 シンプルなことから、まずはやってみる。
- 🌸 写真・動画の記録を残し、次のプロジェクトの参考できるようにする。

PROFILE | 西 良弘 (にしよひろ)

仙台冷し中華連盟代表  
 1986年5月23日生まれ A型 埼玉県川口市出身、宮城県仙台市育ち  
 2005年：宮城大学入学  
 2006年：仙台冷し中華連盟  
 2008年：仙台冷し中華連盟代表就任  
 2011年：仙台市産業振興事業団就職  
 座右の銘：やりたい事はやる



大年寺  
 仙台市太白区、国道286号線の東端付近にある、伊達家に由来する神社。周辺は大年寺山と呼ばれる。

走れ！ サッポロ  
 2006年当時の札幌市長も走ったらしい。

◎ 用語解説など



大いに賑わった銀座での出店。

主催の「T⇄MAP」は震災時にできた団体ではありません。渋谷で宮城の日本酒と食材を使った「Bar 公界」の開店時に、ファイブリッジ理事たちが東京へ転勤

### ファイブリッジの架け橋を銀座に

3・11の東日本大震災から3か月後の夏、東京銀座で開催した「Tokyo⇄Miyagi Action Project」主催の宮城震災復興イベント『MIYAGI AID』。あれから5年経ちました。あの熱かった夏の思い出はファイブリッジと共にありました。

主催の「T⇄MAP」は震災時にできた団体ではありません。渋谷で宮城の日本酒と食材を使った「Bar 公界」の開店時に、ファイブリッジ理事たちが東京へ転勤した時の交流から始まり、宮城に関わる方々や就職で東京に来る若者が集まった日々の中で「東京と宮城の架け橋」をコンセプトに2010年12月に作った任意団体です。その後、東京・宮城との交流ツアーなど、今後を計画していたところで発生した3・11。その後の様々な情報と出会った人との交流の中で生まれたのが『MIYAGI AID』なのです。コンセプトは「宮城のリアルな現状を知ってもらうこと」と「宮城の事業者支援」。宮城の加工品や日本酒などを販売する物販・飲食ブース、事業者支援マッチングブース、宮城の事業者のリアルを伝えるセミナーの3つから構成し、以前から縁のあった「ファームエイド」にご協力を頂き開催しました。企画から開催まで3か月の期間を少ないメンバーで駆け抜け、のべ100名近いボランティアの方々と共に、1000名以上のお客さまにその時のリアルな宮城を東京の銀座で伝えられたと思います。

あれから5年、『MIYAGI AID』に関わった人たちは、新しく事業をおこす人、また事業者支援の活動をやる人たち以外にも、仙台へ移住して活動する人など、様々な分野で活躍をしています。では『MIYAGI AID』とはなんだったのか？ それは架け橋であり、場でした。場があつて初めて見て、知り、体験し、経験して、実践すること。その出会いを伴うことの重要性でした。その前例がファイブリッジです。「T⇄MAP」はファイブリッジの架け橋を東京まで繋げたものが『MIYAGI AID』へと繋がったのだと思います。今年で10周年を迎えるファイブリッジ。これからもみんなの心の架け橋として、皆さまにつながり続けますように。



宮城の事業者のリアルな言葉に耳を傾ける聴衆。



東京と宮城のキーマン達をつなぐ掛け橋となった「MIYAGI AID」。

2011.7

## MIYAGI AID (ミヤギエイド)

文：木村 光



### 「ツツケカタ」のポイント

- 🌸 東京での宮城ファンづくり。
- 🌸 震災後の長きにわたる人と人のつながりに発展。

ファームエイド  
小規模農場や個人経営の農家を支援するイベント。日本版は銀座で年4回開催されている。

### PROFILE | 木村 光 (きむら ひかる)



SAKEプランナー  
1975年9月15日、O型、東京生まれ  
中古衣料品卸事業会社から独立後、東京渋谷にて宮城の日本酒と食材を使ったBar 公界を開店。現在は日本酒事業のプロデュース会社を経営。

第3章 集ったメンバーから生まれたプロジェクト



仙台防災フォーラム2016ではブース出展、ミニプレゼンも行った。



豪雨での避難の話題がきっかけでプロジェクトはスタートした。

『チーム200秒』  
「200」を想像する  
とで救える命

2011年3月11日に揺れた時間は約200秒でした。どこかでまたあの200秒を体験することになったら…。その瞬間その場所で生き残る方法をみんなで考えようという試みです。

発端は「防災でひとつだけ心がけるとしたら？」との問いに防災士の鈴木健司さんが応えた「初期動作」

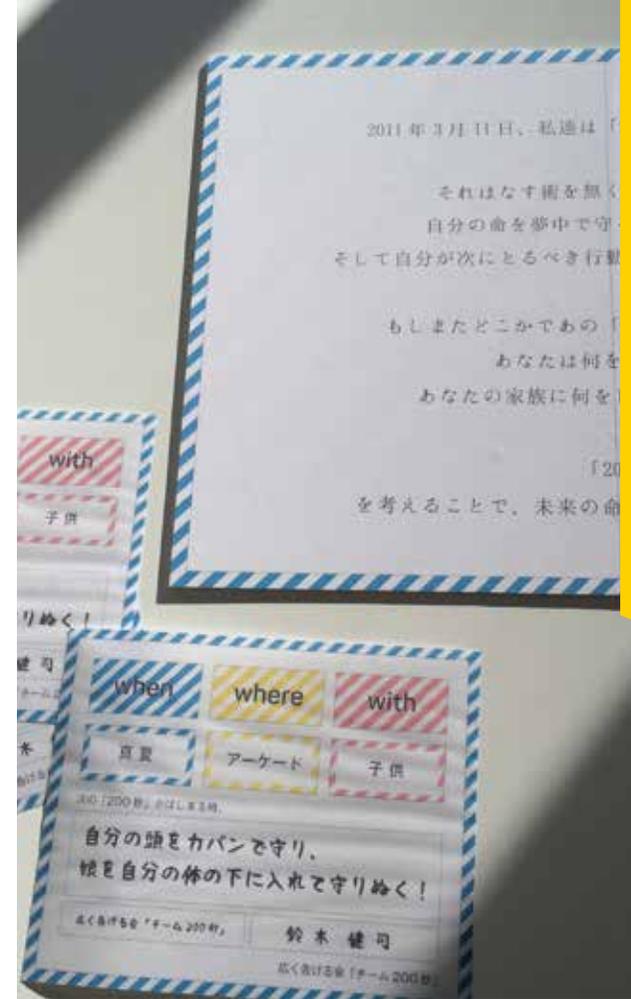
の一言。危険に直面した時に、生き残る行動のイメージを持つていることが一番最初の防災だという考えでした。

そこで私たちは、「when」「where」「with」の3種類のカードを準備しました。それぞれの山から1枚ずつカードを選択して「200秒」が始まる瞬間の状況を疑似設定し、その時自分がどう動くかを一緒に考えます。

ひとつ例を作りましょう。



3種類のカードを使用し、ゲーム感覚で防災時の行動パターンをシミュレーションできる。

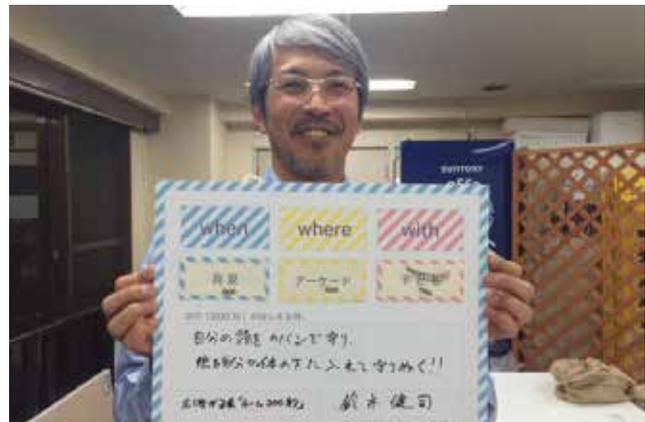


# 2016.3~ チーム200秒

文：小山田陽

「ツツケカタ」のポイント

- 🌸 続いていることで、コミュニティの中から、予期しないプロジェクトが自然に生まれる。
- 🌸 メンバーの強みを組み合わせて、カタチを作る。



防災士の鈴木健司さんも絶賛の防災シミュレーションゲーム。

「when: 早朝」「where: 風呂」「with: 恋人」あなたは どうしますか? 「タオルで恋人と一緒に体を保護し、鏡などの割物から離れて揺れが収まるまで身を守る」とかはどうだろうか?

まあ状況によって何が正解になるかは分かりませんが、考えておくことが防災の第一歩目なのです。

PROFILE | 小山田陽 (おやまだ よう)

建築系デザイナー  
1978年5月5日生まれ O型 山形県河北町出身  
アトリエ系建築設計事務所卒  
座右の銘: 本質と素直



●用語解説など…

仙台防災未来フォーラム  
2016  
国連防災世界会議の1周年記念として行われた、防災・減災について考えるイベント。



寄稿

## Five Bridge と僕

佐藤 尚太

ファイブブリッジと僕、  
「しょう17歳」から今まで。

10年なんです、ね、誕生したのがつい最近の事に感じます。その当時17歳だった私は、高校帰りに学ラン姿で出入りし、「蜜談」を日々やってきた記憶があります。以降、さまざまなプロジェクトに関わりました。私自身が地域的な「リア充」となったキッカケですね。

それだけの企画に参加したか記憶にない程ですが、大小問わず実現につながったのも、スペースからの後押しがあったからです。私は楽天イーグルスを創設時から応援し、初心者向けのスタジアム観戦ツアーやイーグルス応援バー@シェアカフェなどを開催し、所属・年代を超えた「横のつながり」を嬉しく感じています。現在は仕事の都合で宮城を離れ、東京を拠点に関東各球場でのイーグルスの応援、芋煮会、宮城県人会など、人が繋がる場を不定期ながらも設けています。どの地域に住んでいても、「ファイブブリッジマインド」を活かしていきたいものです。

10年後はもっと面白く、  
そして若者への援護射撃を。

ファイブブリッジの皆さんと関係を持って10年。出会った当時から、社会変化を生み出したことは明らかでしょう。宮城・仙台の学生・若者が何かに取り組むにも、プラットフォームが増えました。震災以降に首都圏の人間が来仙する機会が増え、情報のスピードがグッと早くなったと感じています。イーグルスの応援を通じて地元と東京を行き来する事は多いですが、「あつ、この情報入っていたんだ!」と思う事が多くなりました。

情報の流通が進んだ事は良いのですが、それを活かしてこの街をもっと面白くしないと意味がありません。周りの皆さんと手を取り合い「ないものは形にする」しかありません。現在、東京拠点で動いていますが、地元の若者への援護射撃は死ぬまで続けたいものです。手を取って支え合う事はどこでも出来ません。

### PROFILE | 佐藤 尚太 (さとう しょうた)



全国を飛び歩く「ほろ酔い系」東北楽天ゴールデンイーグルスサポーター。1988年4月3日生まれのAB型。宮城県仙台市出身。東北工業大学工学部卒業後、仙台の飲食店開業支援系企業を経て東京のインターネット系企業に勤務。モットーは「とりあえず動いてみる、感じてみる、会ってみる。」。右投両打。



## Q. ファイブブリッジってどんなところ!?

- ① ファイブブリッジを動物または料理に例えると?
- ② そう思う理由
- ③ ファイブブリッジに関する思い出またはエピソード
- ④ プロフィール (氏名、肩書、現住地、ファイブブリッジに主にいた期間)

- ① カメレオン (動物じゃない?)
- ② シーンによって様々な色を見せてくれるから。
- ③ Oはたからスタートして、今ではFBユニテッドメンバーです。
- ④ 及川雪乃 (旧姓:三浦) (元Oはたクルー / 名取) 2010-2014

- ① 吹雪の夜の温かいおでん
- ② 志高くも、優しくさびしがり屋の人に群がった面々……。え! 畠山さんのこと。
- ③ おかげ様で忙しくなりましたが、相変わらずほや親父しています。
- ④ 木村遼男 (三陸オーシャン代表取締役 / 仙台) 好きなもの「ほや」、趣味「ほや」、愛しているもの「ほや」。

- ① 日替わり定食
- ② 定食という場の上に多士済々な面子が入れ替わり現れるトコ。
- ③ 日替わりマスターバーのプロジェクトや映画上映会かな! 村井知事や奥山市市長も来たことあるってみんな知ってた?
- ④ 山崎賢治 (NPO 法人ハーベスト・宮城県庁 / 仙台) 2006 - 2011

- ① フュージョン料理
- ② 多様な個性が集い、仲良しで、味わい深く、美味しい
- ③ 3年前に数回訪問しました。仙台に移住するのかなあと漠然と思いながら、モラトリアムな日々を過ごし、多賀城、塩釜、石巻、気仙沼、女川、亶理など訪問後、更にルワンダ、ポルトガル旅行後、ミラノに合流予定が力尽きて、帰国中にブロックチェーンにハマったのも不思議な巡り合わせです
- ④ 本間善実 (ブロックチェーンハブ CMO / 東京都) 2012-2013

# 愛とは、未来を願うこと。

Love is, to pray for the future.

新しい命と育む、みやぎのあられのやさしい未来。

2016年6月12日。日曜日の夕方。みやぎのあられさんに、新しい命が生まれた。待ちわびた、かわいいかわいい女の子だ。まずは、みつちー、おつかれさま。がんばったねえ。ほんとによかったねえ。

生まれてから1ヶ月ほどして、赤ちゃんに会いにいった。行った時は、ちょうどお昼寝から目覚めるタイミングで、ほくも抱っこさせてもらった。ちっちゃいなあ。ほくの下の子ども（4歳）もまだまだちっちゃいと思っただけで、やつぱりこうやって抱っこしてみるとちっちゃさがわかる。まだ眠そうにしている。かわいいいな。

女の子の名前は「尚穂（なほ）ちゃん」。まごころ込めてお米づくりから取り組むみやぎのあられさんの田んぼの、やさしく実る稲穂のイメージがピッタリだ。どうか、そんな稲穂のように、いつまでもやさしい笑顔を揺らす子どもに育つように。

小さな子どもを見ているとよく思う。「愛」ってなんだろうなあ。

今よりもっと若いころは、愛という恋の延長みたいなもので、よく言われるように、恋が見返りを求めるのに対して、愛は無償のもの？ みたいな漠然とした考えしか持っていなかったけれど、自分も成長して子どもが生まれたり環境が変わってくるにしたがつて、そうじゃないよな、と思うようになった。

まず、男のほくの場合、恋心は女性に対して抱くものだけど、愛はそんなことはない。同様に、恋心は基本的に一人に対してかもしれないけれど、愛はそんなことはない。性別年齢問わず、いろんな人に対して抱けるものだ。

思うに愛とは「未来を願うこと」なのだ。大切な人が、その未来において幸せでいられるように、祈り、<sup>こころが</sup>希い、もがく。家族でいるからには、家族みんなで未来を語る。一人ひとりがお互いの未来を願う。

尚穂ちゃんを見つめる二人のまなざしに、そんな願いを感じずにはいられなかった。



尚穂ちゃん生まれる直前の二人。元気だ～

「未来を見つめ、いまを響かすひとの見開き一枚誌みらいろ」は、ファイブブリッジ理事の鈴木圭介が、身近なひとや事からの魅力を表現した、雑誌の見開き風の一枚誌です。好きな写真で、「こころ」で、文章で、誌面のデザインで、それを主にWeb上で、遊び心入れつつゆるーく発信しています。

# 「若者こそ『仕事と地域』のスゝメ

◆ 佐々木敦斗あつと

「東北のために働きたい」と記者を辞め、転職して仙台にやってきたのが昨年秋。そこからファイブブリッジの畠山さんの熱烈な？ お誘いを断りきれず、運営スタッフに加入した。

とはいえ、ビジネスマンデーは毎週埋まっているし、私が入り込むスキマなどない。さて最初はどこな企画をしようかと考えていたところ、学生時代からお世話になっている作家・真山仁さん（「ハゲタカ」などの著作で有名）から連絡が入った。「読書会を企画してもらえたら、真山が呑みに行きますよ」。

そんな一通のメールがきっかけになり、5月22日に真山さんのトークセッションを無事に開催することができた。参加者の方には

被災地の小学校をテーマに真山さんが執筆した2冊を読んできて頂いた。参加者の疑問や感想にその場で真山さんが答えていくという空間は初めて味わうもので、懇親会まで含めて大いに盛り上がり、多くの「マヤマー（真山ファン）」を仙台に作る事ができた。

そうそう、このトークセッションはファイブブリッジの10周年イベントとして開催したので、ファイブブリッジ宛てにサイン本をいただくこともできた。

仙台に来て半年が過ぎたが、記者の経験を活かし、自分の住んでいる宮町地区のフリーペーパー、「038（おみや）プレス」の編集にも関わっている。普段は営業マンとして東北を駆け回り、仕事終わりにファイブブリッジにふ

らっと立ち寄り、自分が住んでいる地域の取材に関わる。日常の中で二役も三役もこなす生き方は、正直言って同年代にはまだ受け入れられていない（笑）。

それでも、仙台だからこそできる「仕事と地域の両輪を回す生き方」の面白さを伝えられれば、若者が東北に「戻る・残る・やってくる」流れができると思っている。真山さんのトークセッションの後、岩手・東北の地域づくりを考える「岩手わかすゼミ in 仙台」を企画したが、その時は学生のみなさんにも集まって頂いた。学生にとって私は「少し年上の話しかけやすいお兄ちゃん」のほはずなので、どんどん巻き込んでいければ、と思っている。20周年の時には最年少になっていないことを願って…。

PROFILE | 佐々木敦斗（ささき あつと）



岩手県盛岡市出身、1990年生まれ、おうし座、AB型。盛岡一高（弓道部）⇒東京大学教育学部卒。2013年に大学卒業後、全国紙の記者として広島、姫路で事件・事故や高校野球などを担当。2015年秋に「故郷・東北で働きたい」と2年半務めた新聞社を退社し、仙台にJターンする。会社員として働きながら、自分が住む青葉区宮町地域のフリーペーパー「038 プレス」の執筆に参加している。ファイブブリッジでは5月から岩手を「沸かす」若者をゲストにこれからの地域づくりを考える「岩手わかすゼミ in 仙台」を始めた。夢は「仕事と地域の両輪を回す生き方」に挑戦しながら、若者が東北に戻る、残る、やってくる流れを作ること。ちなみに仙台との縁はファイブブリッジの5周年記念パーティに参加したことがはじまり。



第4章

# ファイブブリッジ名物イベント

独特のテイストの「ファイブブリッジらしい」イベントはこうして生まれた。その裏側を一挙大公開！

自分の語りたいことを語り、仲間の語りを聞く、というシンプルなスタイルにもかかわらず、毎回不思議とサプライズが数多く生まれているイベント。

『オレの話を聞け』のテンションで、自分ならではの「哲学・主張・人生・その他なんでも好きなこと」について、参加者にリレートーク形式で一日中語ってもらおう場です。実は、TEDのプレゼン手法がブームとなる以前の2007年新春から行われていたりします。

最初の頃は年に1〜2回行われていましたが、最近では新春恒例イベントとして定着しました。朝から夜まで開催し、途中入退場は自由、夜はそのまま新年会、というの、いかにもファイブブリッジらしいですね。

普段ファイブブリッジになかなか来れない人も、常連の人にも、初め



2007.1~

# ブログロックフェスティバル

文：漆田 義孝

自分が語りたいテーマをなんでも語ってOKな機会、実はなかなかないですよ？

## 2013年のブログロックではみんなはこんなことを話したよ

1. 渡辺 一馬 さん「ファイブブリッジとブログロックの歴史」
2. 平間 徹也 さん「イギリスどうでしょう」
3. 菅原 大樹 さん「2012年の振り返り(農家の息子としてのキャリア)」
4. 梅津 智幸 さん「ネットゲーム人生(からの卒業)」
5. 河合 豪雄 さん「数理モデルで社会を考える」
6. 漆田 義孝 さん「the pillowsのような生き方について」
7. 山崎 賢治 さん「役人雑感」
8. 坂上 英和 さん「シェアハウスのススメ」
9. 工藤 朗 さん「海外留学のメリット」
10. 安齋 慎平 さん「ソーシャルでの情報の拡がり方」
11. 佐藤 尚太 さん「ヒトとウェブと野球を愛する24才」
12. 松永 健 さん「ハーモニカ、マジック、似顔絵」
13. 菅野 光憲 さん「1年の計は、ブログロックにあり」
14. 安部由香利 さん「社会人になっての私と、働き方」
15. 佐藤 文行 さん「目の覚ませ、日本の消費者」
16. 松永 豪 くん「中学校のこと(&将来のこと)」
17. 鎌田 大地 さん「地域プロデューサーとは？」
18. 平間 拓也 さん「広島カープ」
19. 矢内ちひろ さん「DVについて」
20. 佐藤 裕貴 さん「もちろん角田市について」
21. 大友 越雄 さん「I F I AM」
22. 山田 康人 さん「記録に残す」
23. 鈴木 圭介 さん「司会お疲れ様でした」
24. 遅れてきた畠山理事長「理不尽の布陣の敷き方」
25. 石井 力重 さん「プレインストーミングカード」
26. 瀬戸 恵介 さん「輪廻転生」
27. 三国 俊博 さん「復興の意味を考えよう」
28. 三上 和仁 さん「一般社団法人パワクロ」
29. 鈴木 まい さん「参加者として」

ましての人も、たくさん参加しますが、話を聞きに来るだけでも楽しいですが、きっと他の参加者の自分語りを聞いている間に、あなたも何か話したくなっちゃうかも……。



看板にもロックな気合いが感じられます。



朝から夜まで、沢山の参加者が。



原さん、原監督の記事を手に巨人愛を語る。

**👍 「ツツケカタ」のポイント**

- 🌸 朝から晩までメンバーの話を聞くことで、互いの考えを知ることができる。
- 🌸 イベント名称を一捻りすることで、注目度が高まる。

**TED**

中年のテディベア：ではなく、テクノロジやエンターテイメント分野の第一人者が、洗練された様式でプレゼンテーションを行うイベント。単なる著名人だけでなく、無名ながらTEDを通じて脚光を浴びた専門家、活動家も多い。本場アメリカのTEDカンファレンスへの参加ハードルは高いが、世界中でTEDの精神を受け継ぎライセンスを受けた「TEDx」というイベントも開催されて、2012年から2014年にかけては東北でも開催された。



# 2012.4~ カンヅメ合宿

文：柿崎 真沙子

2日目の朝の様子。みんなぐったりと疲れてますね。

## 伝説続々、 カンヅメは進まず

カンヅメ合宿という単語を聞いて、あなたは何を思い浮かべるだろうか？「これまでなかなかやれなかったことを集中してやり遂げてスッキリするというのがカンヅメ合宿の目的です。

カンヅメタイム(集中タイム)は、誰とも話をしないところがポイントです。でもそれ以外の時間はわいわいと楽しい時間を過ごしましょうね！」と謳っているこの合宿。どう考えてもメインは夜の大宴会である。

そして過去に夜の大宴会で様々な伝説が作られた。第1回@秋保では理事長のカエル倒立(記憶なし)、第2回@遠刈田では軽い男のやたら似ているモノマネ(その後定番化)、第3回@遠刈田は夜中まで懐メロを

歌いまくるオヤジたち(記憶なし)、第4回@南会津は…あれ第4回は？

とはいえ、昼間も様々な伝説が生まれたことも確かである。ゴールデンウィークでアウトドア満喫中のファミリー集団の中に突如現れる謎のパソコン集団(うち1名はモニター持ち込み)、2年連続デスクトップのフォルダ整理の終わらない男、心地よいハンモックなどなど…。場所を変え、手を変え品を変え、メンバーを変え、合宿は行われたのである。

そして多くのというには語弊があるけれど半分くらいの参加者は、やり遂げられずすっきりしないのがこの合宿の定番でもある。泊まり込みという言葉にひかれ大量にやりたいことを持ち込んでみた方がいいが、思ったほどカンヅメタイムが長くなるといふよりも夜の飲み会の開始が思った以上に早く、持ち込みすぎを後悔したメンバーもなんと多いことか。



山里で真剣にパソコンと向き合う。



ゆっくりとした時間の流れが心地いい。

しかしそれでも参加者が絶えず、リピーターがいるのが、ファイブリッジのイベントの恐ろしいところである。



合宿終了、帰り際の記念撮影。意外にも元気。



人里離れた環境に、各々の仕事道具を持ち込む。

**「ツツケカタ」のポイント**

- 🌸 仲間と集中して各自のタスクにいそむことで一体感が育まれる。
- 🌸 集中タイムは一切話さないと言いつつ、ちょっと話してしまうのはご愛嬌。

●用語解説など…

- 第1回@秋保  
第1回の会場は「木の家」。
- 第2回@遠刈田  
ヒラードの紹介でプライベート別荘をお借りした。
- 第4回@南会津  
CloudCampという、スポーツとITの融合がテーマの研修宿泊施設を利用した。

PROFILE | 柿崎 真沙子 (かきざき まさこ)

教員 1981年8月25日生まれ A型 東京都出身  
座右の銘：神はサイコロを振らない  
略歴：2000年 渋谷教育学園幕張高等学校卒業  
2004年 明治大学農学部農学科卒業  
2009年 東北大学大学院医学系研究科修了(博士(障害科学))  
2010年 株式会社東北テクノアーチ入社&退職←ファイブリッジと出会ってしまう  
2010-2014年 東北大学大学院医学系研究科  
2014年 - 藤田保健衛生大学医学部



2010.1~2014.3

○はた

文：島山 茂陽

ファイブブリッジや島山さんと関係する様々な人が集まる場に。

### 食卓のココロ・〇はた

【寄稿】及川雪乃(旧姓・三浦)

木曜日、仕事が終わると、チャリで向かうのはサンモール一番町。シェアカフェに到着すると、店主の島山さんが、買って来た食材をカウンターの上に並べている。

「おつかれー。今日はこんな食材があるよ。」これがいつものオープン時の風景。島山さんがお酒とつまみを担当し、料理は(赤洲)利恵ちゃんと私の仕事。「これ使ってサラダ

り盛りただけのこと。

オープン日数は延べ180回。レストランながら、来場者の全員が自己紹介させられる奇妙な場。「こせがれナイト」「〇はち」「〇トス」「ホヤバー」など数多くの事件を巻き起こし、開催場所のシェアカフェのクローズまで、貴重な社交場となったのです。

にしよう」「これとこれでスープが出来るね」メニューは毎回2人のアドリブ。その日にある食材をチェックしながら、キッチンの中でワイワイ試行錯誤するのが楽しかった。

「食卓の『ココロ』『〇はた』に誘われたのは、前の仕事を辞め、次は何をしようかと考えていた時。大学時代から通う、荒町のたこ焼き屋「〇すけ」のおっちゃんから勧められた。島山さんと出会ったのもその時。コミュニティレストランという言葉には戸惑いを感じたけど、「何か見つかるかもしれないよ」とのおっちゃんの一言に、「私で役に立ってるなら」と引き受けた。利恵ちゃんが一緒に心強かった。

当初、「料理のお手伝い」と軽く考えていたのは間違いで、カウンターに出て、お客さんと会話するのも大事な役目。毎行われる「自己紹介タイム」が、苦手な私には大変

### 180回を数えた気楽な晩ごはん

1週間連続の伝説の日替わりレストランや東京・恵比寿でのコミュニティレストランを経て、仙台で気軽に仲間と晩ごはんを食べられる場を求め、島山がエイツとはじめた食卓の『ココロ』『〇はた』。屋号は、荒町の「〇すけ」さん、大町の「〇たけ」さんをリスペクトし、貴重な「〇(まる)」の冠をお借りしました。最初からファイブブリッジを訪れるにはハードルが高い人のために、気軽に仲間を紹介できるサロンが欲しかったからでもありました。

毎週水曜日、仕事を終えてそそくさと買い出しをして、お酒の手配と料理の準備に勤しむ。オープンは7時半から。ひとりでの切り盛りは心許なく、女性の力で集客を狙おうとの魂胆で、当初は「マドンナ制」を敷く。

数回して早くもお願いする女性が枯渇し、「世界ほやエキスポin石巻」で知り合った、及川(旧姓・三浦)雪乃さん、赤洲利恵さんを熱烈にスカウト。「〇はたクルー」として切

だったけれど、克服出来たのは、あの場所が鍛えられたから。

〇はたで私が得たのは、たくさんのお出会いと、少しの料理の腕。普段絶対に知り合えないだろう職業の人々。自分がないものを持っていて、人々のキラキラしたオーラに圧倒されることも多かったけれど、様々なイベントを通じて、仲間が増えたことは、大きな収穫だった。そして、餃子の焼き方はかなり上達した(：はず)。

〇はたクルーとして過ごした時間は、私の人生にとってかけがえのない宝物だ。いつも心に「愛と感謝」を。



〇はたクルーの雪乃さん(写真右)と利恵さん。

### 用語解説など

〇すけ  
まるすけと読む。荒町商店街にある昭和風のたこ焼き居酒屋。

〇たけ  
和醸良酒〇たけ(まるたけ)。大町にある、江戸時代をイメージした日本酒の豊富な居酒屋。

世界ほやエキスポin石巻  
42ページを参照。

「ツツケカタ」のポイント

- 食を通じた場づくりで、参加ハードルを下げる。
- メンバーの新たな挑戦ができる場の提供。

### PROFILE | 及川 雪乃 (おいかわ ゆきの)



〇はたクルー。1981年1月13日生まれ、O型。宮城県栗原市出身。東北学院大学文学部英文学科卒業後、某英会話スクールスタッフを経て、営業事務の仕事に従事。いつも笑顔とポジティブ思考を心がけてます。





# 2012.4~2016.3 新聞つたえびと

文：鈴木 圭介

2012年4月から4年  
間、毎月11日に配信

コトの発端は、震災からちょうど1年後の「宮城のこせがれネットワーク」の定例会だったと思う。確か、それぞれの得意分野を生かした担当係みたいなものを作るう、という話から持ち上がったのが新聞を作るう、というアイデアだった。かくしてそれが（こせがれネットワークというよりは）ファイブブリッジの毎月の情報発信ツールになったのは、その1ヶ月後のことだった。

まあでも、新聞という体裁で情報発信の媒体を作るというアイデア自体は、何もそのときに目新しいものとして出てきたわけではない。なぜなら、ファイブブリッジには、無類の新聞大好き子、畠山さんがいるから（笑）。少し後で知ったんだけど畠山さんは、それまでも何度か新聞

間のような体裁でいると作るうとしてみたい。ただ、それを健気にもワードでやるうとしてたところがいいらしい（笑）。ワードだと、うまくできないんだよね。

制作ツールは、後半こそイラストレーターを使って作業を進めたけど、当初は「朝刊太郎」というフリーソフトで制作していた。このソフトはかなり優秀で、写真を使用する際にも、その大きさを簡単に自由に変えられるし、長めの文章も次の段に自然に流してくれたり、とても使い勝手がいい。しかも、ちゃんと新聞っぽく完成させられる。企業やお店の定期的な発信に、新聞というカタチはアリだなと思う。

新聞というカタチの優れている点はたくさんあるけど、まず、写真と文章でしっかりと情報を伝えられるところ。新聞つたえびとは、コストを抑える理由もあって、PDF化し

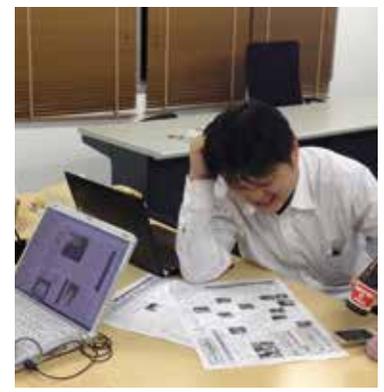
仕事がいっぱいでも、ギリギリながらも、発行日は死守し続けた「新聞つたえびと」。



マンガの作者、ふるめりんごさん。



「朝刊太郎」はかなり使えるツールだ。



校正中、撮影用にわざとらしく苦しむ畠山氏。

たものをメーリングリストの添付で送るという方法をとっていたけど、普通のメルマガみたいなのより断然伝えるチカラは大きいと思う。

楽しかったのは、いろんな人を巻き込んでいけること。記事自体を自分たち編集部で書くことももちろんあるけど、いろんな人に声かけをして、たくさんの方の声を発信する役割を持たせることで、情報媒体としての価値も高まるメリットが出た（あと何より記事を書く手間も省けるのがいい。企画としては、リレー小説なんかも意外と好評だったなあ。そして、あとはやっぱり、りえちゃん（ふるめりんご）作の漫画「ゆる〜く、さんさんミヤギさん」、これが最高だった。

新聞つたえびとは、丸4年、地域の担い手のロマンを伝える新聞として発行され、2016年3月11日に一旦終了したけれど、4月からは、より地域密着型の媒体として「つぶりタイムズ」なる新聞を新たに創刊。新聞熱は冷めることを知らず、いろいろチャレンジしていきますよ。興味のある方、ぜひ一緒にやりまっしょー！

●用語解説など…  
新聞アーカイブ  
新聞つたえびとのバックナンバーは、ファイブブリッジのHPから全48号をご覧いただける。

👍 「ツツケカタ」のポイント

- 🌸 活動を新聞で伝え、データベース化する。
- 🌸 PDF データでの発行で、印刷コストをかけず、継続できる仕組みに。

宮城のこせがれネットワーク  
38ページを参照  
ワード  
マイクロソフト社製のワープロソフト。アメリカ製のソフトなので縦書きのレイアウトはあまり得意ではない。  
イラストレーター  
アドビ社製のイメージ編集ソフト。同じくアメリカ製とはいえ、プロ用のツールなのでどんなレイアウトでも柔軟に対応できる。なお、この記念誌は、同社製のインデザインというDTPソフトを主に使用している。

### 全国各地の「ビズカフェ」キーマンが宮城に集結

「全国ビズカフェサミット」では地域の発信力の高い人たちが集い、地域を輝かせようと語り合い、多くのプロジェクトやニュース、ビジネスを生み出すたまり場。そんな「ビズカフェ」のキーマンが、その精神に賛同する全国のキーマンが集い、全国各地の事例報告会を行っている。

各地域の場の運営方法や生み出された価値を共有し、交流連携することで全国の「ビズカフェ」とのネットワークを強化する集いです。各所の場の特性や名称も尊重しつつ、ふらりと立ち寄る場が集う同志を大切に「ビズカフェ」の存在意義を全国に広め、各地域との連携を深めることで、「ビズカフェ」を全国に創出していくことを目的としたサ



2012.7.14

## 全国ビズカフェサミット

文：島山 茂陽

北は北海道、南は高知からも参加者が駆けつけた。

ミットです。過去に一度だけの開催ですが、今は復活を遂げたいものです。その時の内容を紹介します。

#### ■ 開催日 2012年7月14日(土)

#### ■ スケジュール

- ＜第1部＞ 『全国ビズカフェ活動報告会』
  - ・参加者自己紹介 ・ユーストリーム中継
  - ・ビズカフェ仙台ファイブブリッジの現状報告
  - ・各地域のビズカフェ活動事例報告
  - ★北海道・札幌ビズカフェ (吉村匠 氏、石井宏和 氏)
  - ★宮城・ビズカフェ仙台「ファイブブリッジ」(島山茂陽 氏)
  - ★神奈川・まち元気小田原 (山崎敬子 氏)
  - ★高知・土佐リーマン同友会 (高橋章郎氏)
  - ★茨城・石岡 (黒沢かすみ氏)
  - ★愛知・名古屋 (木股保浩氏)
  - ★宮城・古民家びと (早川欣哉氏)
  - ★東京・ローカルビズカフェ
  - ・ビズカフェ連携ワークショップ
  - 「全国ビズカフェとの交流連携のためのアイデアワーク」

#### ＜第2部＞ 『全国ビズカフェ交流パーティー』

- ・交流パーティー
- ・全国ビズカフェサミット宣言

#### ■ 場所

ビズカフェ仙台「ファイブブリッジ」3階会議室交流サロン  
【オプションツアー開催】  
・全国ビズカフェサミット前日プラン (被災地のビズカフェ視察会)

7月13日(金)

ファイブブリッジ発 ビズカフェ石巻「IRORI 石巻」着  
※ ISHINOMAKI2.0のメンバーと交流トーク



全国各地のキーマンとの情報交換は刺激的な時間。



ビズカフェ石巻「IRORI 石巻」にて。



真剣な眼差しで各地のプレゼンを聞く。



札幌ビズカフェの吉村匠さん。

**「ツツケカタ」のポイント**

- 🌸 全国各地と連携することで、共有知を生み出す。
- 🌸 同一のキーワードで活動理念を広める。

#### ビズカフェ

2000年に札幌駅そばに開業した「札幌ビズカフェ」のこと、またはそのコンセプトに共感して全国にできた同種の施設のこと。札幌ビズカフェは、北海道のIT業界のネットワークの役割を果たした他、以前はオープンスペースも運営しており、今では「ワーキングスペース」の先駆けのような使い方ができた。



2015.6~

# 広く告げる会

文：島山 茂陽

スタート時の第0回には30人近くの参加者が集った

## 福澤諭吉が提唱した「広告のススメ」

広報、広告、プロモーション、パブリックリレーションズ、PRの領域はもろもろのこと、企業メセナやフィランソपी、CSRやCSVなどの活動を情報交換する会です。

企業の売上や魅力向上のための広告、イベントプロモーション、ソーシャルメディア活用、EC運営、マーケティングリサーチを通じて、ブランディングとプロモーションのための予算を活用し、広く告げる手法を学び合っています。

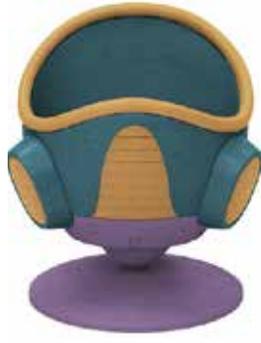
いい商品、いいサービスはしっかりとお金を払って広く多くの人々に告げるべし、と自らが創刊した「時事新報」という新聞の社説で「広告のススメ」を唱えたのは福澤諭吉でした。

この世界のプロ・アマチュアの別なく、同じテーブルで、広告のイロハから、広告の事例などを紹介しながら、より多くの人の胸を打つコピーやデザインを地域の視点で発信。新感覚の文化をクリエイイトし

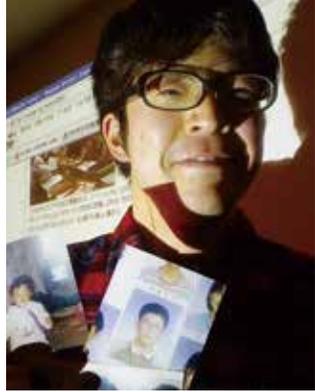
## 誕生日を祝えば、人と人がつながる

2010年4月のバースデーナイトの時、「フリーザ様の小型ポッド」(第一形態のフリーザ様が座っているアレ)の携帯電話ホルダーをプレゼントにもりました。それが今の奥さんです(厳密に言えば、まだ付き合う前だったと思います)。フリーザ様、特に好きじゃないのですが、なんだったんでしょ。そういえばあれ、今どこにあるんだっけ。...

誕生日を祝ってくれるというのは、誰にとっても嬉しいことだと思います。月に一度のバースデーナイト。いつも会っている人も、初めて会う人も、「誕生月の人を祝おう」と思うと明るい気持ちになります。ゆるくポジティブな感覚で、



プレゼントされた「フリーザ様の小型ポッド」。



お祝いされる人は昔の写真をお披露目する。

YouTubeでバースデーソングを流しながら、きちんと祝っているような、ただ飲んで話しているだけのよう、贅沢な時間の過ごし方。シンプルながらも、素敵な企画だったと思います。是非また、開催してほしいです。毎月が大変であれば、私の誕生日(4月)だけでも構いません(笑)。よろしく願います。

**「ツツケカタ」のポイント**

- 参加せざるを得ないイベントを作る。

FBムグ知識 ファイブブリッジの理事、運営スタッフは全員無報酬である。



2009.6~

# 〇月生まれのバースディナイト

文：庄司 直人

6月生まれが多いのはなぜなのか、と語り合う時間もバースディナイトの醍醐味

ていくコミュニケーションです。この場から、「仙台防災未来フォーラム2016」でミニプレゼンテーションを行った「チーム200秒」が生まれました(※58ページ参照)。



**「ツツケカタ」のポイント**

- 専門領域を一般の人々と共に磨いていく。
- ニュートラルな場での本音トークが社会にも還元できる。

### 用語解説など

- メセナ** 企業による文化、芸術の支援活動のこと。
- フィランソपी** 広義で、慈善活動のこと。
- CSR** 企業が社会に果たすべき責任、と訳されるらしいよ。
- CSV** 表計算ファイルの拡張子のこと。え、違う？
- EC** EU・ヨーロッパ連合の前身。冗談です。このページはカタカナと英語が多すぎると思います。後は読者の皆さん調べてください。

### PROFILE | 庄司 直人 (しょうじ なおと)



株式会社リード・サイン 代表取締役  
1983年4月15日生まれ、A型、仙台市泉区黒松出身  
ホームページ、ブログ、チラシ、名刺など「課題解決のための販促物」をコンセプトに制作中。すぐに会って話ができる距離を大切にしているため、9割以上のお客様が仙台市内および宮城県内。「第三者の目線」「消費者の目線」で制作できることが強み。2008年2月に起業後、「家で仕事をする気が起きない」という軟弱な理由から同年8月にファイブブリッジに入居。かけがえない様々な出会いにより「人と人とのつながり」のあたたかさが身にしみる。  
2011年4月に現在の本町1丁目に事務所を移転し、2013年12月に法人化。現在社員3名+外部デザイナー4名。2016年のテーマは「仕事を増やす、人を増やす」。そろそろ子どもがほしい。  
座右の銘：誰もあなたなど見ていない 自由に行け



# 2007.3.18 渡辺一馬大名行列

文：坂上 英和

あの日の大名行列での出来事も今では大切な青春の1ページ。

殿・一馬の入籍を家来  
たちが盛大にお祝い！

2007年2月。ファイブリッ  
ジに大スクープが飛び込みました。

それは  
「渡辺一馬氏の入籍…」

ファイブリッジの初代のメン  
バーである一馬さん。彼なくしてこ  
の場はない。殿様みたいな存在であ  
る一馬さんの結婚を祝うしかない。  
会社の経営で忙殺され、結婚してた  
だでさえ少ない自由な時間が無く  
なってしまう。せめて、家来共々が  
祝う日ぐらいわがままの限りを尽く  
してほしい。

そんな思いから始まり、丸々1日、  
一馬さんの行きたい場所に付き従い  
もてなしをしたのが「渡辺一馬大名  
行列」でした。

当日は、一件目から行きたい所が  
開いていないという素晴らしいス  
タートから始まり、開業間もない仙  
台空港アクセス線に乗ったり、男5  
人で1つの冷やし中華を食べたり、  
本気でだるまさんが転んだをするな

## 読みながら食べながら 「おひるのじかん」

あの大きく長い揺れが東北に訪れ  
た5年前、ガラツと私の世界が変  
わった。

それまでニュースはネットや  
TVで調達するものだと思ってい  
た。でも電気ガス水道が止まり、  
ニュース（欲しい情報）は人が伝え  
てくれる、そして自分も誰かに伝え  
るモノだと知った。その1つが新  
聞。郵便ポストに新聞があったとき  
涙が出た。こんな状況下で情報を集  
めて、届けてくれる。当たり前では  
ない。今でもあの瞬間を思い出すと  
涙が出そうになる。

新聞って良いなあと思っ  
ているときに「おひるのじかんを始めるけど  
マッキーもどう？来ない？」と子ど  
もの目をしてファイブリッジに現  
れた畠山さん。「おひるのじかん」  
とは、おひるごはんを食べながら新  
聞をみんなで読んで、気になった記  
事をシェアする会。もちろん二つ返  
事で参加することに。

集まったメンバーの中には、命か  
ら津波からのがれ手を負傷して

**「ツツケカタ」の  
ポイント**

🌸 ファイブリッジでの  
場づくりの仕組みを参  
考に、新たな場づくり  
に。

いる方もいた。彼が生きていること  
に感動し、そして同時に自分は何事  
もなく生きていることに罪悪感も  
あった。  
大震災の後だからなのか明るい記  
事を探していたように思う。時には  
原発問題もみんなと一緒に考えた。  
当時の畠山さんの言葉。「新聞にあ  
る情報は、人によって注目する点  
が違う。自分では気がつかなかっ  
た、生きるための必要な情報が得ら  
れる」確実に視野が広げられる場  
があった。  
彼の場作りが、今の私の場作りに  
大きく影響を与えている。



家臣を従える、威風堂々の一馬大名。

ど、体力の限界が来るまで仙台のま  
ちなかを歩きました。  
今やファイブリッジにとって、  
てくてく歩きは欠かせないものな  
なっています。その先駆けとなっ  
たイベントです。

**「ツツケカタ」の  
ポイント**

🌸 仲間のお祝いに乗じて、  
楽しいまち歩きプロ  
ジェクトに。



天気のいい日は五橋公園に出かけ、新聞を大きく広げ、語り合う

2011.4~

## おひるのじかん

文：牧野 和子

**PROFILE | 牧野 和子 (まぎの かずこ)**

マキノハウス (占い師、お片づけ案内係、フリマアドバイザー)、カヨウカフェオーナー  
1972年4月生まれ、AB型、千葉県松戸市出身。  
27歳、30歳で出産。会社員営業職を経て副業の出張占い師で2012年独立。2014年  
1月イベント型マルシェ「カヨウカフェ」をオープン。年間400人以上を占う。  
座右の銘：年中夢中



**PROFILE | 坂上 英和 (さかう え ひでかず)**

NPO法人コースター 理事  
福島県双葉郡富岡町出身、1985年生まれ。  
ワカツクの前身であるデュナミスにインターン生として参画。最初の仕事がファイブリッジオープンのための  
DIY作業。大学卒業後は、学生向けの様々なサポート事業を行う。福島県郡山市のNPO法人コースターの  
設立から参画。避難区域でのまちづくり・復興支援の他、3階建ての倉庫を改装したコミュニティスペース「福島  
コトひらく」を運営。



**用語解説など**

一件目から行きたいところ  
が開いていない  
当時のブログによると、  
近隣のマンションのモデル  
ルームを見学しようとして  
いたらしい。何故。

冷やし中華  
ブログによると、発祥の  
地と言われる錦町の「龍亭」  
で食した模様。5人で一皿  
とはお店に迷惑である。

# 「平行線」のススメ ◆ 漆田義孝

白黒つけるのをそろそろやめませんか。「正義」とか「真実」なんてものがないことが、わかってきました。いま考えると、私が小さいころ触れたマンガや小説やゲームの世界でも、物語を作った大人たちは同じようなことを語っていたと思います。

なのに、現実の世界、特に政治とか経済の世界は正義を巡って殴り合いを続けている。一番大人の世界のほうなのにです。しまいに、平和だエコだと柔らかいことを語っていたはずの人たちまで、彼らが敵視する人たちの土俵に引きずり込まれて、尖ったモノを振り回していたりする。見ていて辛いです。

私との対談の中で若新くんも語ってくれたけど、人は正義とか

正解というものにこだわりなくなる、あるいは日本人はそう教育されているのかなと感じます。

私は議論することが好きなのですが、実は私にとって議論とは、結論はなくてもいいので、お互いの知っている情報やそこから考えられる意見を交換しただけのものだったりします。でも、相手は白黒はつきりさせようと腕まくりをして臨んでくるので、結果的に売り言葉に買い言葉で、喧嘩みたいになってしまいうことがよくあります。ごめんなさい。

こんなこと書くと、特に目上の人からはだいたい「いや、漆田は自分の意見曲げないし、頑固だし、わがままだろ」と言われるんですが、半分は上記のような誤解、半

分は、昔の私のイメージをいつまでも引きずっているんだらうと思います。まあ、コラム欄ぐらいい、好きなことを言わせてくださいよ。

本当はもっともっと、平行線の議論を延々続けたいんです。そういうのが好きです。その中で、お互いが知らない情報、新しいものの見方、目線を身につけるきっかけになるのが、すごく好きなんです。私がメディアージとしてやっている活動を評価してくれる人なら、きっと「そういうことをやるうとしてるんだな」とわかってくれるんじゃないかと、思っています。

## PROFILE | 漆田 義孝 (うるしだよしたか)



NPO 法人メディアージ代表代行・NPO 法人ファイブブリッジ理事  
 青森県階上町出身、1983年生まれ。一時埼玉県育ち。東北大学文学部（ヨーロッパ史）卒業。  
 大学では放送研究部に所属し、卒論で活版印刷を扱うなど、情報発信に関心を持つ。同期の多くが東京に就職することに違和感を持ち、仙台の人材IT会社に就職。震災後は、写真や映像で記録を残す活動に取り組み、生産者や事業者の支援も行う中、勢いで会社を辞める。  
 様々な情報を発信することの価値・可能性と、一人ひとりが情報を読み解く力「メディアリテラシー」の必要性を感じ、NPO 法人メディアージとして震災復興や政治・音楽など様々なテーマの映像制作に取り組む。ほか「TRY6 チャレンジショップ」「WE プロジェクト」スタッフも。



## 第5章

# ビジネスマンデーからFBマンデーへ

毎週月曜は何かやっている。  
 月曜から始まるライフスタイルの提案と新たな仲間がゾクゾクと生まれる集い。



FB MONDAY

第1月曜日 19:30 ~ 21:30

since 2013.06

次世代の地域からの情報発信と記録について学び合い、実践するコミュニティ

# ローカルメディアネットワーク

文／漆田 義孝



リフレッシュされた第1月曜日「ローカルメディアネットワーク」の第1回目の様子。

「情報」は、世界を変える力を持っています。インターネットは、活版印刷の次に来た、情報革命と言われています。それまで限られた手段（メディア）によって発信されてきた情報が、新しい手段によってより多様な形で発信されるようになると、人々はより多様な情報を受け取ることができるようになります。そうすると、今まで自分にとって常識や限界と置いていたことが、変化していくのです。そういう一人ひとりの変化が、最終的に世の中を変化させていくのです。はい、面倒くさい話をしてごめんなさい。

毎月第一月曜日に開催しているローカルメディアネットワークは、インターネット時代の新しい情報発信について考える取り組みであると共に、名前の通り、「地域の情報発

信のつながり」を作る場でもありません。このタイトルは元々、東京で島山さんをはじめ、地方新聞社の皆さんが集まる情報交換の場として使われていた名前から、響きが良いので拝借しました。内容的には関係あるような、関係ないような、よくわかりません（笑）。

これまでのローカルメディアネットワークは、主に仙台で「メディア」つまり情報の記録発信を担ってきた方々をゲストにお呼びして話を聞いたり、あるいは参加者同士が自分たちの情報発信について考える機会をつくってきました。今後は、仙台発で新しいメディアをつくるのと立ち上がった「THE EAST TIMES」の皆さんと連携した、情報発信の編集会議みたいなこともやっていけたらと考えています。

発信される情報は、ただ増えるだけでは意味がありません。その情報を受け取る側も、それを主体的に読み解き、判断する力が必要なのです。みんながそんな力を持てる社会づくりについて、ぜひ一緒に考えませんか。

## 情報発信を考え、世の中を変えていく。



THE EAST TIMESの編集長、安藤さん（左）と代表の中野さん。



20世紀アーカイブ仙台の佐藤正実さんは記録の第一人者。



「伊達武将隊」も、仙台の魅力を発信するメディアです。

●用語解説など：

活版印刷

組み替えられる文字の型（活字）を組み合わせた版にインクを付けて印刷を行う技術。15世紀ヨーロッパで確立し、聖書の大量製本を可能にしたことで宗教改革などに大きな影響を与えた。書籍や新聞の発達には欠かせない技術と言える。

THE EAST TIMES

「現場主義のインターネットメディア」を掲げ、東北発の新しいニュースサイトを立ち上げた新進気鋭の会社。

COORDINATOR | 漆田 義孝（うるしだ よしたか）



NPO 法人メディアージ代表代行・NPO 法人ファイブリッジ理事  
青森県階上町出身、1983年生まれ。一時埼玉県育ち。東北大学文学部（ヨーロッパ史）卒業。  
大学では放送研究部に所属し、卒論で活版印刷を扱うなど、情報発信に関心を持つ。同期の多くが東京に就職することに違和感を持ち、仙台の人材IT会社に就職。震災後は、写真や映像で記録を残す活動に取り組み、生産者や事業者の支援も行う中、勢いで会社を辞める。  
様々な情報を発信することの価値・可能性と、一人ひとりが情報を読み解く力「メディアリテラシー」の必要性を感じ、NPO 法人メディアージとして震災復興や政治・音楽など様々なテーマの映像制作に取り組む。ほか「TRY6 チャレンジショップ」「WE プロジェクト」スタッフも。



FB MONDAY

第2月曜日 19:00 ~ 21:00

since 2015.11

# 地域シゴトラボ

地域で挑戦を続ける中小企業やNPOの社員と、地域での仕事についてディスカッションする、座談会形式の交流会

文／澤畑学



経営者の想いと理想を聞き、白熱の議論を重ねる。

毎月第2週目のFBマンデーが2015年11月からリニューアルしてスタートした「地域シゴトラボ」。地域で挑戦を続ける中小企業やNPOの方と、地域企業・組織のシゴトについて語り合う、座談会形式の交流イベントです。

「地方創生」という言葉を借りるまでもなく、地域への関心がかつてなく高まっている昨今。それぞれの地域にある独特の「シゴト」も、各種メディアなどで取り上げられる機会が増えていますよね。

でも、メディアで「キレイに」切り取られる以上に、このシゴトはこんなにオモシロいんだ！、いや、ホントはこんなに大変なんです！ などなど、ちゃーんと聞いてみないとわからないこともきつとあるはず。ということ、知られざる「地域

のシゴト」への理解を深め、それを発信していく場として、毎月「地域のシゴト」に取り組んでいる人をゲストに迎えながら、ざっくばらんに語り合っています。

これまでお呼びしてきたのは、原発事故の避難区域内にある伝統工芸をリブランディングして世界に売り出しているこうとう若き経営者、国内にも数えるほどしかなくなってしまう「国産仏壇」のメーカーにやってきたUターンの若者、岩手県で「地域の木材」と「人」を活かした宿泊施設をオープンさせたオーナーなどなど、負けず劣らずの個性派ぞろい。

経営者の想い・理想を熱く語ってもらったり、社員の方から仕事の魅力を話してもらったり、ときには現在抱えている課題を洗いざらいぶつ

**用語解説など**

**地域のシゴト**

一般社団法人ワカツクでは、地域の魅力ある企業を様々な形で紹介したり、インターンシップのコーディネートを通じて学生とマッチングする事業を行っています。



「地域で仕事をする」ってなんだろう？



終了後もゲストとの話に華が咲く。

## 「地域のシゴト」のリアルを知る。

ちやけて、お悩みごとのカケラたちを肴にディスカッションしたり。コーディネーターの渡辺一馬さん（一般社団法人ワカツク代表理事）が、巧みに(?)ぶっちゃけ話を引き出しながら、「地域のシゴト」の魅力、これから迫っています。

触れれば触れるほどオモシロい「地域のシゴト」たち、あなたも触れてみませんか。

※本文を書いてくれた澤畑学さんは、一般社団法人ワカツクのスタッフです。



突っ込んだ質問がどんどん繰り出される。



凝ったフォントの案内チラシ。

COORDINATOR | 渡辺 一馬 (わたなべ かずま)



一般社団法人ワカツク代表理事 / NPO 法人ファイブブリッジ監事  
1978年、角田市生まれ。1997年、新設の宮城大学へ入学。在学中にサークル・デュナミスへ参画。2001年、卒業と同時にデュナミスを会社法人化、代表就任。  
「世界を変える人材を数多く生み出す仕組みを創る」ことを目的として、インターンシップ事業を開始。震災後、一般社団法人ワカツクを立ち上げ、若者たちの「問題解決」への挑戦を支援。「若者が成長できる東北」を目指している。  
他に、東北学院大学 地域協働教育推進機構 特任准教授、東北大学大学院 経済学研究科 特任准教授(客員)、NPO 法人ファイブブリッジ監事、NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター理事など。



FB MONDAY

第3月曜日 19:00 ~

since 2009.06

東北・宮城の食と人のドラマに出会える場所。新たな仲間とプロジェクトが生まれるおいしいすぎるコミュニティ

# みやぎ「食ひと」交流サロン

文／渡沢真



震災後、「心をひとつに」とこぶしを突き上げる食ひとメンバー。

「みやぎ『食ひと』交流サロン」は、毎月第三週の月曜の夜、食のプロから食へることが大好きな消費者まで、食にまつわる話題を学び合いたい人たちが集い、毎回のテーマに即して座談会スタイルでざっくばらんに語り合いながら、新たな価値やプロジェクトを生み出す交流の場だ。

私が「みやぎ『食ひと』交流サロン」と出会ったのは「自分が人生で一番落ち込んでいる時」だった。というドラマチックな書き出しから始まる2000文字程度の物語は文字数制限により割愛されるが、私からこのプロジェクトについて説明出来ることは、食に関係する個人事業主として一旦を担う事ができて本当に良かったと思える出会いや情報がそこに詰まっているということ。私にとってはそれだけドラマチックな出

会いのあるところだ。

ファイブブリッジ自体を「オトナの部室」と例える場合があるが、あえて私は「部室」という言葉だけを使って表現してみる。そうすると「みやぎ『食ひと』交流サロン」部室は、部活のある日にそこに行けば必ず誰かがいて、「食」をこよなく愛する「人」「食」に悩みを持つ「人」たちが、OB 現役関係なく集う場所。それが「みやぎ『食ひと』交流サロン」と言えるだろう。

まだ未経験の方々へ。私は、部活の先輩さんならにその背中をドンと押してあげたい。それが迷惑だというのであれば、ちょっと先に部活を始めたばかりの同級生さんならに、その肩をポンと叩いてあげたい。なぜならそこに、あなたの生活が楽しくなる何かがあるから。それは私が



単なる自己紹介にも新鮮な出会いに心躍らせる時間と空間。



女性同士のこの距離感が気になります!?



食べることは、生きること。(齋藤由布子談)

## みやぎの食を学べる教室。



塩釜「はちやの餃子」工場見学ツアーにて。

人生で一番落ち込んでボツキリと折れてしまった心も治ってしまうぐらいに。  
若者へ送る10年後へのメッセージをさらにズバリ言おう。10年後に一番人気の職。それは「食に関する自営業」だ。自由に考えよう。夢は食に関わることならなんでも良い。それをどう自営業として考えるか、お嫁さんをどう自営業として考えるか。それを今から考えておくべきだ。



「銀座ファームエイド」の販売用POPとして作られた、とある事例を参考に作成した政党風生産者ポスター。

**COORDINATOR | 渡沢真 (わたさわまこと)**

WatasawaDesign 代表  
1976年2月14日生まれ、A型、山形県南陽市出身  
農家の次男として生まれる。2010年に仙台市太白区富沢にてワールドベイクドチーズケーキをOPENさせ、富沢から47都道府県全てへチーズケーキを出荷後、海外でもチーズケーキを作る。現在同時並行の新プロジェクト WatasawaDesign としても活動中。  
座右の銘は、風が吹けば桶屋が儲かる

**食ひとコーディネーター**

- 濱口 竜平 (プリンマン)
- 齋藤 由布子 (IKIZEN)
- 澤田 てい子 (フードスタジオ東北)
- 石田 美智代 (みやぎのあら若女将)
- 渡沢 真 & 渡沢 由布子 (ワールドベイクドチーズケーキ)

用語解説など

ワールドベイクドチーズケーキ

この原稿を書いた渡沢さんが太白区富沢で営業中のチーズケーキ屋。「チーズの味がするチーズケーキ」というコンセプトは、通販生活で取り扱われるなど大人気である。16年7月に店舗を移転オープンし、今後はカフェや雑貨屋も併設する予定。



FB MONDAY  
第4月曜日 19:30 ~ 21:30  
since 2015.1 ~

# アナタの企画ブレスト委員会

ゲストスピーカーの課題を共有し、解決プランを出し合う応援コミュニティ

文／鈴木圭介



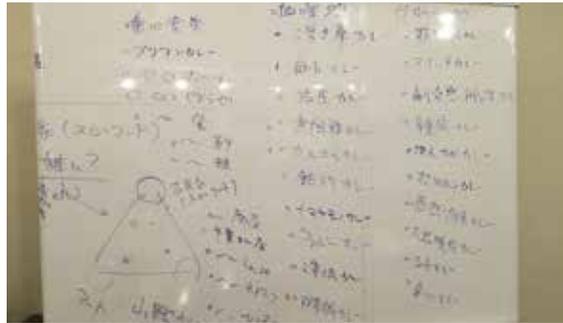
ゲスト講師の悩みを解決するためのアイデアをプレストし合う。

## 湧き上がる場。

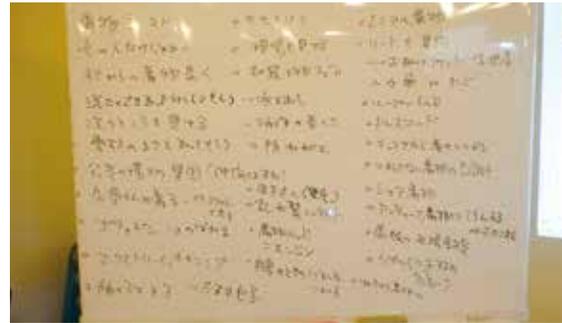
何かやりたいことがあったり、普段の活動の中で課題を持っていて人のお話や、取り組みなどを聞きながら、どうすればもっとよくなるか、について、コミュニティのチカラでヒントを生み出すべく、自由にぎゅくばらんなアイデアを出し合うという趣旨の「アナタの企画ブレスト委員会」(勝手に「アナーキー」と略しています(笑))。テーマは、回によってさまざまながら、毎回自由で「無責任な」アイデアが飛び交います。

開始当初は、結構大段に構えてしまっ、「その日のうちに企画書的なカタチのものに落とし込む」ことを目指したりしたために、かなりマジメかつ進行的に厳しい内容だったけれど、数回の開催を経て、テーマを具体的にしながらも、この場で

用語解説など...  
企画書  
書くのが苦手な人にとってはとことん書けないもの。フォーマットがあるようで、本当はなかったりする。  
近くの飲み屋さん  
以前は武屋食堂が定番だったが、圭介さんの最近のお気に入りには仙台銀座の「下町や」。



とある日のアナーキー②



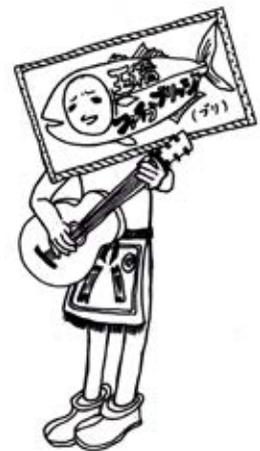
とある日のアナーキー①

## 自分のやりたいことを伝え、アイデアが



紙にアイデアを黙々と書き出すこともしています。

しれないけれど、いやいやそんなこととはありません。情けは人のためならず、人のためにいると何ができるか考えるのはそれだけで楽しいし、それをみんなでやっていると所に、なんとというか不思議な連帯感が生まれるのも気持ちのいいものです。周囲の人のいるんな価値観にも触れられるし、頭の体操にもなる。いいもんですよ。



ファイブリッジのFBマンデーでは、お酒も交えながら和気あいあいと進めるものも多いことだし、これからは飲みたい人はお酒を飲みながらアイデア出しにしても、楽しいかも。でもお酒が好きすぎるのはペロンペロンになっちゃってアイデアどころじゃなくなりそうだなあ(笑)。まあ、ブレスト委員会終了後は、有志で**近くの飲み屋さん**にだけ込むこともめずらしくないんですけどね。  
アナタの企画ブレスト委員会は、初めての方も大歓迎。アイデアを出したい方も、出して欲しい方も、お気軽にご参加ください。きつと楽しい時間になると思いますよ!

COORDINATOR | 鈴木圭介(すずき けいすけ)  
ミライトス株式会社代表取締役・NPO 法人ファイブリッジ理事  
北海道函館市出身、1974年生まれ。乙女座、A型。  
「宮城県を中心とした地元地域」「創造すること」「ブランドコミュニケーション」を軸に、地元の仲間たちの魅力を、伝えるだけではなく、それらの魅力を組み合わせたり、自ら新しい価値(商品やストーリー)を作り上げていくことで、新しいブランド価値を提案していくことをテーマとしている。  
自社商品「蔵王咲き茶」の販売を始めたことを機に、一番町に曜日限定の「蔵王咲き茶カフェ」をオープンし、上記テーマの発信を行っている。今後の目標としてさらなる仕組みづくりや場づくりの展開を予定している。

このムダちしぎのピックアップには実はそこそこ長い時間かかっている(笑)



FB MONDAY

これまでの企画

2009.6 ~ 2014.12

# 東北ビジネス未来塾

多様な業種の人々が集い、ブレイン・ウォッシュ（脳の洗濯）できる情報プラットフォーム

文／鈴木圭介



テーマの深堀りがヒートアップするとどんどん意見が飛び交う。



## 名物ビジマン。

ファイブブリッジ草創期の2008年に始まり、2014年まで、計60回に渡り、第4月曜日の夜に開催されていたのが、「東北ビジネス未来塾」です。

当初のコーディネーター（進行役）は、現在は一般社団法人MAKOTO O代表理事を務める竹井智宏さん。ビジネスマンデー（ビジマン、現FBマンデー）の中でも、文字通り一番ビジネスを意識した内容で参加者も「食ひと」などとも、またちがったテイストで、質のいい議論をしている場でした。

進行の仕方としては、他のビジマン同様に、まずはファイブブリッジ恒例、それぞれの自己紹介から始めるのが当然として（笑）、毎回替わるゲストスピーカーが、自分自身の活動や考えについてプレゼンや発表

をします。そして参加者がそのテーマについて、みんなで議論をするというスタイルです。

ほか積極的に関わるようになったのは、2010年頃からでしたが、当時は、それ以前に竹井さんが始めたサークル「東北Maspay」に所属していた東北大学の小野寺君など、しっかりとしたコアメンバーがサポートし、運営に安定性がありました。ホワイトボードに描かれる、小野寺君の議事録代わりのマインドマップが、これまた完成度が高いのなんの。毎回振り返りが楽しかったですね。

コーディネーターが代替わりを続けたというのも、長く続いたビジマンだからこそ。震災後、活動の幅を大きく広げた竹井さんに変わり、二代目に松村泰久さん、三代目はほ



大崎市古川・クラフト木村の神戸克征さんとの議論を元にしたマインドマップ (2013.3.26)

## 意識の高い人たちが自由闊達に議論する



テーブルを囲み、プレゼンターのテーマを共にブラッシュアップする。



これから取り込みたいプロジェクト事業を発表できる絶好の場。

くにバトンがわたり、趣やテイストを変えながら育っていった、ファイブブリッジを代表するビジマンだったと思います。

### COORDINATOR | 鈴木圭介 (すずき けいすけ)



ミライトス株式会社代表取締役・NPO 法人ファイブブリッジ理事  
北海道函館市出身、1974年生まれ。乙女座、A型。  
「宮城県を中心とした地元地域」「創造すること」「ブランドコミュニケーション」を軸に、地元の仲間たちの魅力を、伝えるだけではなく、それらの魅力を組み合わせたり、自ら新しい価値（商品やストーリー）を作り上げていくことで、新しいブランド価値を提案していくことをテーマとしている。  
自社商品「蔵王咲き茶」の販売を始めたことを機に、一番町に曜日限定の「蔵王咲き茶カフェ」をオープンし、上記テーマの発信を行っている。今後の目標としてさらなる仕組みづくりや場づくりの展開を予定している。

### 用語解説など

東北大Maspay  
フリーバーバーの発行ほか、活動内容なんでもありの学内サークル。ファイブブリッジに来てくれたメンバーも多かったが、cocoonができてからは減ったかな（笑）。



FB MONDAY

これまでの企画

2010.6 ~ 2012.10



架空の映画のプロモーションムービー「ハチマン」のシナリオづくり。



これもCMの1カットです。

# 伝説の動画コンテンツが数多く生み落とされた実践型ラボラトリー アナタのCM制作委員会

アナタのCM制作委員会は私にとってファイブブリッジでの活動の原点でした。当時から動画を作ることに興味があった私は、何か、動画編集テクニックや、撮影機材の使い方などの技術的な事を教えてもらえる会だと期待して参加したのですが、いい意味でその期待を大いに裏切り、間違いなく今のヒラードの活動の基礎を作ってくれた企画でした。

どういう趣旨の集まりだったかといいますが、その日、たまたま集まった個人、若しくはグループのCM動画を2時間のうちにその場で見る人、あるものを使って撮影して、YouTubeにまで載せてしまおうという、かなりスリリングな集まりでした。  
2時間でCMをYouTube

にアップするには、テーマをいち早く決め、出来ること、出来ない事その場で判断しつつ、その限られた空間のなかでも、作品を残さなければいけません。相当鍛えられました(笑)。  
かの、藤井フミヤはこう言います「締め切りが作品を作る」。どんなに考えても作品(結果)を残さなければ意味がない。  
人が集まらないからといって打ち切りになってしまった、この企画、ヒラード復活大希望! みんな一緒にフミヤにならないかい?

「アナタのCM制作委員会」YouTube 動画一覧



COORDINATOR | 平間 徹也 (ひらまてつや)



ざおうハーブ総務・サッカー漫画コンシェルジュ  
宮城県蔵王町出身、1981年生まれ。射手座、B型、白石高校(サッカー部、キャプテンで補欠)→日本大学経済学部卒業  
大学卒業後、父の経営する農業法人の後を兄と一緒に継ぐために帰省。2011年にハーブの事業により特化した株式会社ざおうハーブを設立し日々ハーブと蔵王の魅力を発信し続ける。  
サッカーが好きで高校の時にキャプテンを務めるも、10番で補欠という悲しい経験をいかし「誰もが楽しく優しくプレーできる」をコンセプトに蔵王初のサッカークラブFCカモミールを設立。

文／平間 徹也



FB MONDAY

これまでの企画

2012.11 ~ 2013.5



大学生によるプレゼンの場。この日は栗山岬さん。



コーディネーターの坂上英和さん。この辺りから、顔がふっくらと…。

# 若者とオトナの刺激的すぎる語り場 若者語り場「よるカフェ」

若者とオトナの刺激的すぎる語り場

この場を設けることになったきっかけは、飲み席で島山理事長がふと発したとある言葉でした。

「俺、学生があんまり得意じゃないんだよなぁ…」

理由を聞いてみると、学生が思っていることや感じていることを、学生はしっかりと自分の意見として口に出す人が少ないところが苦手のようでした。学生からは、「考えをアイデアにすることまでできない」という声を聞くことがあり、面白いオトナが集うファイブブリッジなら、オトナの力を借りて面白い活動をする学生が増えるはず!

そして、島山理事長の学生嫌い(?)が治って、オトナと学生の交流でもっと面白い場所になるはず!

と思い、この会を企画しました。  
この場では、学生が考えているやりたいことを発表し、世代・組織の垣根を越えて語り合うカフェ空間を創出しようと開催しました。  
自分の名前をタイトルにつけたツイイベントやサークルの組織運営の相談など、様々なテーマで学生と社会人の交流がなされました。



COORDINATOR | 坂上 英和 (さかうえ ひでかず)



NPO法人コースター 理事  
福島県双葉郡富岡町出身、1985年生まれ。  
ワカツクの前身であるデュナミスにインターン生として参画。最初の仕事がファイブブリッジオープンのためのDIY作業。大学卒業後は、学生向けの様々なサポート事業を行う。福島県郡山市のNPO法人コースターの設立から参画。避難区域でのまちづくり・復興支援の他、3階建ての倉庫を改装したコミュニティスペース「福島コトひらく」を運営。

文／坂上 英和

# “ココロの弦”

## ずっと、ふるわせて。

Be hooked on something, forever.

文・構成 / スズキ ケースケ  
写真 / 早坂 正年



“チャレンジ精神、いつまでも。”

自分のことを「大人になった」と初めて感じたのは、いつの頃だったろう。二十歳の誕生日？ 就職したとき？ あるいは、ふとした何かのきっかけだったろうか。「走るってことを全然しなくなった」「妙に冷めた目で物事を見るようになった」「お菓子を『オトナ買い』した」「疲れやすくなった」(笑)とか。  
大人になるってことはよくないことだろうか。それとも歓迎すべきことだろうか。

はじまりは、2013年6月12日に開催された「第1回ミスチル部カラオケ会」。ミスチルの曲しか入れちゃダメという、まさに「ミスチルファンのミスチルファン」によるミスチルファンのためのカラオケ会。  
メンバーはミスチル好きの平間拓也さん(さおうハープ)や星野知宏さん(情熱工房の吉井、高橋博之さん(よつちゃん農場)らを中心とした幅広い面々だ。

「カラオケ会」を2年半ほど続けたある日、誰かが「どうせなら自分たちでバンド組んでミスチルやろう」と言い出した。2015年の暮れのことだ。それからほどなくして、ミスチルバンド「ミヤギノチルドレン」は誕生した。さすが、こういうことは本業よりスピード感がある(笑)。

それぞれが楽器を買うところからスタートして、初めての練習は惨憺たるものだった、けど楽しかった。初めてのライブも、出来はまだまだだった、けど楽しかった。

昔、大人になることは「落ち着くこと」だと思っていた。恥を知り、物分かりのいい、失敗しない、そんな大人像。けど実際は、実際に大人になってみたら、そんなのは全然ちがった。大人になった今も、やりたいたいことがどんどん湧いてくる。新しいことに、子どもみたいに心がワクワクしてくる。

ステキだな、こんなふうにいづまでも、ココロの弦をふるわせられたら。そして“今”を思いきり響かせていられたら。

「未来を想つめ、いまを響かすの」の見聞き一枚誌「みらいろ」は、ワイブブリッジ理事の鈴木圭介が、身近なひとや事からの魅力を表現した、雑誌の見聞き風の一枚誌です。好きな写真で、「コ」で、文章で、誌面のデザインで、それを主にWeb上で、遊び心入れつつゆるく発信していきます。

「チーム『オスソワケ10%』結成」のススメ ◆ 畠山茂陽

「社会的な課題を解決するには何が必要か。私がススメたいメッセージは「あなたの自由時間の10%、お小遣いの10%を、ネオ親戚へ」である。

あなたが自由に使える時間があつたとしよう。毎月10日のお休みがあつたとして、10%は1日分となる。あなたのお小遣いが毎月3万円だとすると、10%は3000円となる。そうした「あなたの10%」を困っている誰かのために使ってもらえたら…。

「困っている誰か」とは誰か。多くの人が親戚には、お見舞い、お祝い等をお金や物で渡す機会があることだろう。東日本大震災を通じ、地縁・血縁を超えた人と人

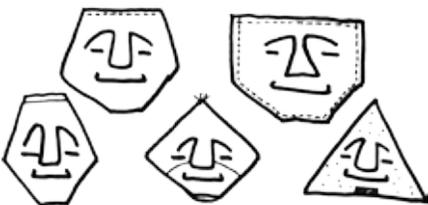
の交流の中から深まったつながりの中から、新しい概念の親戚づくりを目指していきたい。

私はそうした共感の絆でつながった関係を「ネオ親戚」と呼んでいる。離れたくても離れられない、新しい概念の親戚づくりなのだ。また、ひとりひとりが10%の時間とお金でできることを行う仲間を「チームオスソワケ10%」と呼んでいきたい。「ちょっといいことをしてみたい人が、10%のおすそわけをネオ親戚に」だ。

地域の課題は、人と人の絆で解決しようとする世の中に変えてきたい。身近な地域、身近な人に対する熱い愛情と、その行動ひとつひとつが、真に豊かな日本にな

り得るはじめての一步だと思うのだ。「あなたの自由時間の10%、お小遣いの10%を、ネオ親戚へ」。

これから、この「チームおすそわけ10%」プロジェクトの推進をはかっていきたい。賛同者、お手伝いさん、大募集中。



Why Don't We Do It in the Road ?



第6章

さまざまな活動

場ができる。人が集まる。活動が生まれる。会議室を貸し出す関係だけでは終わらない絆づくり。

PROFILE | 畠山 茂陽 (はたけやま しげあき)



NPO法人ファイブブリッジ理事長 (河北新報社勤務) 宮城県仙台市出身、1969年生まれ、乙女座、AB型。 仙台一高(硬式野球部)⇒日本大学法学部新聞学科卒(広報広告論ゼミ)。1993年河北新報社入社。現在は販売部(学び応援チーム)に所属し、営業畑から新聞普及のために新発想のプロモーションを仕掛ける。「飛び出せ、新聞社員諸君!」をキーワードに、地域に愛される役割を担うべくオンオフの境界線なく発信活動の幅を広げようと、社内に限らず全国の仲間にも呼びかけている。 「地域活性の源のたまり場からNEWSが生まれる」とし、ファイブブリッジでの活動は10年を迎えた。座右の銘は「ないものは、つくるしかない」。10年後の夢は「地域情報をバランスよく摂取する人を8割にすること」。



イチタリナイ

# iChitarinai

2014.7 ~

ACTIVITY THEME :

## 世界のボードゲームで遊ぼう！

文： 島山大

● 用語解説など：

**ボードゲーム**  
本文中にも説明されているが、ドイツを中心に世界中で流行し、日々新しいゲームが生まれている。広義にはカードゲームや人狼などのコミュニケーションゲームも含まれ、大雑把には「電源を使わない対面型のゲーム」と括弧することもできる（ただし一人で遊べるゲームもある）。

### ボードゲームから広がる交流

『いちたりない』は、世界のボードゲームで遊ぶサークルです。現在は毎週水曜日の夜と、月1で休日に活動を行っています。ボードゲームと聞いて、あなたが連想するのはどんなものでしょうか？ 将棋やオセロ、人生ゲームやモノポリーでしょうか？ 確かにそれらもボードゲームですが、私たちはもっと違った種類のゲームで遊んでいます。世界を



ボードゲームのラインナップも定評アリ！

見れば年に数百種類の新しいボードゲームが作られ、近年では日本製の作品も生まれています。

この会を開いたキッカケは、ボードゲームカフェ『Fortune 21』の閉店でした。『Fortune 21』は仙台にあった日本初のボードゲームカフェであり、そこで遊ぶ機会を失った私は、思いついて自分で遊ぶ場所を作ってみることにしました。それが『イチタリナイ』のはじまりです。

サークル立ち上げ当初は、基本的に知人のみに声をかけて参加者を募りました。ボードゲームという言葉に興味をひかれる方は多く、初回から20人以上が集まり、「おもしろかった！」「またやりたい！」「という声を沢山いただきました。それを聞いて、「この遊びはやっぱり面白い、もっとみんなに遊んで欲しい！」と強く感じたことを今でも覚えてます。

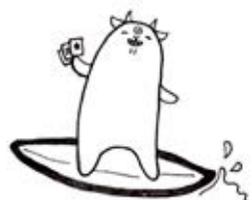
現在はウェブやSNSでも集客を行い、まったく繋がりのなかった様々な方と一緒に遊ぶ事ができるよう

うになりました。また、参加者同士の交流もボードゲームを通して自然に生まれ、ゲーム会以外の場で遊んでいる方も多いです。遊びという共通体験や、適度な思考の読みあい、人と人とを結び付けているようにも思えます。

これからもたくさんのお出会いと、笑いと、喜びが生まれる場づくりを心掛けていきたいです。

### 10年後の若者へのメッセージ

「黙ってたら世の中はつまらないですよ。だから自分たちで面白くしましょう！」面白いことを探したり創ったりという、その過程自体がとっても楽しいことなんだと思います。ぜひチャレンジしてみてくださいいな。



PROFILE | 島山大 (はたけやま ゆたか)



「いちたりない」主宰。1988年6月13日生まれ、B型、秋田県能代市出身。東北大学理学部卒業後、仙台のコンサルティング会社にて勤務。座右の銘は、おもしろきこともなき世をおもしろく。



IF I AM

震災から5年。東北に  
関心を持つきっかけを

「IF I AM」は、仙台発のインターネット動画番組を制作する学生団体、そしてその番組タイトルです。東日本大震災の発災直後から、東北の若者自身が東北の情報を発信することの必要性を感じ、「笑顔311プロジェクト」という団体が発足。学生メンバーが中心となり、仙台から毎週、生番組を発信しました。「IF I AM」の名前は、東日本大震災で津波の被害を受けた

5県（Iwate、Fukushima、Ibaraki、Aomori、Miyagi）の頭文字を取ったアクリロニムにもなっています。「笑顔311プロジェクト」はその後法人格を取得し、現在のNPO法人「メディアアージュ」となります。

「IF I AM」は5年間、ほぼ毎週休みなく番組を続けてきたのですが、震災から時を経ることに、視聴者数は減っていききました。番組開始後まもなく『復興を考えるソーシャル学生ネットワーク』というサブタイトルが決まり、今でも東日本大震災が私たちの活動の原点であることに変わりはありません。しかし「メディアアージュ」としては、視聴者の関心が薄れる中、ストレートに震災の情報を発信し続けることだけが全てではない、様々な種類の情報を発信することで、結果的に東北に関心を持つきっかけが作ればよい、という方針を早い段階で打ち出してきました。一方で、「IF I AM」



今の番組収録（配信）風景①

には、参加する学生たちが情報発信の意義や楽しさに気づき、その技術を習得してもらおう、実践の場という意味も持たせました。



今の番組収録（配信）風景②

2015年、「IF I AM」は学生メンバーたちの発案によって『キになるをスキになる 東北学生メディア』という新しいサブタイトルや、新しいロゴマークを考案しました。そして今年にはテーマソングまで創りました。今の大学生は、震災当時中学生や高校生でしたが、彼らが今、仙台から発信したい情報こそが「IF I AM」なのです。いずれ、3・11を知らない世代が大学生になる時代にも、そんなメディアがあったら素敵だなと思っています。

ACTIVITY THEME :

2011.4.11 ~

キになるをスキになる学生メディア

文：漆田 義孝

用語解説など：

インターネット動画番組  
パソコンやスマートフォン、ネット対応テレビなどを通じて、テレビの生放送のようになりリアルタイムな動画を見ることが出来る。日本ではUstreamやニコニコ生放送が有名だが、最近は様々なプラットフォームが登場し、IF I AMの生配信は現在YouTube Liveにて行われている。

NPO法人メディアアージュ  
ファイブブリッジメンバーの漆田が理事を務め、2016年3月まではファイブブリッジのシェアオフィスにも入居したが、春からは卸町のINTILAQ東北インベーションセンターに鞍替え…もとい、拠点を移した。



ありそうでなかった交流の場をつくる。

10年後、もしかしたら世の中はひどい状況かもしれません。レジは全てロボットになるかも。人はネットにハマり人の話を聞かないかも。高齢者の保険費用は大きな負担になっ

若い人の仕事はお節介である。

### 10年後の若者へのメッセージ

若い人の仕事はお節介である。10年後、もしかしたら世の中はひどい状況かもしれません。レジは全てロボットになるかも。人はネットにハマり人の話を聞かないかも。高齢者の保険費用は大きな負担になっ

大学生のぼくは孤独でした。そもそも浪して大学に入ったコンプレックスもあり、サークルに入らず、気づいた時にはひとりぼっちでした。駅と大学の往復。ある日ふと気づいたのは、「どうして駅と大学の間にはこんなに人がたくさんいるのに、ふらりと話してつながり合

### 孤独な人間が作り出した語り場。

大学生のぼくは孤独でした。

そもそも浪して大学に入ったコンプレックスもあり、サークルに入らず、気づいた時にはひとりぼっち

でした。駅と大学の往復。ある日ふと気づいたのは、「どうして駅と大学の間にはこんなに人がたくさんい

るのに、ふらりと話してつながり合



## アゴラ 話せ場 agora

ACTIVITY THEME :

2012.5 ~

## 若者がなんとなくいられる場づくり

文：佐藤 大地

ているかも。ひどい天災が起こっているかも。今も昔もそのまた昔も、世界には「変化を起こす人」と「今のままを残す人」がいました。両者はいつだってにらめっこして、喧嘩して、ときに血が流れ、命まで落としてきました。そして、これからも(残念ながらそれを望んでいないものの)こういう世界が続くと思えます。そこをつなぐのは、いつだって若者だと思えます。直感的な目で世界を見つめて、そこに両者のゆがみや対立を見つける。そのゆがみや対立にお節介を焼きたくなり、そのお節介がいつの間にかやさしさになっていく。

若い人のまっすぐな目と、まっすぐなお節介がある限り、世の中はきっと大丈夫です。だから、お節介をおそれずに行こう。

PROFILE | 佐藤 大地 (さとう だいち)



企業人・プロガー・場づくりリスト 1988年8月8日 生まれ、B型、宮城県大崎市古川出身  
宮城県古川高校～浪人(2年) 東北大学法学部～東北大学法学部大学院法学研究科～フリーター～企業人  
座右の銘：死ぬまで生きる。生きるなら楽しく



agora  
アゴラ、ギリシア語で「広場」を意味する。公共的な意味が強く、古代ギリシアでは政治的な集会や議論の場でもあった。現代ヨーロッパにもその文化は残っている。

●用語解説など...



ナチュラサイエンス

# natural science

2007 ~

ACTIVITY THEME :

## 部室に来るオトナ達が応援団に

文：大草 芳江

### 一人近くの会員の礎と なった自由なファイブブ リッジ

特定非営利活動法人 natural science では、「科学・技術の地産地消」と銘打ち、地域の様々な資源が科学教育的価値として還元される循環づくりを、組織の枠を超えた多様な機関と連携のもと目指しています。現在は「学都『仙台・宮城』サイエンスコミュニティ」と

して団体会員（大学・研究機関や民間企業、行政機関等）が約200、個人会員が一人近くとなりましたが、その前身となる「natural science 応援団」はファイブブリッジにより、その礎が築かれたといっても過言ではありません。

設立当初のファイブブリッジは、まさに理事長の畠山さんがコンセプトに掲げる「オトナの部室」そのものでした。オフィスはオープンスペースで、机や椅子のみならず、置やお手製のバーカウンターまでそろっていました。そして夜になると、畠山さんが毎回3〜4人ずつ新しい方を連れて来て、我々が仕事をするすぐ横で、鍋パーティーを始めるのです。この瞬間が、我々にとっては応援団員獲得の絶好のチャンスでした。



惑星探査のプロセスを模して、参加者自ら作成した電波受信機に耳を当てながら、木星の衛星の衛星ガニメテを探し出す様子。

そこで我々はプレゼンさせていた。多く機会を頂戴し、オトナの皆さまはお酒を飲みながら熱心に耳を傾け、応援団員に快く名を連ねてくださいました。なかには協賛応援団と

して寄付して下さる大変奇特な方もいらっしやいました。しがらみのない自由な場を与えてくださっている関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。



参加者が現役エンジニアと一緒にパソコンやゲーム機などを分解し、その仕組みや工夫などを直接エンジニアから聞く様子。

PROFILE | 大草 芳江（おおくさ よしえ）



1982年生まれ、A型、長崎生まれ。2005年東北大学理学部卒業。2007年東北大学大学院生命科学研究科博士課程前期2年の課程中退。  
2005年東北大学大学院在学中に有限会社 FIELD AND NETWORK を設立、取締役に就任。2007年特定非営利活動法人 natural science を設立、理事に就任。



# FB 映画部

2012.12 ~

ACTIVITY THEME :

## 映画観賞でつながる人の輪

文：平間 拓也

●用語解説など...  
素晴らしき哉人生  
第二次世界大戦後まもなくアメリカで公開されたモノクロ映画。現題は「It's a Wonderful Life」。不朽の名作として高く、アメリカでは毎年年末に放映されるほど。

### 一本の映画から始まった輪

きっかけは一本の古い映画でした。「素晴らしき哉人生」という映画を自分の口マンが詰まっている映画として紹介したところ、観た人が感想をフェイスブックに投稿したことで観たい人が続出。それなら、いっそのこと、みんなで観る会を開催しようとなり始まりました。会場は鈴木圭介さんが経営しているミライト

スのオフィス。たまたま壁が白くてスクリーン要らず。鈴木さんはこれを機にプロジェクターを購入してくれました。第一回を開催した時に、他の人の心に残る映画も知りたくなり、わかりやすいように第四金曜の夜と日程を決めて定例化し、月替わりでプレゼンターを交代して紹介してもらおう事にしました。

会のスタイルとしては、プレゼンターが選んだ映画との出会いや経緯を説明してから上映し、その後それぞれの感想を語ります。内容はかなり適当。「あの女の子可愛いよね」とか、「あそこであんな事をするのはいかがなものか」とか。各々のエピソードトークに発展する事も多いです。感想会が楽しく盛り上がり、時には上映時間以上に話す事も。



映画鑑賞後のアフタートークは、映画の感想よりも関係のない雑談のほうが盛り上がる場合も。

選ぶ映画は自由なので、ジャンルも多岐にわたります。いわゆる名作だったりアニメだったりB級のあの映画だったり。中には面白くはないけどこれ観てどう思うか知りたいという理由で選ぶ人もいます。それぞれに楽しめる所があり、意外につ

まらない映画の感想会の方が盛り上がったりします。自分では選ばない映画に出会う事で今までに興味を持たなかった新しい映画にも出会えます。

参加メンバーも最初は仙台の友人のみでしたが、この会がある事につながった人も増えてきました。参加者の1人であるうちの母は今の生活で映画部が一番の楽しみだと言っていて、上映中に居眠りしながらも毎月かかさず参加しております。

10年後の若者へのメッセージとしては、楽しい事は自分たちで作れるよということ、先回りして考え過ぎず事後的な出会いも大切にしましょうということですね。



### PROFILE | 平間 拓也 (ひらま たくや)



宮城県蔵王町出身、1978年生まれ、射手座、B型。仙台育英学園高校→千葉大学園芸学部卒（花卉園芸研究室）  
2001年に父の経営する(有)グリーンアトリエひらきゅうに入社し、2011年(株)ざおうハーブ設立。園芸店向けハーブ苗と飲食店向けハーブの生産卸をしながら自社製品を販売する直売所わいわいハウスを運営し、そこを拠点にお客さんと交流イベントを年に数回、ただ集まってお茶飲み話をする「ゆるトーク」を毎月開催。  
他に蔵王を楽しんで発信するコミュニティ「蔵王時間」、好きな映画を観て感想を語る「FB映画部」、ミスチル縛りのカラオケ会「FBミスチル部」を主宰。

ごくりはたまに近隣のオフィスの人が、無料の休憩所と間違えて、お弁当を持参して現れたりもする。コーヒーを飲んでくれるのならガンガン利用してほしい。



# FB ユナイテッド

2011.12 ~

## FBの精神を束ねるフットサルチーム

文：平間 徹也

ACTIVITY THEME :

●用語解説など：

蔵王の「人」との交流  
平間徹也ことヒラードは、地元の蔵王でも「FCカモミール」という、ゆりかごから墓場まで（笑）、どんな年齢の人でも参加できるサッカーチームを運営し、FBユニテッドの参加者も参加している。

### FBの精神を発信するフットサルチーム

もともとファイブリッジ関係者のダイエツトのために始まったチームだった「FB ユナイテッド」。今ではその立ち上げを知る人は数少なくなってしまったのですが、その交流人口は枝葉の如く広がり、現在ではファイブリッジという言葉、存在すら知らないで「FBユ



「俺より上手い人は入れない」をモットーとするヒラード監督。

ナイテッド」に参加している人がほとんどで、仙台の老若男女がゆる〜くつながる場所になっています。そういう意味では立ち上げ時の目的とは全く違う方向に動いていったが、ファイブリッジの精神をうまくというか、広く発信している場所になったんじゃないかなと思ってます。

なぜ、そういう場所に成長していったのかな？ と考えてみると『FB ユナイテッド』には一つだけ、基本コンセプトがあります！「監督より上手い人は入れない」というものです。これは、私が高校時代に所属していたサッカー部で10番でキャプテンだったけど補欠だった。という稀有な経験から学んだもので、サッカーが好きだけど自信がなくてプレーできないという人の気持ちを誰よりも理解していますし、そういう人達の受け皿になるようなチームにしたいな〜と思って動いているうちにさまざまな職種、年代の人が集まる場所になっていったということでしょうか。

いかにゆるく、楽しく、幅広く、継続的にどんな人でも集まれる場所を作り受け入れていくという事をファイブリッジで経験したことが本当に大きい学びになったなと実感しています。

今後の「FBユニテッド」の活動目標は「FBユニテッド」はいま蔵王という地域への入り口にある程度なっているので、今後は蔵王の「人」との交流の入り口にしていきたい。すると、もっとこの活動が幅広く有意義なものになっていくんじゃないかな、と妄想中です。

「FBユニテッド」はいつでもだれでも練習参加者大募集です、ボールと一緒に蹴りあえばもうそこには友情がうまれますから、運動するつもりじゃなく、だべりに来る感じで遊びに来て下さい。





# 道場やぶり / まつりごと

ACTIVITY THEME : 2012.2 ~ 2014.9 2012.12 ~

## タテマエ抜きの語り場 / 政治を身近なものに

文：漆田 義孝

● 用語解説など

**就職活動**  
情報の地域格差や根強い学歴偏向、わかりづらい採用現場の実態など、当事者の若者たちにとって不条理な課題も多い。

**政治**  
日本人は先進諸国の中でも政治に関する関心が低いと言われている。

### タテマエ抜きの就職支援道場やぶり

多くの学生にとって、就職活動は壁のように感じられています。そんな学生たちを食い物にするかのように、あまりにも表面的に選考を突破する技術を語ったり、中途半端なキレイ事や働くことの本質を隠そうとする、そんなオトナたちの情報が世にはあふれていました。

そこで、学生を採用する企業側の事情や視点をタテマエ抜きで学生に開示し、一方で働くとはどういう意味を持ち、どんな将来的なビジョンを持つべきなのかも伝える、そんな場が必要だという思いから、当時ファイブブリッジメンバーだった菅野光憲と二人で就活イベントを立ち上げました。

当時参加していた学生たちが無事（？）就職し、現在は休止中ですが、需要があればいつでも復活したいですね。

### まつりごとと政治を身近にするインターネット番組

私は親から「喧嘩の原因になるから、友だちと政治・宗教・野球の話はするな」と言われて育ちました。でも、私たちの暮らす社会の在り方を決める政治や選挙について、みんなと話し合うことが躊躇われる風潮って、おかしいですよ。恥ずかしいとか、格好わるいとか……。

そこで、まずは私たち自身が、積極的に公開の場で政治の話をすることにしました。それが、わざわざNPO法人メディアアージュ発のインターネット番組にした理由です。参加者は、政治について詳しくても詳しくなくてもOK。どんな意見を持っていても構いません。

知識の量や、正しさを競うのではなく、どんな考え方やものの見方があるか、自分ならどう思うか。

他の人の意見を知ったり、自分の考えを改めて見つめなおしてみ、そんな機会ができればと思います、今でも不定期で活動を続けています。



道場やぶり / 新聞を読んで、まだ知らない世の中の仕事を探しています。



まつりごと / 立候補者へのインタビューなども実施。

す。  
たまに、外に飛び出して政治家にインタビューしたりすることもありますが。



# ドットジェイピー

ACTIVITY THEME :

## 議員インターンシップの運営

文：及川 遥

●用語解説など：

議員インターンシップ  
大学生が、地方議員や国会議員のもとで一定期間、仕事を体験・体験する制度。ドットジェイピーは全国に15の支部を持ち、それぞれの地域で広くプログラムを提供している。ファイブリッジで活動しているのは東北支部。



新歓活動中！



運営スタッフになるとやることがたくさん！

**学生が主体となり「行動する人」を輩出**

NPO 法人ドットジェイピーでは、「★JAPAN PRODUCERの輩出★」というミッションのもと、日々活動をしています。学生主体のNPO 法人です。

JAPAN PRODUCERを簡単に言うと、身の回りのことを批判するだけではなく、自分ならどうするか考え、行動する人のことです。そういった人を増やすために議員インターンシップ・グローバルインターンシップの運営やイベントの企画・実施を行っています。

全国各地に拠点を置き、各地の議員、大使館、領事館や大学関係者の方の協力のもと、これまで18年間にわたり活動を行ってきました。

宮城を始めとする東北では、ちょうど10年という節目を迎え、現在、夏のインターン実施に向けて活動をしています。

過去の先輩方から今に至るまで長期にわたって、ファイブリッジに

●FBムゲ知識

ファイブリッジに通ってできた人の繋がり、緩やかに続きビジネスが生まれたりもする。



各テーブルで真剣な議論が続く。

はお世話になっております。週1回のミーティングの実施やイベント会場としてご利用させていただき、ドットジェイピーの成長を見守っていただいています。アットホームのようなファイブリッジに感謝の気持ちでいっぱいです。  
これからも後輩にバトンをつなぎ、活動を続けてまいります。

### PROFILE | 及川 遥 (おいかわ はるか)



NPO 法人ドットジェイピー宮城支部代表  
宮城大学食産業学部 岩手県遠野市出身  
大学では土壌肥料学研究室に所属し、アイスプラントをベースとした卒論に励んでいます！！

# 「セルジオ越後」のススメ

◆ 佐藤 大樹

私は心の中にセルジオ越後を飼っている。心の中のセルジオ越後は、様々な場面で私に語りかけてくる。

「最近の日本代表には部カツが足りないよ」これはカツ丼を食べなさいというサインだ。体重なんか気にするな。夜中でもカツ丼を食べなさいという叱咤激励は、私だけでなく、日本全体を勇気づける。そんな心の中のセルジオ越後が、最近、私にこう語りかけてきた。

「最近の日本代表のサッカーには死語が足りないよ。フレンドリーマッチで良い結果を出して浮かれても、それはダメでしょ」私はハツとした。確かにそうだ。最近の世の中には死語が少ない。さらには親父ギャグすら聞かない。

こんな日本で大丈夫なのか？

私もはや立派な中年である。ここは大人のたしなみとして様々な死語を伝えていかなければならない。まず自らをナイスミドルと名乗らなければならぬ。デニムなんて言っちゃいけない。ジーパンで十分だ。金曜日の夜を花金と呼んで、オールしちゃったよとか言わないといかん。けしからん。

ナウなヤングにはいつまでもバカウケでいたい。ナウいぐらいでびびってはいけません。モボ、モガと呼ばなければならぬ。カップルではなくアベックという呼び名で統一しなければ、わが軍の規律を保つ事はできない。仲良さそうなアベックをみたらツーショットやるねえ！ ぐらいは言っちゃりたい。ゲッツはポーズ

付きでいけばまだ笑いとれるはずだ。一生胸キュンしていただきたい。

いろいろと一気に吐き出してしまったが、何を言いたかったという諸行無常の響きあり。仙台っぴい町ですね。と言いたかった。以上です。キャップ。



PROFILE | 佐藤 大樹 (さとう ひろき)



一般社団法人 IKI ZEN 理事/クリエイティブディレクター  
震災発生後から「浜のミサンガ 環」三陸に仕事を！プロジェクトをはじめ、世界的なクラブ JAZZ DJである松浦敏夫氏とリーバイ・ストラウス ジャパンとの復興支援プロジェクト「Play / Pray For Japan」プロジェクトなどのコーディネーター業務に携わる。その後、仙台市の委託事業「東北ろっけんパーク」にて企画/広報ディレクターとして勤務。  
同施設退所後は、「東北ろっけんパーク」で業務を共にした斎藤由布子氏、気仙沼市「和 Restaurant 唐や」の吉田恵一氏と共に「一般社団法人 IKI ZEN」を設立。理事/クリエイティブディレクターとして被災3県の企業の販路開拓、商品開発、広報活動、まちづくりなどの支援業務を行っている。



第7章

# ファイブブリッジ女 大放談会

ファイブブリッジに集う女性陣をいつの日からか、「ファイブブリッジ」と呼ぶ者がいる。女性の視線から見た、ファイブブリッジとは？  
6人のファイブブリッジ女による、オフレコなしの対談集。



# ファイブブリッ女大放談会

## きっかけは畠山さん・山田さんの人徳

**早坂** 今日は「みやぎ『食・人』交流サロン」に初期の頃から関わっている女性が集まって頂きましたが、そもそも皆さんがファイブブリッジに参加したのは、どんなきっかけからですか？

**赤淵** 「こせがれ」の前身「にないてアクションクラブ」のイベントに参加したのが最初です。そのつながりで畠山さんの「〇はた」を手伝うようになって、食材を作っている農家さんの所に遊びに行くようになったんです。

**早坂** 今は「こせがれ」のマネージャー役として、欠かせない存在ですよね。

**笠原** 私は2008年、登米の油麩

を味わう会で県庁の山田さんと知り合い、「食・人」に誘われました。ちょうどその頃転職したばかりというところもあり、いろいろな情報が欲しくて交流会に顔を出すようになりました。

※遅れて東出さん、お子さん連れで登場

**一同** 一美ちゃん 久しぶり〜！

**早坂** 私は河北新報社の「食WEB 研究所みやぎ」で畠山さんとながりがあって、「食・人」のお誘いを頂きました。記念すべき第1回目の会合から参加しています。実は当初、「そんなに長く続かないかなあ」と思っていたんですよね（笑）。ここまで継続できたのは、畠山さんと山田さんの人徳あってですよね。

**佐藤** 私も最初の頃から参加していました。青葉まつりで手伝っていた

ら、たまたま隣のブースにいた畠山さんに声をかけられて、おっかあも一緒にいて、何だか面白そうな団体だなと…（笑）。最近改めて考えると、畠山さんが当時よく話していた「ネオ親戚」という考え方が、良いなと思います。年をとって、皆でシェアハウスに住むというのもステキだなと…。ファイブブリッジで彼氏を見つけたよと思ったけど、結局見つけられなかったしね（笑）。

**東出** 私は津田くんと森民さんの「週末居酒屋 三陸おさかな倶楽部」に入ったのがきっかけです。

**赤淵** 1人で？ すごい！ 私、近所なのでお店の前を毎日通っていたけど、結局最後まで入れなかった。にぎやか過ぎて、隣の住民から苦情も出たという話ですよね（笑）。

**東出** 日本酒が好きだったから、蔵

元さんの店というのに興味があったし、すごくおいしそうな香りに誘われたんですね。そこで津田くんに「食・人」を教えてくださいました。よろじになりました。

## 語り尽くせないファイブブリッジの思い出

※ここで稲葉さん登場！

**早坂** 皆さん、長い方で8年6ヶ月以上前から参加されているのですが、ファイブブリッジの活動の中で、思い出深い出来事やイベントなどありますか？

**赤淵** 一番は「世界はやエキスポ」かな。畠山さんとの初めての出会いも実はこのイベントです。「面白い人がいるから紹介してあげる」と連れていってもらったなら、甚平姿で疲

れて座っている親父がいました（笑）。**稲葉** いくつかあるんだけど、1つは「ひとツーリズム」。鳴子に泊まってるころんのお母さんの歌を聞いたり、塩竈に行つてスイーツを食べたり、訪れる先々をブログでリアルタイムにアップしていくという楽しい試みでした。もう1つはCMつく

**早坂** 私も一緒！「あなたのCM制作委員会」ね。集まった2時間の中で台本、キャスティング、撮影まで作る企画で、「ハーブを愛するひらぎゆう」がメチャ面白かったですね。バカバカしいんだけど、発想のトレーニングにもなりました。

**笠原** 具体的な出来事と言うより、夜の11時12時まで大の大人が集まって、真剣に語り合う場合は、おそらく

今後もうないかな（笑）と思うぐらいとても貴重な場でした。

**一同** 「食・人」と言えば自己紹介！

**稲葉** まだ全員の自己紹介が終わらない内に時間になっちゃって、「すいません。お先に」と帰る人もいたよね（笑）

**東出** やっぱ私も「食・人」かな。保育園って外の業界との関わりが少ない世界だと思うのですが、私は実家が畜産系の商売をやっているせいか、もう少し自分の仕事を見つめ直したいという思いと、このままで良いのかなという焦りがあったんです。それまで保育園以外の場で、自分の仕事や食について話す機会もなかったもので、交流会で話すことがすごい自信につながりました。

### 用語解説など

**みやぎ「食・人」交流サロン**  
80ページを参照。当初は『みやぎ「食・人」交流サロン』と題していたが、現在は「みやぎ「食ひと」交流サロン」と表記を改めている。

**〇はた**  
64ページを参照

**食WEB 研究所みやぎ**  
かつて河北新報社WEBサイト内で更新されていた、食に関する日々の話題やサイト情報、フードライターの活動などをお知らせするブログ。お祭りのブース出店なども行っていた。

**森民さん（森民酒造本家）**  
荒町商店街にある、江戸時代から続く蔵元。現在も旧市街地で醸造を続ける唯一の蔵としても知られる。銘柄は「森乃菊川」。

**世界はやエキスポ**  
42ページを参照

**ひとツーリズム**  
2010年8月に実施された、鳴子・岩出山エリアの「食」に関わる「ひと」を巡るツアー。他の地域での開催も期待されていたが、翌年震災が起ったこともあり、この名前では一度しか開催されなかった。

**あなたのCM制作委員会**  
86ページを参照



**早坂 久美（はやさか くみ）**  
食のプランナー（プランニンググループMP）1964年生まれの獅子座B型。凸版印刷（株）で16年間食品メーカー向けの商品企画業務に携わり、フリーに。食の商品開発・ブランディングをメインに、きき酒師・日本酒学講師として日本酒の企画にも関わる。強化テーマは地域食・地域ブランディング・発酵食。



**佐藤 香世子（さとう かよこ）**  
JR 東日本東北総合サービス（株）仙台支店営業部勤務。1961年生まれAB型、神奈川県横浜市出身。みやぎ野菜ソムリエの会で、野菜とくだものを通して美味しく食べ学ぶを発信中♪ 剣道4段、孫4人。将来は、農業生産者になり産直に野菜を出荷したい！座右の銘は、笑う門には福来たる。



**赤淵 利恵（あかぶち りえ）**  
岩手県雫石町出身。1981年生まれ。盛岡情報ビジネス専門学校ビジネスコース卒。飲料メーカー勤務。趣味はヘタ絵。「おいしいはしあわせアーチスト」として、日々を過ごす上で大切にしたい言葉は「おいしいはしあわせ」「無財の七施」「やらない善よりやる偽善」。





愛情あふれる手厳しい意見もいただいたファイブブリッ女の皆さん

**佐藤** 私は参加し始めた頃、社内  
でいろいろあった時期で、かなり愚  
痴をこぼしていたような記憶があ  
る。でもここで皆の話を聞いている  
内に、徐々にポジティブになって  
行ったんだよね。特に印象深いのは  
「銀座マルシェ」。「自分たちの想  
いを込めた商品を売る」ということ  
を経験できたのは大きかった。その経  
験があったからこそ、私は仕事上  
でも産直に軸足を移すようになりま  
した。

### 山田さんのブログが ありがたかった

**早坂** 逆に「ファイブブリッジのこ  
こはちょっと」という点は何かあ  
りますか？

**佐藤** はい！ 帰りのバスが無く  
なって、タクシーで帰ったこと(笑)。

**稲葉** 自己紹介の時間があるから…  
と時間にルーズになったかも。「開  
始時間びつたりに行かなくても、ど  
うせまだ自己紹介やっているかな」  
と9時過ぎを狙って行ったり。

**笠原** 逆に参加できなくても、山田  
さんのブログでその日の状況を把握  
できたのは良かったです。

**一同** わかる！ わかる！

**笠原** 交流会の翌朝には要点のまと  
まったブログがアップされていたの  
で、多少お休みしても、まるで毎回  
顔を出していたかのように参加出来  
たのは山田さんのおかげかも。

**赤淵** 私、当初『食・人』には食  
のブログが集まっている」という話を  
聞いて、恐れをなして近寄れませ  
んでした(笑)。でもこういう場は貴  
重ですよ。ファイブブリッジに関  
わるようになって、一気に知り合  
いが増えましたもの。大人になってか  
ら仕事以外の知り合いを作るって、  
なかなか難しいことだけど、いず  
れ自分の一歩次第なんだなと思  
います。

### これからも前向きに 楽しくできる場を

**早坂** 皆さんいろいろ思い出がある  
ようですが、最後に10周年を経て、  
今後ファイブブリッジに求めるも  
の、期待することは何ですか？

**東出** 先日参加した真山さんのイ  
ベントのように、若い人が頑張っ  
てる姿や、新しい人がどんどん入  
ってくる所を見られるのはうれしい。

ファイブブリッジは変な人が多いの  
で刺激になります(笑)。弾けていて、  
突き抜けていると言うか…。

**赤淵** 一美ちゃんもそうだけど、地  
域のことを考えて、自分自身の活動  
に対してもしっかり取り組んでいる  
のは羨ましいし、カッコ良いと思う。  
地域のこと、自分のやりたいことを  
前向きに楽しくできる場所がファイ  
ブブリッジなんだと思います。

**笠原** 私はちょっとフェードアウト  
しつつあるんですが、なかなかこ  
ういう集まりはないので、これから  
末長く続けて欲しいです。例えば一  
美ちゃんのお子さんが大人になっ  
た時に参加できるぐらい、時代に合  
わせて変形しながら継続できたら良  
いですよね。

**稲葉** 超長い自己紹介してたりして



稲葉 雅子 (いなば まさこ)

株式会社ゆいネット/株式会社たむす  
び。1962年生まれ、AB型とO型から生  
まれたA型、栃木県出身。  
京都女子大学、宮城大学修了、現在は  
東北大学大学院経済学研究科在学中。人  
材研究の会社と旅行の会社を営んで  
いるが、周囲からは「仙台三大謎企業の一  
つ」と呼ばれている。



笠原 真里子 (かさらは まりこ)

浦霞醸造元 株式会社佐浦 企画課所属。  
1977年生まれのさそり座B型、巳年、動  
物占いは狼(可愛い要素全く無し)。  
宮城大学事業構想学部卒業。10月1日  
(土)日本酒の日に開催予定の「宮城の酒  
コン(宮城県酒造組合主催)」の実行委員  
として奮闘中。座右の銘は「Never too  
late」



東出一美 (とうでひとみ)

朝市センター保育園 調理師。1980年生  
まれのO型、宮城県栗原市出身。  
立命館大学経済学部中退。宮城調理製  
菓専門学校卒業。「給食のおねえさん」に  
代わる、新しいキャッチフレーズ募集  
中。「笑顔が一番のごちそう」をモットーに、  
楽しい給食づくり、仕事と育児の両立に、  
日々奮闘中。



ムチャブリに悩めるという話題。

●用語解説など…

銀座マルシェ  
ファーム・エイド銀座の  
こと。2011年に震災復  
興イベントとして行われた  
「MAYAGI AID」  
にはファイブブリッジも参  
加した。

真山さん  
「ハゲタカ」の作者、真  
山仁さんのこと。

# みらいろ総集編

「未来を見つめ、いまを響かすひとの見開き一枚誌 みらいろ」は、ファイブブリッジ理事の鈴木圭介が、身近なひとや事からの魅力を表現した、雑誌の見開き風の一枚誌です。  
好きな写真で、コピーで、文章で、誌面のデザインで、それを主にWeb上で、遊び心入れつつゆるーく発信しています。



みらいろ総集編

# 「公私融合」のススメ ◆ 山田康人

「公私融合」をモットーとした生き方を宣言している自分ですが、ファイブブリッジという場に集まる人たち、そこでの人のつながり方やアクションの生まれ方を見てみると、ファイブブリッジこそまさに「公私融合」的だなあと感じています。

まず、ファイブブリッジは、組織の立場で、もしくはビジネスを目的に参加する場ではありません。もちろん仕事上の文脈があったり参加している人は多いですが、参加単位は組織ではなく、あくまで個人であり、その人そのもの。何かしら、仕事上の役割や立場を超えた個人としての想いを持った人が集まっています。だからこそ、初めての人も何度も来てる人も、半強制的に自己紹介&近況報告をさせられ(笑)、自分が何者で、

何をしているか、何を考えているか、何をしたいのかをそれぞれから発してもらうことを常としています。(それがフィルターになり、合わない人は自然と離れていくのかもW)

また、ファイブブリッジは、その場だけ、一回会っただけで、すぐ何かが生まれることを目的としていません。ビジネスや営業の場であれば、仕事になるかならないかが判断軸ですが、「今」や「仕事」に限らず、これまで歩んできた経歴や将来やりたいこと、また個人的な興味・関心など、公私融合で捉えるともっと可能性は広がります。また、一度会っただけでは分からなくても、何度も会って近況報告を聞いているうちに、その人のキャラクターなどプライベートな側面も含め段々と理解と味わい

が出てくることも多々。

さらに、自分も相手も常に動いて変化しているため、長くゆるくつながれる場があると、自然と上手く交わるタイミングが出てきます。仕事とは関係ないけどみんなまで応援したいとか、誰かの近況報告からアイデアやヒントを得たとか、生まれる形は様々です。公私の境目をなくしてしまうと、自分が、もしくは、相手が心からやりたいことならどっちでもいいし、逆に無理もしくなくてよい。そういうスタンスでつながれる関係性って心地いいなあと思います。ということで、公私融合のススメとして、そんな公私融合な場であるファイブブリッジをもっともっと使い倒すことをオススメします(笑)

PROFILE | 山田 康人 (やまだ やすと)



NPO ファイブブリッジ副理事長兼事務局長  
1978年12月4日生まれ、AB型。平成14年に宮城県庁入庁。  
平成17年から2年間、仙台以外で初めて住んだ気仙沼でローカルの楽しさにどっぷりハマり、平成20年からは食産業振興課に配属になったことも相まって、宮城の「食」と「人」の魅力にスポットを当てることをライフワークに。ファイブブリッジにはNPO法人化の準備段階から参画し、個人と組織の立場をフル活用した公私融合な生き方を「宮城を一生楽しむ」をテーマに実践中。(平成25年11月から現在は女川町役場勤務)

There's A Place



第8章

# ファイブブリッジって どんなところ？

まだファイブブリッジに来たことがない人のために。  
とはいえ、来たことがある人も、意外と知らないあんなコト、こんなコト。

# 1階創造スタジオ「ごくり」の日々

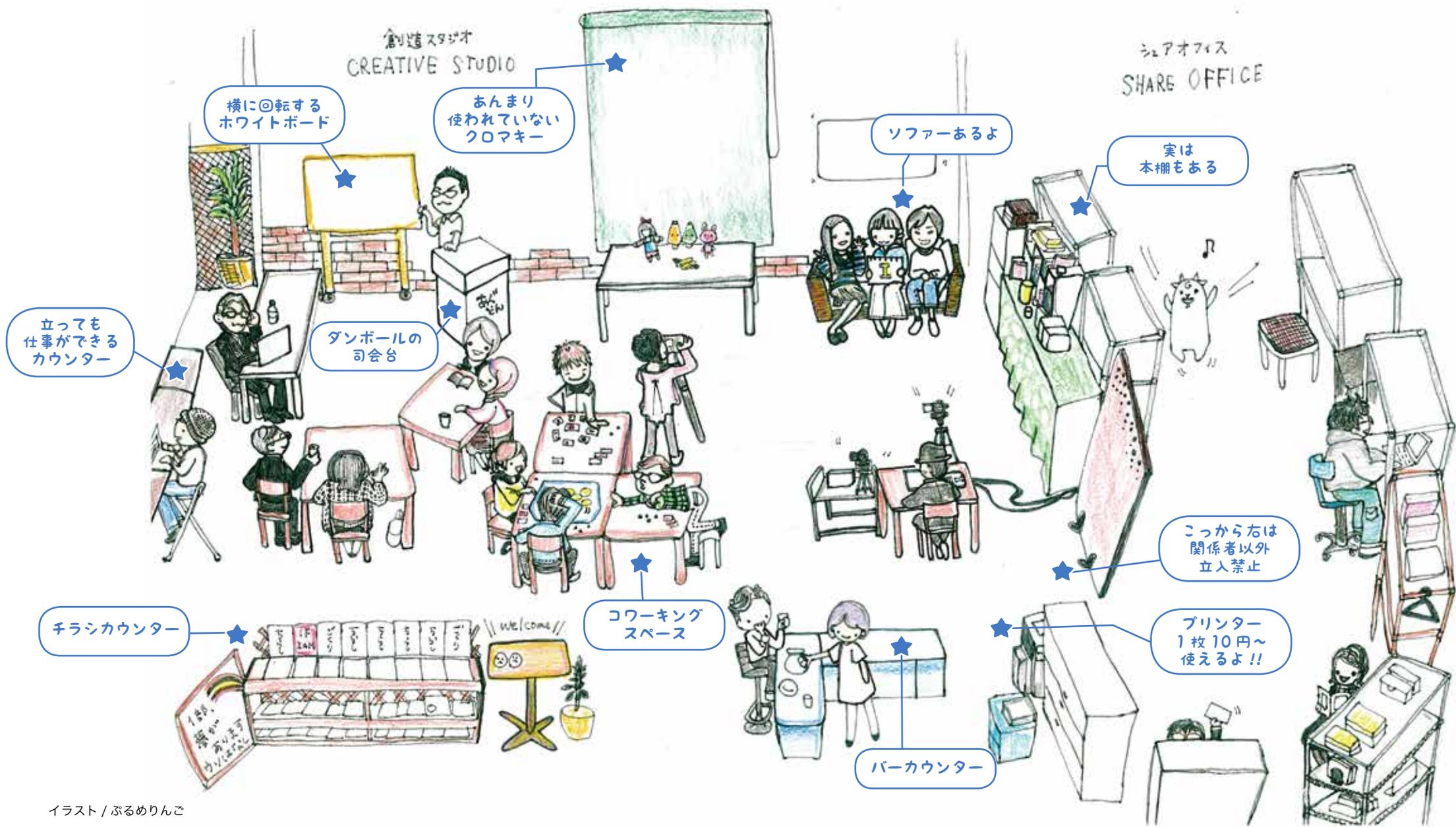


イラスト / ぶるめりんこ

「ごくり」ってどんな意味があるの？  
 (2013年9月11日発行「新聞つたえびと」より)

五橋に灯る、またまた怪しげな光

「アントレプレナーシップを育みイノベーションを興すためのクリエイティブワーキングラボ」

仙台市青葉区北目町のHSGビルに拠点を構える、ビズカフェ仙台「ファイブブリッジ」が大移動。「おっと、ファイブブリッジって1階に移ったの?」、「あれれ、1階で何をやらかそうとしているの?」なんて声が聞こえてくるぞっ。それでは、そうした質問にお答えして、その全貌を新聞つたえびとでどこよりも早く報告しよう。

まずはズバリ1階スペースのコンセプトと名称を紹介。

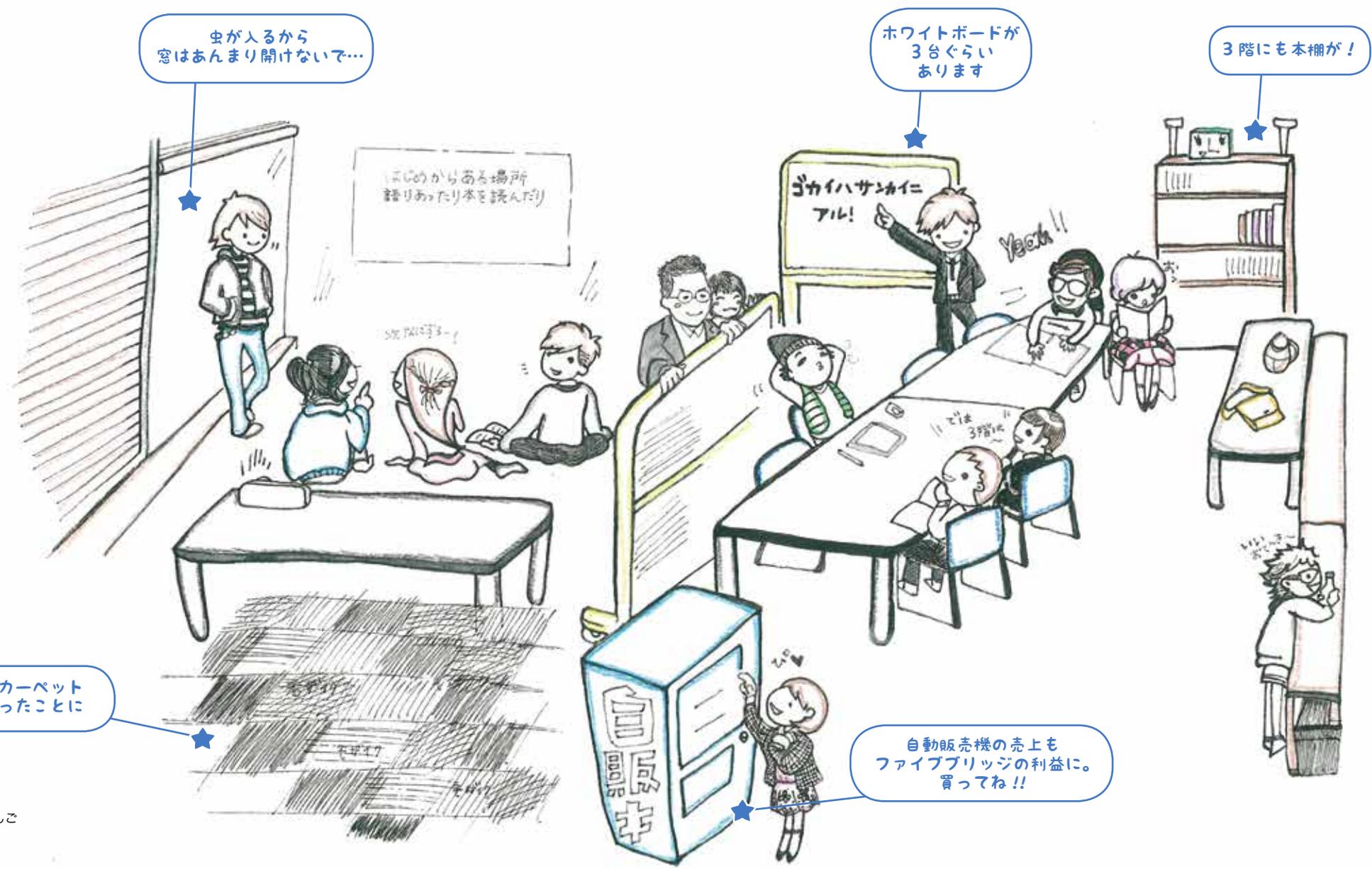
★宮城のモノコトヒトを「ごくり」とのみこむ仙台・五橋のNEWS創造スペース、ビズカフェ仙台「ファイブブリッジ」。一語では、ぜひファイブブリッジの「ごくり」と呼んでもらいたい。

Go = 五橋の「ご」、cre = 「クリエイティブの意味を「ごくり」の言葉の中にこめていいる。また「アントレプレナーシップ」を育み「イノベーション」を興すための「クリエイティブ」な空間に「ワーキング」ユーザーが集う「ラボ」機能を有する場。「5つのクリエイティブ」を興す場が、「ごくり(Gocri)」なのだ。現在この創造Studioのオープン準備に入っている。

ファイブブリッジとして、4階には「F&N」、3階南は「ワカツク」中心のフロア、3階北はこれまで同様、会議室スペースとなる。1階「ごくり」には「メディアージ」「いざなみ」「宮城のこせがれネットワーク」がシェアオフィスとして入居し、創造Studioと連動し、このスペースの意義を高める。

「ごくり」の運営方法はまだまだまっさら。新しいスペースを盛り上げる「ごくりびと」も、募集中。「Go! Create!」もないものは創るしかない。本スペースを「ごくり」と飲み込むように積極的に活用いただきたい。

# 3階会議室「ごかい」の日々



年季を感じるカーペット  
汚れは見なかったことに

イラスト / ぶるめりんご

この記念冊子2016年6月18日の10周年記念イベント時に販売する予定だったのは、内緒だ。



大雨時の1日花見の会場。画像ながらも、ちゃんと桜を楽しめます。



「みんなで床みがき大会」も一体感を生み出す大事な時間。



ふいに女性に参加いただくとプチ緊張。



古風なデザインで、なかなか心地いい椅子なのです。

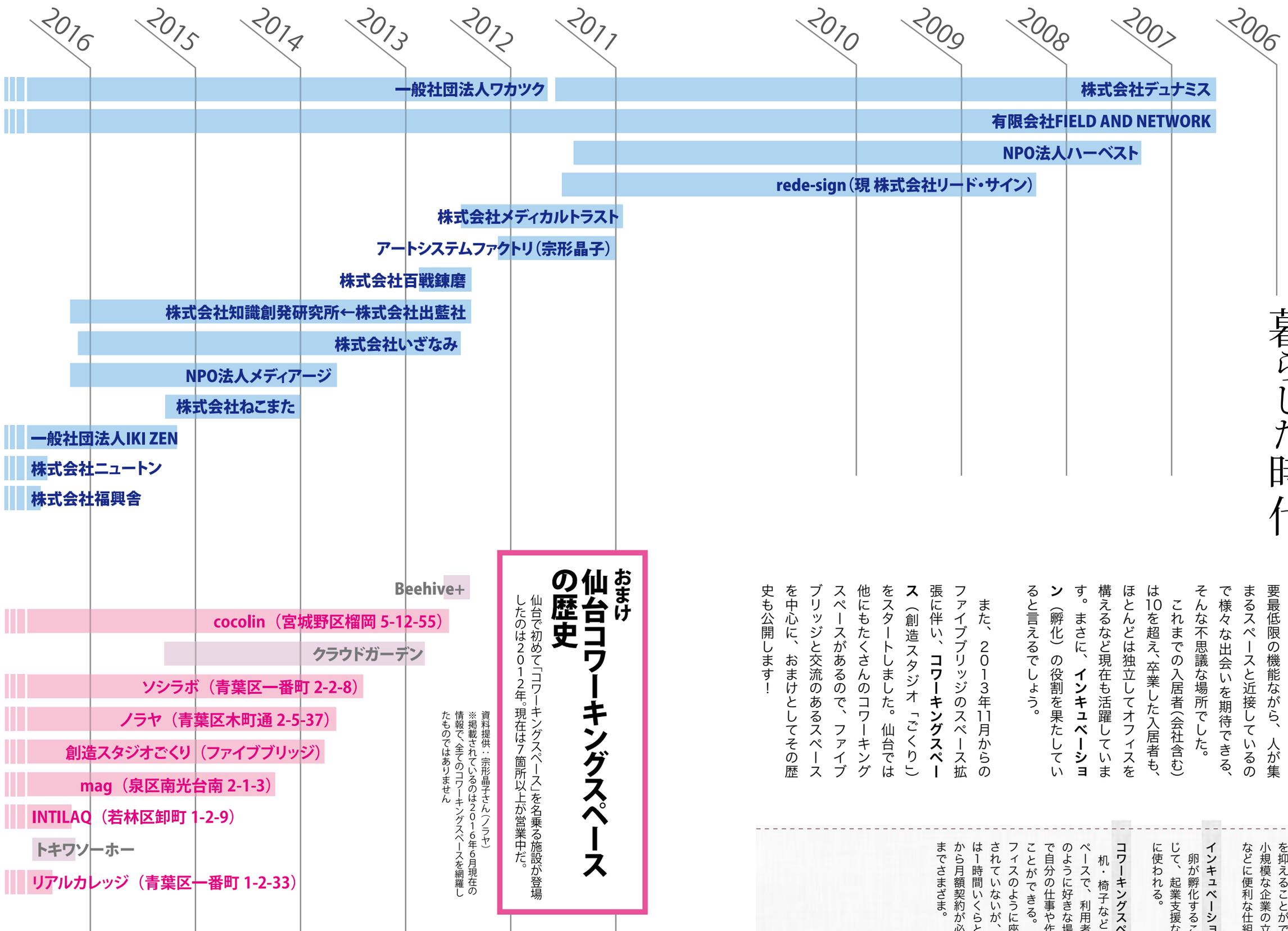


若者の発信講座もよく催されています。



フロアカーペットのハリハリ大会後の姿。

# シェアオフィス これまでの入居者が 暮らした時代



**おまけ  
仙台 coworking スペース  
の歴史**

仙台で初めて「 coworking スペース」を名乗る施設が登場したのは2012年。現在は7箇所以上が営業中だ。

資料提供：宗形晶子さん(ノラヤ)  
※掲載されているのは2016年6月現在の  
情報で、全ての coworking スペースを網羅し  
たものではありません

2006年6月にオープンしたファイブブリッジには、当初からシェアオフィスの機能があたりました。オフィスとしては必要最低限の機能ながら、人が集まるスペースと近接しているの  
で様々な出会いを期待できる、  
そんな不思議な場所でした。  
これまでの入居者(会社含む)  
は10を超え、卒業した入居者も、  
ほとんどは独立してオフィスを  
構えるなど現在も活躍していま  
す。まさに、インキュベーション  
(孵化)の役割を果たしてい  
ると言えるでしょう。

また、2013年11月からの  
ファイブブリッジのスペース拡  
張に伴い、 coworking スペー  
ス(創造スタジオ「ごくり」  
をスタートしました。仙台では  
他にもたくさん coworking  
スペースがあるので、ファイブ  
ブリッジと交流のあるスペース  
を中心に、おまけとしてその歴  
史も公開します！

**用語解説など**

シェアオフィス  
一つの物件(貸テナント  
等)を複数の企業・個人事  
業主が共有すること。家賃  
を抑えることができるので  
小規模な企業の立ち上げ期  
などに便利な仕組み。

インキュベーション  
卵が孵化することから転  
じて、起業支援などの意味  
に使われる。

coworking スペース  
机・椅子などのあるス  
ペースで、利用者はカフェ  
のように好きな場所を選ん  
で自分の仕事や作業をする  
ことができる。シェアオ  
フィスのように座席が固定  
されていないが、利用形態  
は1時間いくらかという場所  
から月額契約が必要な場所  
までさまざま。

◎FBムゲ知識  
意外と真面目にバカをやる大人ってそうは沢山いない。ファイブブリッジは猛者ぞろいだけど。

# 黄昏に、灯る場所。

Welcome to "Brilliant" Fivebridge.

写真・文・構成 / スズキケースケ

いつでも、だれかと、つながれる。

仙台駅から徒歩およそ20分、北目町・五橋地区の一角に、コミュニティ&スペース/ビズカフェ仙台「Fivebridge」はある。

2006年6月のオープン以来、経営者やサラリーマン・公務員・生産者・学生など、世代や属性、肩書を問わず多種多様な人たちからなるネットワーク（橋=Bridge）を形成し、さまざまな課題解決やプロジェクトが生まれる土壌ともなっている、まさに「大人のための交流部室」だ。

スペースとして活用されているのは建物の1階と3階で、1階は「創造スタジオごくり」とシニアオックス、3階は「貸会議室&交流サロンごかい」（3階にあるが名前は「ごかい」なので「ごかい」なきよう（笑））。

1階の「ごくり」は「五橋でクリエイティブな発想が生まれる空間でありたい」という想いで名付けられた空間。平日の日は、コワーキングスペースのように自由に滞在でき

る空間として、夜や休日は、FBマシナリー（週替わりテーマの交流会/勉強会）をはじめとした様々なイベント・セミナーが開催される空間として活用されている。3階の「ごかい」は、個人・団体の活動や発信の場として、一般の方も朝から晩まで自由度高く使える場となっている。さらに、「階の「ごくり」の奥は、シェアオフィスとなっていて、新しく事業を始めた人やコミュニティを活用したい方にうってつけの環境となっている。

誰もが気軽にふらつと立ち寄れて、そして「いつでもだれかとつながれる」。共に前向きに何かを作り上げていける場所。

思えばここは、ぼく自身も、さまざまな人との縁が広がる中で偶然に関わり始めた場所だった。けれど今では、ここがぼくの大切な居場所のひとつだとはつきりとわかる。

いまこの節目に、大きな声で叫びたい。ここにいる幸せを噛みしめながら。この空を見上げて。

「未来を見つめ、いまを響かすひとの見開き一枚誌みらいろ」は、ファイブブリッジ理事の鈴木圭介が、身近なひとや事からの魅力を表現した、雑誌の見開き風の一枚誌です。好きな写真で、「ごくり」で、文章で、誌面のデザインで、それを主にWeb上で、遊び心入れつつゆるーく発信しています。



第9章

# データ集／ファイブブリッジの軌跡

ファイブブリッジのこれまでの10年をイラストや写真、収録データで紹介。理念や目的、場づくりから生まれた数々の活動や言葉をどうぞ。

## エフビオ FB男くんの手廻り



(2手廻)てことぞ! なんちやって。 作: 3P30Xリムニ

# ファイブブリッジのはじまり

仙台市中心街にほど近い北目町、東北大学片平キャンパスに隣接したHSGビルに、ベテラン経営者や若手起業家・学生・サラリーマンが一体となって設立した産学官連携の場「Five Bridge」が2006年6月にオープンしました。

「Five Bridge」は、HSGビルのオーナーである(株)本田精機の本田会長をはじめ、(社)みやぎ工業会の役員を務める工藤・山城両社長様の支援のもと、若手の起業家・サラリーマンが中心となって経営者と学生・産学官の交流等、さまざまなインフォーマルネットワークの「橋」Bridge」を作り、そこから新たな価値創造の促進していくという試みです。

## 「拠点」「ファイブブリッジ」が目指すもの

「Five Bridge」では学生から若手企業人・行政職員・教師・企業経営者まで既存の枠を超えたさまざまな属性を持ちながら、「現状を変えたい」「人材を育成したい」

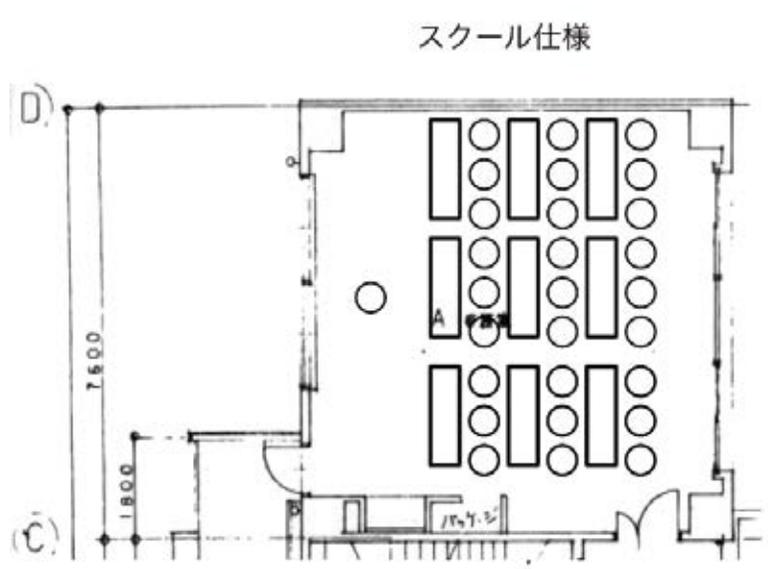
「地域に貢献したい」等という共通するミッションを持ったメンバーが一堂に会し、今後地域に必要なさまざまな課題解決に動き出していくための、プラットフォームを目指しています。

## 「街中」での拠点確保の意義

各団体は、これまでも新たな産業の芽となる人材の育成や様々なリソースを持つ人材が繋がることによって、新たな事業の芽をつくるべくこれまで活動してきました。

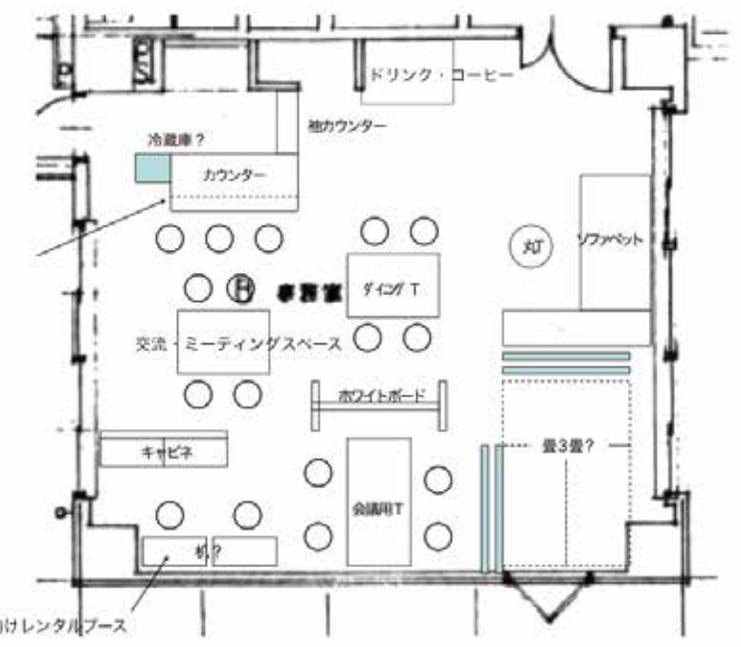
「Five Bridge」という恒常的な活動拠点を確保することで、活動内容の充実に非常に効果があるとともに、こうした拠点を共有することによって、団体相互の効果的な連携とネットワークの拡大を図ることができ、これまで宮城・仙台地域に不足していたフラクショナルな産学官連携・交流の場となることが期待できます。

## North Bridge 平面図



試験的に NorthBridge で開催されたみやぎ工業会の技術委員会の設置。

## South Bridge 平面図



恐る恐る電動のこぎりで使い、カウンターを作る。

学生起業家向けレンタルブース



窓際に作られたハイカウンター。渋谷の交差点のスタバをイメージ。



大掃除後、きれいになりスッキリした表情のメンバー。



はじめての会議室の貸し出し。白布を用意し、フォーマル感を演出。



3畳のたたみコーナーでディープなトーク中。



日替わりマスターバーで懇親をはかる面々。



カラーボックスで作ったカウンターで記念撮影 (2016年6月)。

## ファイブブリッジが目指す、5つのミッション

### 2. 地域貢献、産業復興に関わる人々のためのたまり場とする

2006年6月の任意団体から起算して丸10年。これまでの活動の沿革をまとめるだけでも、「オータムセミナー」「サイエンスデイ」「プロダクトフェスタ」「世界ほやエキスポ in 石巻」「セキュリティ被災地応援ファンド」「あぐりどんと祭」など数多くのプロジェクトをこの場から生み出している。

ホームページ、ソーシャルメディア、新聞つたえびとをリモデルしたいつぶりタイムズ等で、それらを編集整理し、メンバーの「顔と気持ちと生きざまを見える化」し、ファイブブリッジのブランディング、プロモーション力の向上につなげる。

全国のビズカフェと積極的に交流連携し、市民発信型のモデルとなることで、来仙者のヒトモノコト情報アクセスのベースキャンプとなり、より質の高いヒューマンネットワーク構築をはかっていく。

### 1. 全国ビズカフェネットワークのモデルとなり、全国からの来仙者の拠点とする

チャレンジ精神、目的意識の高いインキュベーションスペース（シェアオフィス）入居者を安定確保する。シェアオフィススペースの稼働率常時100%を目指し、安定収入の確保、人材育成、交流ネットワークを拡大させる。シェアオフィス入居者との連携事業を積極的にはかり、地域活性化、産業復興を促進させるため、交流サロンの機能の充実をはかり、心地よい空間を演出する。

### 4. メンバーと外部パートナーとの連携により、多様な利益創出をはかる

毎週月曜日のファイブブリッジマンデーのプロモーション強化をはかる。地域の担い手と地域ブランドづくりに貢献していく。また、全国の地域からの支援者の招聘、宮城・仙台から全国へ講師派遣の要請を得るべく、情報発信の強化、積極的なプレスリリースの発信を行う。

ニュースリリースを持った人が滞在し、ニュースを発信する人が集まり、双方のコミュニケーションを促進させ、ニュースが生まれる聖地とする。

ファイブブリッジマンデーのフランクな雰囲気は、独特の「コミュニティ」を創り出している。ネットでのコミュニケーションも活性化されており、ビジネスマッチングも数多く生まれるなど会員メリットも向上している。

### 3. 集う人の絆から生まれる情報、ニュースの発信基地とする

地域プロモーション交流事業の一環として、地域と地域をつなぐ「ローカル・トゥ・ローカル」を合い言葉に、首都圏と宮城の商店街連携、人的ネットワークなど、地域間交流を促進するプロジェクトを作っていく。また、「ビズカフェ」「ひととリズム」「定例会のススメ」「えこひいきのススメ」「ハイブリッド地域プロデューサー」など斬新なキーワードで、ファイブブリッジならではの特別なメッセージを提言。

地域資源となるべき究極の事柄は「人の生きざま」であるとし、震災地から産業復興を目的の情報を最優先し発信していく。生活者の価値観を変革し、震災復興にも貢献する。

### 5. 社会人や学生のサードプレイスとして、震災・産業復興に貢献する

フットサルチーム「FBユニテッド」、FB映画部」の存在は全国でも稀な「部活動のあるNPO」として。世界のボードゲームに興じる「iChitarina」はファイブブリッジの活動に参加するきっかけの一因となっており、さらなる勧誘を強化し、会員数増を目指す。東北の様々なワーキングスペース、「コミュニティネットワーク、団体との連携を強化し、多様な利益の創出を狙う。」

架け橋

## ファイブブリッジが創り出す5つのBridge

[2009年4月作成]

### ◆ 1st Bridge

宮城・仙台発の起業家が世界に羽ばたき、熱い議論が日々飛び交う“インキュベーションスペース”

### ◆ 2nd Bridge

いつでも気軽に立ち寄れ、インターネット環境が充実し、親戚同様のコミュニケーションが増幅する“交流サロン”

### ◆ 3rd Bridge

個人・団体の活動や発信の場として、朝から晩まで使い自由度の高い“レンタル会議室”

### ◆ 4th Bridge

会員相互の人材ネットワークを生かし首都圏・海外を視野にいれ、ソーシャルメディアを活用したハイクオリティな“ビジネスセミナー・交流会”

### ◆ 5th Bridge

全国のビズカフェ（札幌、石巻、東京、小田原、香川、佐賀、長崎、ミラノなど）と連携した“全国・全世界と宮城・仙台をつなぐネットワーク”

## ファイブブリッジで得られる5つのメリット

1. ビジネスや事業を行う上での“活動拠点（大人のアジト）”が得られます。
2. ゆるやかにつながる“仲間（新しい概念の親戚＝ネオ親戚）”がたくさん作れます。
3. 日常生活では知り得ない既成概念を超えた“本質の情報”が入手できます。
4. プロジェクトを共有することで“ニュースに登場”するチャンスがUPします。
5. 全国・全世界に“ハートフルな人的ネットワーク”が得られます。



# ファイブブリッジの沿革と集ったメンバーが創出した主なNEWS

(NPO 法人設立前) 2006.6～2009.5

2006年6月にオープンした産学官連携のコミュニティスペース「Five Bridge (ファイブブリッジ)」(仙台市青葉区北目町・五橋地区)は、若手の起業家・サラリーマンが中心となって経営者と学生・産学官の交流等、様々なインフォーマルネットワークの「橋=Bridge」を作り、そのスペースを通じて新たな価値や数多くのニュースの創造を促進・支援してまいりました。

下記に「Five Bridge」の沿革と「Five Bridge」に集ったメンバーが生み出したニュース(新聞記事)をまとめました。経済活性化、地域活性化といった共通するミッションを持ったメンバーが集い、必要な課題解決をはかるためのプラットフォームとフランク議論の場を提供しています。

なお、これまでに生み出してきたニュースの数を、本年度は「倍増」させることを目標に掲げています。産学官連携の経営戦略会議式勉強会で産み出されるプロジェクトを、ニュースリリース・広報PR等の情報発信を高めていくゼミでさらにサポートいたします。また、ハイレベルなインフルエンサー(大きな影響力を及ぼす人材)をこれまでの倍に増やすことで、東北の経済活性化に貢献してまいります。

2009年6月 NPO 法人ファイブブリッジ(申請中) 理事長 島山茂陽

## 2005年

9月 仙台ビズカフェ(のちのファイブブリッジ)設立の呼びかけ(メディア・テークにて)

9月 ファイブブリッジの契約が決まり、施設整備がはじまる

21日 プレオープンングフェスタ

24日 ファイブブリッジオープンングフェスタ「企業間による情報交換会付セミナー」

※以降、仙台ビズカフェマンデーとして、毎週月曜日に講師を変えて定例開催

★【掲載日】2006年6月21日  
「若い芽育て情報サロン/学生の就職や起業後押し/社会人ら24日仙台に開設 イベントや勉強会開催/業種・世代超え交流」

28日 定例会が木曜日になり「木になるビズカフェセミナー」となる

石井力重氏によるファイブブリッジのプロモーション動画ができる

朝の情報交換ビジネストークセッション「朝カフェ」の集いがこの頃からはじまる

13日 第1回「全員参加型プレゼンテーショントークショー」開催

## 2007年

3月 14日 プレスタール発売記念ワークショップ(石井力重氏)

17日 マイ名刺活用セミナー(後藤光正氏)

17日 MMJ・仙台で一番受けたい授業「伝わってナンボのメディア論」(島山茂陽氏)

18日 渡辺一馬氏と1日ウォークミーティング

24日 第2回「全員参加型プレゼンテーショントークショー」

16日 1日情報交換交流会(西公園)

★【掲載日】2007年6月4日  
「科学の面白さ知って/ベンチャー企業経営者らがNPO設立/仙台実験体験の場充実/親子教室継続、研究者にも提供」

★【掲載日】2007年6月7日  
「研修用カードゲーム好評/発言促し会議生き生き/仙台のベンチャーなど開発 大手企業から注文続々」

★【掲載日】2007年6月26日  
「学び究めて 東北100年(47)/第6部若き旗手へ」

「フィールドアンドネットワーク」取締役大草芳江(おおくさ・よしえ)氏/自然体験型学習を实践」

## 2007年

★【掲載日】2007年7月10日  
「100人・100通りの人生に触れて!」

9月・仙台でセミナー一線で活躍の市民が講師/生き方、若者の参考に」

★【掲載日】2007年7月12日  
「育て起業家精神/地域と連携、テキスト製作へ/大崎・鹿島台商高」

10日 Green Drinks in SENDAI(五橋公園)

★【掲載日】2007年8月29日  
「みやぎものづくり大賞/受賞10製品決定」

29日 せんだい・みやぎオータムゼミナー2007(東北福祉大)

21日 Photo Café@五橋(五橋公園)

★【掲載日】2007年11月4日  
「小型電気バス 開発GO/みやぎ工業会と東北大連携/仙台での運行目指す 数年後にも試作車」

22日 Happy Candie Xmas@五橋(五橋公園)

28日 第3回「全員参加型プレゼンテーショントークショー」

★【掲載日】2008年2月28日  
「2日マスター」夢発信/バーを舞台に多彩な情報

渡辺一馬(デユナミス代表)、石井力重(アイデアフロント代表)、工藤治夫(工藤電機会長)、遠藤理平・大草芳江(Field & Network)、森徳英(森民酒造社長)、蜂屋和彦(蜂屋食品専務)、若吉一輝(Σマインドウェイ)、中山聖子(NPO 法人ハーベスト代表理事)、濱口竜平(株式会社ぶりん代表)

## 2008年

### 3月

1日 仙台 異業種交流グループ企画/「地域を元気にしたい」

1日 第4回プログロックフェスタ「全員参加型プレゼンテーショントークショー」

17日 社会起業家育成塾「若起塾」

19日 1日情報交換交流会(西公園)  
★【掲載日】2008年5月2日  
「仙台・森民酒造、農家と連携し酒米作り/「100%若林産」目指すブランドカフェ、販路拡大の契機に/互いに夢語る」

★【掲載日】2008年5月26日  
「地ビール」ジャパン・アジアカップ/伊達政宗麦酒が金賞 登米の製造会社「親しめる味を追求」

26~31日 日替わりマスターウィーク「地産地消実践レストラン・宮城をまるごと飲んで語らナイト」(カフェ/アフター・スタジオ)

★【掲載日】2008年6月3日  
「来たれ!社会起業家/NPOとベンチャー企業、仙台で育成塾 地域貢献とビジネス両立」

8、9日 五橋フェスティバル(五橋公園)

19日 宮城ブランドを創り出す

## 2008年

### 10月

「オールナイト・マーケティングバー」(カウンター/ジェルメ)

★【掲載日】2008年9月28日  
「先人から生き方学ぶ/市民150人講師、仙台で若者向け講座」

13日 「せんだい・みやぎオータムセミナー2008」(東北学院大)

★【掲載日】2008年10月13日  
「知恵と技術で起業/東北大生、携帯電話の絵文字制作/全国コンテストで優秀賞/学生らに委託、大量受注可能」

★【掲載日】2008年10月22日  
「大学生諸君のお知恵拝借/内視鏡応用案を募る/仙台・医療システム開発会社 あす発表会、柔軟な発想を事業に反映」

★【掲載日】2009年1月15日  
「最前線の素顔 大学発ベンチャー/デユナミス(仙台市青葉区) 起業家と学生の橋渡し」

★【掲載日】2009年2月6日  
「まるごと宮城産/米粉でモチモチ小籠包/塩釜の総菜業者開発 試食評価も上々/4月に冷凍食品で発売」

★【掲載日】2009年3月16日  
「戦国BASARA」で酔え/登米・

## 2009年

### 4月

地ビール「政宗」「小十郎」タッグアニメ化、缶にキャラクター見参」

★【掲載日】2009年3月19日  
「E かも/工藤電機会長 工藤治夫さん(72)」

科学の力で自然と共生

25、26日 地域プロモーション交流事業としてアラバキロックフェスティバルに地産地消型ブース出店

23日 第5回「全員参加型プレゼンテーショントークショー」

※その他会議・交流会をのべ年間約250回開催

## ニュースになったファイブブリッジの主なメンバー(順不同)

## 会議交流サロンに集った主な講師と参加者(順不同)

村井嘉弘(宮城県知事)、加藤哲夫(NPO 法人せんだい・みやぎNPO センター代表理事)、木村達男(三陸オーシャン代表)、熊谷大(松下政経塾)、竹井智宏(東北イノベーションセンター)、多田克士(diBec 代表)、土合和樹(豊田通商)、早坂久美(フランチングルームMP)、福田沙織(パーソナルフォトグラフィ)、八尋豊(カフェクリエイト代表)

※肩書きは当時のもの

ファイブブリッジの理事、運営スタッフは全員無報酬である。さまざまな事件が勃発し大変なことはかりだが、FBマンデーの参加費が減免となり、たまにはいいことがあるのかな?



## ● ファイブブリッジの沿革（NPO設立以降） 2009年度～

## ● 各年度の事業計画の重点テーマ

2009

2006年6月にスタートした任意団体によるファイブブリッジの運営から2年7ヶ月を経過し、2009年4月4日に特定非営利法人ファイブブリッジ設立総会を開いた。同年8月14日に正式認証を受け、新生ファイブブリッジのスタートが切られた。2009年度は、施設を環境を整備。インキュベーションスペース（シェアオフィス）の入居者の安定稼働、会議室・交流サロン利用者増加策である「ビジネスマンデーセミナー」に力を注いだ結果、単年度での収支黒字を果たした。

2010

2010年度は、ホームページの全面リニューアル、施設やインターネット環境の再整備を行うことで、新入居者の獲得に成功した。ビジネスマンデーを核に多様な価値観を持った人が集い、様々なプロジェクトが生まれ、ファイブブリッジのブランディングを強固なものとした。2011年3月11日に発生した東日本大震災後も、ファイブブリッジに集まるメンバーの絆を活かし、様々な局面での助け合いや支え合いが生まれた。中でも、東北ビジネス未来塾の語りの場から派生した「セキユリ被災地応援ファンド」は数多くのメディアで取り上げられるなど、ファイブブリッジメンバーの熱い志が日本全国・世界の多くの人々の心を揺り動かしていった。

2011

2011年度は、ファイブブリッジでの数々の情報発信・交流活動により、被災地支援、地域間連携、人材育成に寄与できた。月刊信用金庫への原稿執筆、中東視察団の受け入れコーディネート、被災地応援ファンド応援バスツアーのサポートなど震災後の活動領域も多岐に渡った。中でも、宮城のこせがれネットワークの活動は、震災支援セット「七人のこせがれ箱」の商品開発、首都圏や宮城県内での物販イベントへの出店、NPO法人農家のこせがれネットワークとのCSA（地域支援型農業）セミナーなど、東北・宮城の強みである農業や伝統文化の次代を担う若者との交流事業の場として、良質なコミュニティが形成されている。なお、2011年10月23日に開催した「ファイブブリッジ5周年パーティー」には50人余りのメンバーが集い、さらなるコミュニティの発展を誓いあった。

2012

2012年度は、「Just Create it! ないものは創るしかない」をメッセージキーワードに、第1回全国ビスカフェサミットを開催、宮崎県川南町の軽トラ市を視察し岩山出山にてほっかぶり市のオープニングイベントをプロデュース、宮城のこせがれキッチンがはじまり、メンバーの発信をサポートする新聞つたえびとの創刊をした。パーチャルラボなど農家のこせがれネットワークとの連携も強化され、山形県最上地方の地域づくりワークショップのアドバイザーを担うなど全国の地域とのつながりも強化された。また、イタリアにはビスカフェミラノが立ち上がり、慶長遣欧使節船400年に向けたコミュニティ・ミヤゲーズによるパーティーやワークショップを行うなどイタリアとの交流軸も長いスパンではじまった。TFMYUとの映画HAPPYの上映会・パーティーで学生との連携イベントの開催、ファイブブリッジメンバーによる部活動・FBユナイテッドや映画部の活動も定期的に行われ、まさしく「ないものを創り続けた」1年だった。なお、メンバーの結婚も相次ぎ、コミュニティと共に成長する強い絆が生まれている。

2013

2013年度は、「Create the 3rd Wind! 第三の風を興そう。」のメッセージキーワードのもと、ユーストリムで毎週定期配信を続けるIFAMの100回記念24時間放送、イツフェスも7年目を迎え安定した収益をサポートができた。9月にはHSGビル1階をファイブブリッジとして増床し、カフェスタジオ「ごくり」をオープン。いくする編集室をはじめとして、学生や若手社会人の情報発信力にさらに磨きをかけるスペースとして、私たちの活動のウイングが広がっている。11月には、理事長・畠山とスタッフ漆田がイタリアモテナに渡り、現地の人々とのリアルタイムの映像セッションを行い、グローバルな交流・交易の種を蒔く場を演出した。1月のブログロックフェスタも10回目の開催、2月には宮城のこせがれネットワークから生まれただぐりどんと祭も成功に終わり、若いプロデューサーの創造をサポートし、外部団体との連携イベントも活発であった。

2014

2014年度は、「365日セレンディビティー磨きのすゝめ」とのメッセージキーワードとし、ファイブブリッジという場があることで人と出会うことの偶然性を高め、互いに学び合うことを呼びかけた。毎年、集う学生や社会人が入れ替わり参加者が新装されるものの、コミュニティが成長すればするほど場を卒業し、独自のネットワークでつながる傾向があり、会費・集客共に苦戦した1年だった。会費収入は目標の6割にとどまり、FBセミナーの参加も全般的に低調であった。理事の石井力重氏によるアイデアセミナーによる会費の促進を行い、FBセミナーではゲストを招聘、特別なテーマを設けるなど運営スタッフ各人の努力が実りつつある。会議室の利用では、カタリバ、iChitarinaなどの定期貸出し、きこり女子会の利用がなされた。シェアオフィスの利用は満室となり、安定運営に大きく寄与した。「ごくり」では網戸の修繕、パーカウンターを設置し、最低限の設備は整った。

2015

2015年度は、「ユカイだ、ファイブブリッジ。く愉しく、論じ合う社会に!」とのスローガンでスタート。鈴木圭介、漆田義孝の2名の新理事を迎え、運営スタッフを経てより責任ある体制を作れた。今季も理事の石井力重氏によるアイデアセミナーによる会費の促進がはかれたものの、会費収入は目標の6割にとどまった。また、一般社団法人Ikkizenが新しく入居し、さらなる多様な価値観のつながりが生まれた。集うメンバーの刷新もFBマンデーのみやぎ「食ひと」交流サロンのコーディネーター制度の導入など、ゲストを招聘し内容をリニューアル、集客方法も変えるなど、コミュニティの維持のために運営スタッフ同士一致団結できた1年だった。一方、会議室の利用は多方面からの依頼があり、一定の利用料が確保できた。

2016

2016年度はファイブブリッジのスローガンは、『あの手この手で、ソコまでヤルカ』だ。さまざまな方策で、ファイブブリッジの仲間を集め、理念の継承、価値の創造を、「ソコまでヤルカ」と言われるほどのパワーでさまざまな活動に巻き込んでいきたい。6月には開設10年を迎え、記念イベントの開催、記念本の出版など、地域の場と人、NEWSづくりに貢献していきたい。これからの場づくりの10年を視野に入れ、運営スタッフの増強、念願の専従者の常駐に向けて、アイデアを出し合い実現していきたい。今年度のファイブブリッジも、輩出される人材のサポート、プロジェクトリーダーのサポートをしうるコミュニティの創造を目指していく。これまでの活動をしっかりと記録データベース化し、情報発信し続け、全国の地域に対しても「たまり場」から生まれる価値を伝播させることで、さらなるファイブブリッジのブランドの強化をはかっていきたい。





# ファブペディア

ファイブブリッジ界でしか通じない用語を無駄に解説しちゃうコーナーです。



## ネオ親戚

ファイブブリッジを通じて仲間となっていく人々をどのように表現したら…。と考え生み出された「新しい概念の親戚↓ネオ親戚」とのリジチヨール山山による造語。

友だち以上、家族未満。血のつながりはなくても、気持ちの上でのつながりがあれば、親戚同様の付き合いに。時間と共に環境が変わったとしても、久しぶりに会っても「ネオ親戚」として親密な関係の間柄として。

例えケンカ別れしたとしても、「ネオ親戚」であれば、その絆は変わらず離れられない何者か生まれるという概念のため、人によってはむさくしい言葉。

## ないものはつくるしかない

ビスカフエ山山「ファイブブリッジ」を設立した際に、リジチヨール山山が勝手に唱えた初期のメッセージキーワード。

「文字通り何もなかったから、あたりまえじゃん」と揶揄する輩は「ここから出ていってくれえよ」。「サッポロビールのCMをバクったんじゃっ?」との疑惑に関しては、「インスパイアされたんです」ということになりました。

良い子の皆さんは「男は黙ってサッポロビール」と北海道に向かって叫んで、忘れてしまってくださいな。

## グランベター論

2005年頃、ブログ熱にうなざれていたリジチヨール山山が、佐賀新聞社の怪しげなブログ友達から教わった意外にもちゃんとした統計学上の言葉(グランベターさんって、イギリスに実在した

らしい?)。

メディアコミュニケーション論のちょっとした世界では、「弱い紐帯の強み」とも訳され、遠く離れた関係の人からの意見の方が、人の心は動かされるものとの概念。就職する際に、誰の意見に左右されて決めたかどうかを調べたら、身近な人よりも関係が遠い人のアドバイスを受け入れる傾向の人が多かったらしい。

さすがに「俺ってすごい」と自分で言っても、誰からも相手にされない。第3者から「あいつってなかなかの奴」と言われるようになった方が、自分ブランドが磨かれるので精進すべしということ!?と拡大解釈している。

なので、皆さんは「山山さんって、スゴいんですよ」と私の会社の人を見たら、まずは骨髄反射的にオーバリアクション気味に声をかけてね。決して、変な人オラを出さないようにしていただきたい。

## アフオーダンス

環境が動物に対して与える「意味」のこと、というのが生態光学、生態心理学の基底的概念が本来の用語のようである。

デザインの世界では「普通に置いた椅子は、座りたくなる。逆さに置いた椅子は、人を殴りたくなる」と「形状が人の行動自体を変える」と使われ、デザインの大切さを伝える際に使う、というのがまじめな話。



エイライツ  
はい、リジチヨールは、俗に言う「エラ」が張っています。えっ、それが何か…。片桐はいり師匠には及びませんが…。

そんなちよっとした悲哀を感じてか、副リジチヨールの山ちゃんが、荒唐の名店たご焼き「〇すけ」で両手を「す」を逆「す」にして、両エラに付けて「エイライツ」とやったのがはじまり。エラがあってもなくても、ちよっとしたすこいことがあったら「エイライツ。エイライツ」を無駄に連発して盛り立てよう。

開発から5年が過ぎるも、全くブレイクしないのが、その筋の人っぽく!?「エラにキス」なんです…。

## ずんどこへるんちよ

栄えある第一回ブログロックフェスティバルにて、山山が無駄に勝手に怪しげにブログロックしたタイトルがこれ。かつての私の楽天ブログ「わかばやししく応援マン日記」より、抜粋して紹介しちゃう。

「ずんどこへるんちよ、つてなんなんだあぁあ!!! 『私が愛してやまない』ずんどこへるんちよ、のこを満を持して書いています。これを読むとずんどこへるんちよ、が果たして何なのかよくわかる。はすです。そして、ずんどこへるんちよ、のことがあなたもさびしうに気になってくるはずですよ。さあ、一緒に「ずんどこへるんちよ」しましょう。私がこの「ずんどこへるんちよ」にはじめて出会ったのは、たぶん10年くらい前のことだろ。フジテレビ「世にも奇妙な物語」の中のお話だ。

エリートサラリーマンを演じる主人公の草刈正雄。彼は流行に敏感であることを自負し、自分分知らないことはこの世には何も無いと思うくらい

ファイブブリッジの古株メンバーはたまに、何かをみんながしたくなった場合に「それって、アフオーダンス性が高いねえ」とのたまうことも。ただ、用法を間違っ話している人しばし。潜りのファイブリーゼに要注意。

## 各種ノミカタ

「〇〇の味方」との意味ではない。夜の宴での「呑み型」のことである。

正しい「呑み型」は、まずは相撲の横綱の土俵入りを模した「雲竜型」からはじまる。杯(さかずき)を両手になみなみと酒を注ぎ、両脇を東西にせり出し広げ、四股を踏む形で、雄々しく一氣に呑むべし。決して雲竜型だけで終わらせてはいけない。

続いては、両脇を締め、杯やグラスの下だけを持ち、雫の一滴をおちよほ口で大切に飲み干すべし。これこそが「不知火型」である。

セミナーや講演会、フチ懇親会のような場所では、よく缶ビールや缶チューハイが出てくることが多いだろう。そんな時の乾杯時に、忘れてならないのは「ジョッキがなくても、ジョッキ型」だ。30年前の弱い田舎のツアアウトのジェスチャーをイメージしよう。片手の親指と小指だけを空に付き上げ、90度ねじれの位置の胸のあたりに下ろす(あつ、ソコのアナタ、フレミングの左手の法則ではないぞなもし)。缶のサイドに据えて、上底と下底(台形の面積を測るワケではやいっ)を親指と小指で支えたら、「はい、ジョッキ型」。カ

ンパイ後も手首の筋がフルフルしてもガマンして乗り越えよう。きつといいことがあるにチガイナイ!? 手が小さい女性などは、両手で「ダブルジョッキ型」をオススメしたい。

飲み会が進むと、やはり相撲の型だけでは物足

んどこへるんちよなんだよな」と話をあわせようとするが、それが用法が悪いのか逆に彼が「ずんどこへるんちよ」という言葉を発することごとく、冷めた対応をとられてしまう。そして最後には、主人公の草刈正雄が、最後までその言葉の意味を理解することなく「ずんどこへるんちよ、つてなんなんだあぁあ〜!!!」と絶叫しながらドラマが終る。

※さて、この「ずんどこへるんちよ」という下マの解釈は、あえていたしません。だって「ずんどこへるんちよが、ずんどこへるんちよで、ずんどこへるんちよするから、ずんどこへるんちよなんですもん!!!」

## シユレディーナガの猫

これまた第一回のブログロックフェスティバルの際に、石井力重さんから教わった量子力学の話。「黒い箱の中に猫がいます。猫は生きてるだろうか、死んでいるだろうか」との問いかけ。箱を開けることもできず、箱を触ることもできない。いったい、どうしたらわかるのか…。

結論は「生きていれば、ニャーと鳴くだろうし」、「死臭がすれば、死んでいる」というのが正解。「そんなのあたり前じゃん」というなけれ。なかなか正解を出せなかったでしょう。

「観察することで、状態が変わる」との量子学(漁師学ではない)の概念がとても腑に落ちる概念なのでした。何ごととも観察することから、ファイブブリッジにいと多くの人と出会います。個人的な人たちだからこそ、第一印象で人を目利きすることなく、時間をかけて話し合っていくことで、相手との距離が近づいていくの(じょじょ)。あれっ、こんな人だったのね」と印象が変わることは多々あります。(んだよね〜)

りない、やはり野球の型デシヨ。しかも地元の英雄(野茂英雄のトルネード型ではない)「をね」ということで、開発されたのが「佐々木大魔神型」である。開発者は、会社を辞めた後輩で連絡を取っていないので、版權もわからないので許しておくんまし。大魔神と言えは、あの落ちすぎのフォークボール。めいっばい、人差し指と中指を開いて、グラスやコップのど真ん中に突き刺して欲しい。このまま掴んで話さず、全てを飲み込んだら、アナタも早く落ちる(酔いつぶれる)「仙台人だろ」。

続いて「エノモトカナコ型」というものもあるらしいが、他の人の酒を略奪して飲むというストリートすぎるネタなので、キヨハラさんに打ち返されないように要注意。さてさて、飲んだくれてくると、「ワタシ、ヨッパラってないよ」というサインが必要だろ。そんな時に打ってつけない呑み型は、世界のワンちゃんこと「王貞治型」だ。これについては詳細説明しない。国民栄賞賞の人の呑み型を知らないとは、ヒコウミンめっ。まずは自分で調べてみんしゃい。

ちなみに、「コークスクリュー型」を当局は認めておらず、「橋本聖子型」も歴史遺産になってそのなので割愛します。



向かい側の「村上屋餅店」

とファイブブリッジ3階の「むかい」を、敵美溪の

「郭公だんご」のようにロープでつなぎ「ガッチリ」といきたいと本気で思っているメンバーは1人だけだ。

# リジチャー畠山の ありがたいのかありがたくないのか ワカランチンなビミョーなハナシ

(略してリジチャー語録)



## 無目的に集う場の意味

ファイブブリッジは「無目的に集う場だからこそイイのだ」と考えています。初めに目的がありきだ、目的が達成するか途切れるかで、そのつながりは消えてしまうもの。目的が無くて、まずは仲間として、酒を酌み交わし、相手を深く知ることに。

いずれはネオ親戚となり、事業やプロジェクトが終了してもつながりは消えることはないでしょう。仕事が先にあると、大概はつまらないものになってしまいうこと。ビジネスのつながりがなくとも、一生付き合えるパートナーを生み出すには、無目的な場所でのつながりが「あんべえいい」もんですな。

## 「出会いと縁」の次に必要な「コト」

よく「出会いと縁」が大切と言われますよね。とはいえ、なんかそれだけでは足りないなあ、ファイブブリッジ開設から数年が過ぎて感じました。その中で、あっ、そうそう「バイオリズム」が大事だということに気がついたのです。

何かコトが進むには、相手と自分のタイミング次第。周期が違うので、ぶつかるとタイミングを多くするには、やはり出会いの場が多くあればあるほど確率が増すはず。

ふう、スッキリと思っていたら、この3つが合致してもうまくいかないことも出てきました。さすれば、何かはまだ必要。うーん。とうなっている。

あっ、「相性」だ。価値観を変えるのは容易ではないもので、互いの価値観がやはり同質のものでないと、共に進むことがままならず。合致すれば強力なパワーがみなぎるということをこのこれまで

まで10年で知らされたのでした。

## ファシリテーションの方法は、 全て合コンから教わった

たまに畠山さんの進行は、うまいねえ、いいねえと言われることがあります。はい、正直にうれいす。

ファシリテーションやコーチングのセミナーに参加したことは一切なく。私がどうして他の人よりは、会の進行が他の人よりうまいのかのワケは、20代後半の東京生活時代に合コンのような場を毎週3回は持っていたからなのです。しかも幹事役。

参加者全員が「ああ、楽しかったあ」と感じてもらうためには、何が必要かと考えた時に出した私の正解は「一度は発言して帰れること」だったのです。なので、はじめに必ず「自己紹介」する場を設けるのですよ。

また、貴重な時間、みんな同じ時間を渡してあげるのが務めです。どこから来たの、好きな食べ物、趣味は、血液型などの言葉を引き出していきます。「あっ、私と一緒」と共通のキーワードが出てきたらしめたもの。同じキーワードに近い者同士を近くに据えます。そんなことくらいです。

合コンの幹事役として、喜ばしい出来事は後からやってきます。それは、後からふたりがチューをした(ビジネスでは、商談がはじまった。いつものまに付き合って結婚をした)ビジネスマッチングが成功した)ということの後から聞くことが最大の喜びなのです。

「ああ、あの場を開いてよかったなあ」。そんな場づくりをいつも心がけています。

## 富士山山頂論

コミュニティづくりのアプローチを考える中

## 自分たちの地域は自分たちで

2015年3月14日付河北新報朝刊の「座標」にコミュニティデザイナー・「studio.1」の山崎亮さんの『活動人口を増やしたい』との論壇が掲載されていた。活動人口というのは造語で、地域づくりの活動に参加する人の数との意味だそう。

「人口1万人のまちで活動人口が千人だとすれば、20年後に2千人まで増やすことを目指してみよ。20年後に定住人口が8千人に減ったとしても、4人に1人が何らかの活動に関わっている地域になる。1万人のうち千人しか地域づくりに関わっていないまちと、8千人のうち2千人が地域づくりに関わっているまちとは、どちらが魅力的だろうか。」

私は依然から地域活性化の指標を作れないかと

で、私が考えた例え話がある。「富士山山頂に立つパーティー(集団)の登り方について」だ。ある一団は静岡県側の麓から登り、ある一行は、山梨県側から登り、ある団体は車で五合目まで行ってから登る。ヘリコプターで勞せず山頂に降り立つ輩もいる。

ここで感じるのは、ヘリコプターを使うとは邪道だと、軽蔑する人も多いのではないかと。汗を流さずに、富士山の魅力を感じようとする。その行為自体を否定したくなるのもわかる。しかし、各団体の目標が「富士山の山頂で輝かしいご来光を浴びること」と共通のものだとすれば、どのようなアプローチを経ているかは、関係ないように思うのだ。

むしろ、途中のプロセスを共有しつつも、状況をあまり深くは知らなくてもいい。こうしたことは、地域コミュニティでの様々な活動団体にも照らし合わせて考えられるだろう。

「私たちが住まう地域をよりよくすること」が共通の目標だとすれば、様々な団体が様々なアプローチで行う活動は多様であっていいものだ。無理にひとつにならなくても、数年に一度のお祭りなどで集い、互いに情報交流し楽しめる関係性であれば、様々なシーンで地域が豊かになるアクションが増えていくはずだ。

多くの人が、日本一の山の山頂に立った時の気持ちやイメージすることで、コミュニティづくりに対する寛容の心が植え付けられるのではないだろうか。

## 私は「田原総一郎」になりたい

会議などの進行役をファシリテーターやモデレーターとも呼ぶ。ファイブブリッジのビジネスマンナーではそうした役割のスタッフを「コーディネート」

山崎氏は続けて「そもそも日本は江戸時代まで活動人口比率の極めて高い国だったはずだ。『道普請』に代表されるように、地域づくりは住民参加で行われていた。こうした地域づくり活動のことを「結」講「連」「座」と名付けて取り組んできた。今まで通り行政に地域づくりをやってもおもうというだけでなく、活動人口を増やして自分たちの地域は自分たちでつくろうという気概を持つことも重要である」と語る。

まさしく大きく頷かざる得ない言葉で、グサリと胸に突き刺さるメッセージである。

## 第9章 データ集／ファイブブリッジの軌跡

ネーターと呼んでいる。

その中でちょっとした私の違和感は、進行役が場をまとめるだけでは何か物足りないと感じる部分だ。果たして、進行役はどんな役割を担うと、参加者にさらに喜んでいただけるだろう。

私がいつも目指しているのは「朝まで生テレビ」での田原総一郎の仕切り方だ。出演者の声をまねべんなく引き出し、話し手が語る言葉を他の話し手につないでいく。時には、スピーカーの話を作制止することもあり、話題に抑揚をつけたり、時には喧嘩腰に話題に油を注いだりする。

このグループ感あふれる場の演出方法に学ぶべきものは大いにあるだろう。最後に生まれた価値を一語のキーワードで伝えられれば、その場が引き締まること請け合いだ。

そんな人をなんと呼ばいいだろう、と考えていたところ「アンカーマン」という言葉にたどりついた。一般的には、テレビのニュース番組のメインキャスターとして称されることが多いようだが、話しのパトンをつなぎ、最後のゴールを飾るという意味では、アンカーマンが一番スッキリする。田原氏はアンカーマンとしての役得も痛快に行っている。散々議論をした最後、CMに入る直前に自論を唱えて終える。そうすると、結論はそういうことなのか?と印象つけてしまうのだから。うーんウマイ進行役だ。あやかりたいもの。

## 何かをやり遂げなければ、「場と仲間をつくるう」

今年、何かをやり遂げたいと思っている人へ。まずは何よりも自分の「場と仲間」をつくって欲しい。

昨年末にちょっと相談があると、姉の娘ふたりと息子と呼ばれた。大学3年の姪からは、報道っ



# 河北新報で辿るファイブブリッジの物語

たど



2006年6月21日付 河北新報夕刊



2013年7月27日付 河北新報夕刊



2008年2月28日付 河北新報夕刊



2011年4月22日付 河北新報朝刊一面トップ記事

コレを覚えれば、仙台の会合、宴のラストが締まりすぎる！

## 伊達の一本締め 口上

※モデル/庄司直人さん、いく子さんの結婚式披露宴篇

(それでは、みなさん、ご起立をお願いします)

時は1613年10月28日(慶長18年9月15日)、ドン・フリッポ・フランシスコ=支倉常長一行は、宮城・石巻の月の浦港から、木造船・サンファンパウティスタ号に乗り、ヨーロッパを目指しておりました。それがまさしく慶長遣欧使節団でございます。

支倉常長率いる慶長遣欧使節団の一行は、まさに月の浦港から出帆せんとする際に、君主である伊達政宗公が三国一の武将たらんとする政宗の夢の実現の祈願を込め、これから行います「伊達の一本締め」を行ったとのことですよ。

「三国一」とは、日本、中国、天竺(インド)のことで、まさしく世界に伊達政宗の名を轟かせようと集った仙台藩士の想いが込められているのであります。

松島の円通院にも代々傳承されるといわれるこの「伊達の一本締め」をこれより、私・畠山が執り行わさせていただきます。

その前に、まずはみなさんで練習してみましょう。

(さて、この中で伊達の一本締めを知っている人は〜〜と呼びかけ盛り上がる)

まずは、肩幅に足を広げてください。それでは三国一ですので、「サンイチ」で締めます。

さあ、練習です。「いよーおっ、ポポポン、いよーおっ、ポン」。

続いて本番です。たまにリズム感がない方が100人中1人ぐらいいますが、その場合は次回に向けて居残り特訓になりますよ(笑)。

### 「伊達の一本締めえ〜」

時は2012年5月26日となりました。

庄司直人さんといく子さんの本日の結婚披露宴に出会った者同士、三国一の夫婦=全世界に名を轟かせる夫婦となることを祈念し、私・畠山茂陽が音頭取りとなり、伊達の一本締めで締めさせていただきます。

「それでは、みなさま、お手を拝借う」  
「いよーおっ、ポポポン、いよーおっ、ポン」。

ご両人、おめでとうございます。そして、みなさまありがとうございました。



「ツツケカタ」のポイント

🌸 なんだかんだと集いのめには、これをマネれば誰でもデキル。

※ちなみに伊達の一本締めには諸説あります。

# 札幌ビズカフェと Five Bridge

吉村 匠

ファイブブリッジと志を同じくする、  
と書いている北海道の「札幌ビズカ  
フェ」が誕生したのは、17ベンチャー  
のブームが全盛を極めた2000年6  
月のことでした。

当時は渋谷のビットバレーを筆頭に  
全国各地でITやバイオ分野の起業  
家を輩出する取り組みが沸き起ると  
ともに、それらの地域同士も活発に交  
流を進めていきました。ITやバイオな  
どハイテクノロジが90年代初頭の不  
動産バブル以来の社会停滞を打破し、  
社会を新しいフェーズに導くのではな  
いかという期待感から、関連株価が異  
様に上昇する状況になっていました。

しかし、2000年の秋から暮れに

とともに、全国に生まれた17ベン  
チャーコミュニティの活動も次第に衰  
退していききました。大変残念なこと  
でした。ただし、札幌と福岡を除いて。  
そして、さらに仙台ではビジネスだ  
けに限定せず、地域に革新をもたらす  
ベンチャー活動により幅広い視点で取  
り組むファイブブリッジが設立されま  
した。そのうえ、10年間も継続的に活  
動するという、東北人の粘り腰とい  
うか、しつこさというかを存分に見せつ  
けています。

さて、話は変わって最近話題の「A  
I人口知能」ですが、その向こうに  
は、全人類の知能の総和を一台の端末  
が超える技術的な特異点「シンギュラ  
リティ」への到達についての議論が散  
見されます。少し前までは「そのとき  
を迎えるのは2045年前後と言われ  
ていたのが、ここ最近では2029年と  
いう予測も出てきています（エ!! ま  
だ生きてるかも）。

そこでは「我々はすでにシンギュラ  
リティを回避することはできないし、  
シンギュラリティ以後の未来はAIが  
AIを瞬時に成長させる知のビッグバ  
ン状態となり、もはや人間が計画や予  
測しうる範疇のものではない」とする



**PROFILE** 吉村匠 (よしむらたくみ)

札幌ビズカフェのOB、1961年6月22日生  
まれ、A型、北海道上川郡和寒町出身  
小樽商科大学卒業後、北海道新聞社入社。現在は  
海外に北海道の魅力、コンテンツを海外に発信  
するクール北海道(株)に勤務。



## 『地域の場と人、NEWSづくり』オープンフォーラム2016 in 仙台

### プログラム

司会・進行 / 畠山 茂陽 (ファイブブリッジ)  
奥川 陽子 (フリーアナウンサー)

#### 第1部 プレフォーラム

11:00 ~ 12:00 (10:45 受付開始)

- 11:00 第13回「プログロックフェスティバル」世界大会
- 平間徹也さん (ざおうハーブ)
  - 若柳善美さん (100 グラード)
  - 須藤勝利さん (Growth)
  - 中谷祐次さん (リアルカレッジ)

12:00 「プログロックフェスティバル」終了

#### 第2部 メインフォーラム

13:00 ~ 18:30 (12:30 受付開始)

13:00 開会 オープニング、ブース出展者紹介

- 13:10 場づくりプロデューサー プレゼンテーション①
- プレゼンテーション Vol.1 「ファイブブリッジの10年～地域でのNEWSづくりの源」 畠山茂陽 (河北新報社)
  - プレゼンテーション Vol.2 「公私融合のススメ」 山田康人 (宮城県庁) ※映像出演

- 13:30 ゲストトークセッション① 「写真と映像で追う、ミヤギのワカモノの10年」
- スペシャルゲスト/石井力重さん (IDEAPLANT) 中山聖子さん (ハーベスト) 庄司直人さん (リード・サイン)
  - 土合和樹さん (フィッシャーマン・ジャパン・マーケティング)
  - 親方/畠山茂陽 女将/鈴木由貴さん (cafe Le Miroir D'eau)

- 14:10 場づくりプロデューサー プレゼンテーション②
- プレゼンテーション Vol.3 「学生と社会人がとろけ合う場の存在意義とは」 渡辺一馬 (ワカツク)
  - プレゼンテーション Vol.4 「コミュニティに集まる人々とのゆるやかなビジネス創造法」 鈴木圭介 (ミライトス)

- 14:30 ゲストトークセッション② 「地域活性から地方創生～そのカギとなるものは？」
- ◆ スペシャルゲスト/猪尾愛隆さん (ミュージックセキュリティーズ)
  - 津田祐樹さん (フィッシャーマン・ジャパン・マーケティング) 須藤勝利さん (Growth)
  - 親方/畠山茂陽 女将/矢内ちひろさん (フリーランス)

15:10 <休憩>

- 15:20 場づくりプロデューサー プレゼンテーション③
- プレゼンテーション Vol.5 「コミュニティスペース=大人の部屋のつかいかた」 漆田義孝 (メディアージュ)
  - プレゼンテーション Vol.6 「おいしいはしあわせな人とつながる拠点」 赤淵利恵 (飲料メーカー)

- 15:40 ゲストトークセッション③ 「震災復興と若者のたまり場づくり～学校の外にも部屋があった」
- ◆ スペシャルゲスト/iChitarinai) 根本 総一郎さん (メディアージュ) 五十嵐有沙さん (宮城大学4年)
  - 青木春隆さん (東北大学大学院理学研究科)
  - 登壇者/漆田義孝 女将/豊田亜美さん (東北学院大学4年)

- 16:20 場づくりプロデューサー プレゼンテーション④
- プレゼンテーション Vol.7 「ボクが」ターンをしたワケ」 佐々木敦斗 (038 プレス)
  - プレゼンテーション Vol.8 「震災後生まれた起業マインド」 佐藤大樹 (IKIZEN)

- 16:40 ゲストトークセッション④ 「ライスワーク&ライフワークのバランスワーク」
- ◆ スペシャルゲスト/加藤伊佐雄さん (河北新報社) 横山英子さん (キューオーエル) 山崎賢治さん (ハーベスト)
  - 親方/畠山茂陽 女将/早坂久美さん (プランニングルームMP)

17:20 場づくりオーナー プレゼンテーション「場のチカラ、人のチカラ、〇〇のチカラ」

- 米倉英俊さん (ソシラボ)
- 宗形晶子さん (ノラヤ)
- 中谷裕次さん (リアルカレッジ)
- 勝水与茶さん (INTILAQ)
- 坂上英和さん (コースター)
- 小島英弥夫さん (リノベーションプロデューサー)
- 伊藤理恵さん (alata)
- 平間拓也さん (わいわいハウス)

18:10 エンディングセレモニー (参加者紹介、メッセージ、記念撮影)

18:30 閉会

18:30~ 「大感謝なのに小パーティ」 @クレブスキュール・カフェ

#### 出展ブース 11:00 ~ 18:00

INTILAQ、話せ場 agora、ねこまた、iChitarinai、Coffee Fellows、あぐりどんと祭、サッカー漫画コンシェルジュ、フィッシャーマンジャパン、リアルカレッジ、広く告げる会、転勤族チーム、イツフェス、図書室オノマトベ、Alice in "WE" nderland、WEテアプカット隊、FB マンデー (ローカルメディアネットワーク、地域シゴトラボ、みやぎ食ひと交流サロン、アナタの企画プレスト委員会)、新聞つたえびと&いつぶりタイムズ、ノラヤ、メディアージュ、ワカツク、ミライトス、IKIZEN

風に乗って  
NEWSを生み出す、  
出世魚の大行進♪

6/18 (sat)  
第1部 11:00~  
第2部 13:00~  
せんだいメディアテーク  
オープンスクエア

入場無料

これまでの場づくりの10年を検証し、  
これからの10年の役割と未来を語る

# 地域の場と人 NEWSづくり

ビズカフェ仙台「FiveBridge」開設10周年記念

## オープンフォーラム2016 in 仙台

ファイブブリッジの生誕10周年を記念するオープンフォーラムを告げるチラシ。ちょっと背伸びをして、仙台メディアテークのオープンスクエアにて開催 (2016年6月18日)。



伊達武将隊の「松尾芭蕉」もボードゲームに興じた「iChitarinai」ブース。



10年目の大舞台ながら二日酔いのくたくだ進行です。



前代未聞!?メディアテークで寝転がれる「ノラヤ」ブース。



女将のいる対談。今だから書きますが、ホントにお酒入ってます。



畠山の上司、河北新報社加藤専務も登壇。「うちの会社にあなのような人は必要だ」と言わしめた。



打ち上げは5周年パーティーの会場でもあった、○だけで。

最後はみんなで理事長の畠山を胴上げ!



# ファイブブリッジ生誕10周年 記念フォーラム



# 焼き肉屋でアイデア会議

## FB10周年記念本作成に着手

来年6月に発足10周年を迎えるにあたり、ファイブブリッジでは、その記念本を作成することが決まった。2015年11月10日夜、メンバーは五橋北目町通り角に新しくできたシャレオッティナ（「おしやれな」焼き肉屋Carne Freccia（カルネフレッチャ））に集まり、掲載する内容についてのアイデア出しを行った。



### 記念冊子の中身のアイデア出し開始

対談参加者は、ファイブブリッジ理事長島山茂陽さんと運営メンバーの漆田義孝さん、赤淵利恵さん、鈴木圭介さん、IkiZenの齋藤由布子さん、ヒロッキーこと佐藤大樹さん、遅れて渡辺一馬さん。

10年の軌跡を振り返るにあたっては、なつかしい人や思い出の話題も続出。コンテンツ案もどンドンできて、なかなか楽しくも有意義な会議となった。

圭介 「はじめに」は必要だよな？  
やっぱ島山さんですかね（笑）

島山 えっ、書いていいんですか！

漆田 どんどん書いてくださいよ（笑）。コンテンツはどんなのがありますかね？

圭介 やっぱ、ごくり&ごかいの解剖！ 俯瞰図で説明するの。

漆田 なら、ノラヤのチラシみたいに、場所の縮尺模型作るのもいいですね。

利恵 いいねー。模型作りワークシヨップとかやってみたーい！

島山 昔の情報は当時mixiに結構入れてたから見返してみようかなあ。

利恵 あ、私mixiで毒吐てるかも（笑）

一同 エツマジ？

利恵 ふふふ

圭介 あとは、ファイブブリッジ語録。ファイブブリッジで独自に使われている言葉を載せるの。

島山 ファブペディアね。

由布子 ファブペディア（笑）

一馬 アフォードダンス性、セレンディピティ、ずんどこべるんちゃ

（笑）

島山 その点、新聞つたえびとに毎年載せてる流行語番付をさかのぼって載せるのはいいね。

圭介 あ、新聞つたえびとで思い出したけど、うるしーが昔書いてた連載小説も載せよう（笑）

島山 ペンネーム「まさる」ね。まさる事件ってあったなあ（笑）

圭介 今度、その小説も次に連載した「忘れ物をさがして」みたいに電子書籍にしとくよ（笑）

一馬 スイマセーン、JAPAN Xのカルビとロース、ハツ、とると

島山 ファイブブリッジの歴史を時系列で見せるのもいいんじゃない。

利恵 あ、いいかもー

島山 「黎明期」に始まって「喧嘩別れ期」とか「倦怠期」みたいな。

一同 いやいやいやいや（笑）

漆田 誰と誰が別れたんですか（笑）

圭介 うるしー、肉焼けたよ、はい。

漆田 ああ！ まだ焼けてないです。自分で取るので余計なことしないでください！

島山 そういう意味では、ファイブブリッジ前夜、みたいのがあるといいかもね。前日譚せんじつたん。なんかロックだよな。

漆田 なるほど、そしたら「あの人

ろスペアリブください。

由布子 頼むねえ。

一馬 飲んできたけど食べてないから（笑）

大樹 なんか音楽とか入れられないかな。けーすけさんのギターとかうるしーのドラムとか。

圭介 おっ、ヒロッキーのDJもいんじゃない？

利恵 あ、島山さんの詩吟も！

圭介 昔よく付録でついてた、赤いレコード、できないかな？

島山 ソノシートね。

由布子 私、高級レコードプレイヤーにかけて怒られてたよ（笑）

漆田 ソノシートはいま作ってることないみたいですけどね。

一馬 いやあ、こう考えると結構コンテンツ考えつくねえ。

島山 うん、結構厚くなるとして、部数1000部印刷すると金額どんなもんかな。

圭介 想定される感じでMAX50万円ってとこですかね。

島山 うっ…電子書籍でいいんじゃないかな…？

一同 いーんかーい（笑）

### 用語解説など…

**ノラヤ**  
元ファイブブリッジのシェアオフィス入居者、アートシステムファクトリーの宗形晶子さんが、青葉区木町通に作ったコワーキングスペース。コアなファンが集う貴重な場となっている。

**ファイブブリッジ**  
ファイブブリッジのFBマンデーやイベントに集まってくれた女性の総称。キレイな女性が多いらしい。比較的男が多いファイブブリッジにとっては、ファイブブリッジの存在は貴重である。初出は「新聞つたえびと」。

**まさる事件**  
いるは横丁にある居酒屋ゆきむらで、はちやの餃子の蜂屋和彦さんが、漆田義孝さんの名前を「まさる」と予想し一悶着となった事件。その後「まさる」は彼の「新聞つたえびと」の連載小説でのペンネームとなった。



お店では、ガンダルフもアイデア会議を見守っていた。



## 『いつも扉は、羽より軽い』

この街に、何かを残したい。  
活動できる場所を届けたい。  
仲間が挑戦する姿に手を貸したくなった。

自分たちに何ができるか。  
もつとおもしろい街にしてやる。

いくつもの世代、いくつもの思いが交差し、  
小さな結晶が生まれていく。  
仙台・五橋に小さな小さなアジトが生み出された。

この街に何かを残したい、この街に自分の存在を残したい。

思いを身ぶり手ぶりで、空間をみがく日々。  
伝わりそうで、伝わらない。  
だが、何回も何回も繰り返し返し、  
カタチになっていく。

まず、強く想うこと。  
その想いを仲間話す。  
共感する仲間が少しずつ少しずつ増えていく。  
賛同者とチャンスが現れる。  
自分たちの手で集め、自分たちで作った場所。

半月まではがらんどうの空き部屋。  
ついにアジトが生まれた。

時間を気にすることなく、熱く熱く議論できる場所。  
いろんな奴らがいるからいろんな衝突が生まれから、  
あふれるパワーが隆起する。

情報と人が予期せず出会い、そして予期せずつながる。  
ふらりと立ち寄って何かをつかむ。  
自然体のスペース。

あるひとりが掲げた高い志。  
その大きな帆にゆつくりと風が吹き込む。  
それは、やがて大きな力へ。

点つた灯は小さいけれど、  
闇夜の中で歩むべき方角がゆつくりと見えてくる。

人と人をつなぐ架け橋  
挑戦するあなたと出会うため、  
ファイブブリッジの扉は、  
いつも羽より軽い。

石井力重氏制作  
プロモーション動画



# ファイブブリッジで「いつでも、だれかと、つながれる。」

「たまり場」から生まれる絆づくりが、新たな価値や、多くのニュースを創造しています。

## ファイブブリッジって、なんだろう？

FiveBridgeは社会人有志で運営するコミュニティスペースとして、2006年6月にオープンしました。2009年8月には、NPO法人としてリニューアルオープン。地域活性化や人材育成、新たなニュースづくりを目指し、起業家や農家やサラリーマン、OL、学生などが世代や業種の垣根を超えて集い、語り合う「大人のajt」「大人の交流部室」です。



## どんなことを目的としているの？

シェアオフィス入居者やビジネスセミナー、各種イベントでの参加者との交流やビジネスマッチングにより、新たな価値やニュースの創造を促進・サポートすることを目的としています。

## ファイブブリッジから生まれた、いろいろなできごと

セキュリティ被災地応援ファンド	ブログロックフェスティバル	イツフェス	部活動や遊びと交流の場
東日本大震災後、仲間の企業をサポートすべくFBメンバーが集ったメンバーとの議論を通じて、「セキュリティ被災地応援ファンド」を生み出す場となりました。	毎年1月に開催する、朝から晩まで全参加者が「自分の思い」を発信する場です。身近な仲間に対する共感の輪が連鎖する、スーパープレゼンテーションの先駆けイベントです。	FBメンバーが中心となり、学生や企業、町内会と共同運営する、補助金に頼らない五橋公園での夏祭り。毎年8月のお盆前週の木・金曜開催。知り合いが倍増します。	非公認の部活動「FBユナイテッド(フットサル部)」やボードゲーム会「Chitarinai」など、楽しく活動しながら自由につながり交流する場が生まれています。

詳しくは、ファイブブリッジのホームページ・ブログ・Facebookページをご覧ください！

**FB会員メンバー募集中**

### ファイブブリッジ会員 (FB会員) メンバー大募集!!

ファイブブリッジの「これから」を共に創っていきましょう！

ファイブブリッジの理念・活動に共感いただける方は是非ご入会ください。セミナー参加費が割引になるなど、各種特典があります。お申し込み手続きは、スタッフへ直接お声がけいただくか、お電話・FAX・メール等でご連絡ください。

※ 会員規約等、詳細はホームページをご覧ください

ファイブブリッジ運営スタッフ

理事長: 富山 茂陽 (河北新報社)  
 副理事長兼事務局長: 山田 康人 (宮城県庁)  
 理事: 鈴木 圭介 (ミライトス)  
 理事: 漆田 義孝 (メディアージン)  
 理事: 工藤 治夫 (工藤電機)  
 理事: 石井 力重 (アイデアプラント)  
 監事: 渡辺 一馬 (ワカソク)  
 スタッフ: 赤淵 利恵

**FiveBridge** NPO法人ファイブブリッジ  
 itsudemo,darekato,tsunagareru.

☎ **022-721-6180** 【受付時間】 10:00~17:00 (土日・祝を除く)

〒980-0023 仙台市青葉区北目町4-7 HSGビル内  
 Tel : 022-721-6180 Fax : 022-721-6181  
 E-mail : info@five-bridge.jp

- 🌐 <http://five-bridge.jp>
- 🌐 <http://fivebridgeblog.da-te.jp>
- 🐦 [five\\_bridge](#) 📘 [FiveBridge](#)



※ お車で越しの方は、ファイブブリッジ前の有料駐車場をご利用ください

**FiveBridge** Since 2006  
 itsudemo,darekato,tsunagareru.

仙台・五橋にある、大人のための交流部室。

**1**

イツデモ 繋がれる!

毎週月曜日、夜に集う大人たち  
「FB マンデー」

大人が自由に語り合う場。  
社会人や学生、農家や子育て中の方も!

**2**

イツデモ 活かせる!

クリエイティブなオープンフロア  
創造スタジオ「ごくり」  
会議室&交流サロン「ごかい」

インターネット・電源完備&飲食OK!  
ミーティングやイベントの拠点に。

**3**

イツデモ 輝ける!

世界へ羽ばたけ! 熱き起業家たち  
「FB シェアオフィス」

魅力的な人との交流が生まれる!  
起業のスタートアップに最適です。

毎週月曜日の夜は「ごくり」にて、交流セミナーを開催しています。週ごとにディスカッションするジャンルや集まるメンバーが異なり、多様な感性が磨けます。地域を楽しみ、地域を盛り上げたい人ならどなたでも大歓迎! お気軽にご参加をどうぞ。

「ごくり(1階)」は、平日の日中はワーキングスペースのように自由に滞在できる空間として。夜や休日はイベント・セミナーが開催され、多様な職業・世代が集まる空間です。「ごかい(3階)」は、個人・団体の活動の場として、朝から晩まで自由度高く利用できます。

**週ごとのセミナー内容**

第1月曜 ローカルメディアネットワーク  
 第2月曜 宮城のこせがれネットワーク  
 第3月曜 みやぎ「食ひと」交流サロン  
 第4月曜 アナタの企画プレスト委員会

**各フロア設備**

ごくり(1階) テーブル(スクエア)6台/椅子(背もたれ有)16脚/椅子(背もたれ無)12脚/立食50人/ホワイトボード/無線LAN  
 ごかい(3階) ロの字15人/シアター形式20人/立食30人/ホワイトボード/無線LAN  
 ※ 利用料金はホームページをご覧ください

**シェアオフィス利用料**

1区画 20,000円/1ヶ月  
 2区画 40,000円/1ヶ月  
 (ともに共益費+5,000円)  
 ※ 消費税別途  
 複数区画 応相談

宮城・仙台の起業家たちが集い、将来の財産となる豊富な人脈が築け、出会いがあふれるシェアオフィススペースです。ファイブブリッジの魅力は一言ではあらわしません。まずは一度遊びにきて、その雰囲気を感じてみてください。

このチラシ掲載で「FBメンバー」500円OFF!  
 ※ 初参加者限定

# あとがき

山崎 賢治

ファイブブリッジができる前って、いったい何をしていたのだろうか。...

「部活に行ってください」。そんなノリで職場帰りに寄るファイブブリッジは、理想と現実、システムの不条理さに悶々とする職場を忘れ、自分の意図をまっすぐに追っている。気持ちのいい連中と酒を呑み、愉快な取り組みを企て、実践する。その中で新たな仲間を得て、さらに新たな企画が走り出す。まさに「オトナの部室」でありました。

現在、代表理事を務めている「NPO法人ハーベスト」も、そんな「部室」の中で育っていったプロジェクトの一つであります。

市民活動のためのパブリックスペースがある中で、ファイブブリッジ独自の「強み」はズバリ「無茶ができるトコ!!」。言い換えれば「人が集う場の力を最大限に引き出せるハコ」であるということであり、それを可能にしているメンバー相互の信頼で繋がっているメンバーシップが流れているという事ではないかと

感じます。

そんなファイブブリッジに流れる自由闊達な雰囲気や産む空気が魅力となり、さらに意図を持って生きようとするメンバーを引き付け、人々を繋ぐ架け橋の場となり、出会いが生み出す知恵やパワーを何度も体感できるパワースポットとなり、今日に至っているのだと思います。

P・F・ドラッカーの著作『ネクスト・ソサエティ』にはこんなくだりがあります。

「今日われわれに課された課題は、都市社会にかつて一度も存在したことのないコミュニティを創造することである。それはかつてのコミュニティとは異なり、自由で任意のものでなければならぬ。それであるが、都市社会に住む一人ひとりの人間に対し、自己実現し、貢献し、意味ある存在となり得る機会を与えるものでなければならぬ」

まさにファイブブリッジはこのコミュニティを体現していると強く感じています。「オトナの部室」での「終わらない放課後」は、まだまだ続いて行くのであります。

PROFILE | 山崎 賢治 (やまざき けんじ)



NPO法人ハーベスト代表理事 / 宮城県職員  
 1969年12月25日生まれ、A型、仙台市出身  
 山形大学人文学部卒、平成4年宮城県庁入庁・統計課・土木事務所勤務を経て岐阜県庁へ出向、(財)みやぎ産業振興機構に出向、実践経営塾等の起業家育成のスキームを立ち上げる。産業政策推進室時代にファイブブリッジの立ち上げに参加、宮城県教育庁出向時にNPO法人ハーベストを立ち上げる。農林水産部農業振興課を経て、現在は、震災復興企画部震災復興推進課勤務。  
 座右の銘：笑って棺桶

# NPO法人ファイブブリッジ 入会申込書

申込日 年 月 日

## 1. 会員情報

お名前 (団体登録の場合は代表者)		所属団体名 (勤務先)	
(ふりがな)		肩書き	
ご連絡先	郵便番号		
	住所		
	電話(自宅ot勤務先)	自宅	勤務先
	携帯電話		
	電子メールアドレス		
FB会員MLへの参加/誕生日	可・不可	/	誕生日= 年 月 日

## 2. 年会費 (いずれかをお選びください)

- 一般正会員 10,000円
  - 団体正会員 20,000円
  - 賛助会員 10,000円  回数
- あてはまる箇所にシ印をおつけください↑

## 3. お申込方法

入会をご希望の方は、この「入会申込書」をFAX、E-mailまたは郵便で下記の<お申し込み先>にお送りいただくか、スタッフに直接お渡しください。また、会費のお支払いは、下記口座にお振り込みください。

### <お申込先>

Five Bridge (ファイブブリッジ)  
 〒980-0023 仙台市青葉区北目町4-7 HSGビル3階 担当：畠山茂陽  
 TEL: 022-721-6180 / FAX: 022-721-6181 / E-mail: info@five-bridge.jp

### <ご入金口座>

※ゆうちょ銀行から振込の場合	※ゆうちょ銀行以外の金融機関から振込の場合
名義人：特定非営利活動法人ファイブブリッジ 記号：18120 番号：20902051	名義人：特定非営利活動法人ファイブブリッジ 店名：八一八(読み ハチイチハチ) 店番：818 番号：普通預金 番号：2090205

※恐れ入りますが、振込手数料はご負担いただきますようお願い申し上げます。  
 ※会員にお申し込みのお名前でお振込みいただきますようお願い申し上げます。

「入会申込書」にお書きいただいた個人情報は、事前説明の無い限りファイブブリッジ事務局からご本人へのご連絡以外に利用したり、第三者に提供したり致しません。ファイブブリッジの個人情報取扱に関するお問い合わせは、ファイブブリッジ(E-mail:info@five-bridge.jp)までお願いします。

# I LOVE YOU, OK!



写真・文・構成 / 佐々木のオッサンファン

## ココに、愛の種を、蒔くんだぜっ。

おう！ と呼ばれたら遅くからでも飲みに行く。売り子にもなるし、盛り上げ同行も喜んで。私がいる時は、仕事スイッチが入らないように見守る。

かわいい手下でしょ。おっさんは数あれど愛と尊敬を込めてオッサマと呼んだのは「オッサマ」だけ。

太く短く生きる。お揃いで買ったチームツナギは暫く1人で着ることになるから、「お湯割りロックで」先に乾杯していいですよ。

【オッサマファン・赤淵利恵】

飲みに行くのの一つとっても、新しい店や、縁のある店を応援してやろうという、そういう姿勢がおっさんの生き様そのものだったなと思います。「もつとこうしておけば…」なんて話をしたらキリがなく。いつも気にかけてくれて、そして何より一緒に場作りができて光栄でした。イツフェス！運営委員会では、私がおっさんの上司ですからね。今でも、これからです。

強がらずにもつと叱られておけばよかつたな。ありがとうございます。

【オッサンファン・漆田義孝】

「おう、俺は飲んでも飲まなくても、3千円だよな。」「〇はた」によく顔を出しては、帰りがけにこの言葉を言い放っていたっけ。

飲みに誘うとほぼ10割の確率で、「仕方ねえなあ、ハタケは」と快く付き合ってくれたものだ。なのに、私は誘われても3割ほどだったな。不義理な弟ですまぬ、オッサン。

「時間よ止まれ」とか「いつの日か」なんて無粋なことは言わないぜ。

「I LOVE YOU, OK」、オッサンを見做って、若者に人を愛する素晴らしさを伝えていくよ。

1月であっても、別れ際には…もちろん「また、来年！」だぜつ。

I LOVE YOU, OK!

【オッサンファン・畠山茂陽】



「佐々木のオッサン」こと佐々木昌人さん（キャリア支援ネットワーク）は、2016年7月30日に急逝されました。生前のご厚情に深く感謝するとともに、謹んでお悔やみ申し上げ、心からご冥福をお祈りいたします。

花咲くところ、夢見頃。



# Lemon verbena

Herbal tea

蔵王咲茶

Herbal Tea with freshening breeze from Mt.ZAO in Miyagi

## 表紙のコトバ

### 「エフビィ・ロード」

五ツ橋通りと北目通りがクロスする交差点をそう呼ぶ人がいるかどうかは定かではない。が、間違いなくファイブリッジに向かう際に通過する横断歩道がここなのだ。

その長い信号待ちの時間では、ファイブリッジでの出会いに一人ひとりの胸が鼓動するしているはずだ。

風薫る五月晴れの朝、ファイブリッジスタッフが集いこの道を歩いた。

多くの人々がこのスポットを「エフビィ・ロード」と称する日は、果たして来るのであろうか。



表紙の撮影会に、運営スタッフの山田康人と渡辺一馬は参加できなかったため、ふたりに敬意を表し、この写真で報告いたします。



## ファイブリッジ生誕 10 周年記念冊子 「オトナの部室のツツケカタ」

Publisher / Chief Editor  
島山 茂陽 Shigeaki Hatakeyama

Art Director / Senior Editor  
鈴木 圭介 Keisuke Suzuki

Designer  
渡辺 結芽 Yume Watanabe

Illustration  
赤淵 利恵 Rie Akabuchi

Editorial Staff  
漆田 義孝 Yoshitaka Urushida  
佐々木 敦斗 Atsuto Sasaki  
杉山 知子 Tomoko Sugiyama

Creative Director  
佐藤 大樹 Hiroki Sato

SPECIAL THANKS  
10 年間、ファイブリッジに集まってくださった皆さん！

発行・発売 / NPO 法人ファイブリッジ  
〒980-0023 宮城県仙台市青葉区北目町 4-7 HSG ビル内  
TEL: 022-721-6180 FAX: 022-721-6181  
E-mail: info@five-bridge.jp

WEB: <http://www.five-bridge.jp>  
Blog: <http://fivebridgeblog.da-te.jp/>  
YouTube: <http://www.youtube.com/user/FiveBridgeSendai>  
Twitter: five\_bridge  
FaceBook: FiveBridge

